

42791

教科書文庫

4
290
41-1909
20000 14581

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

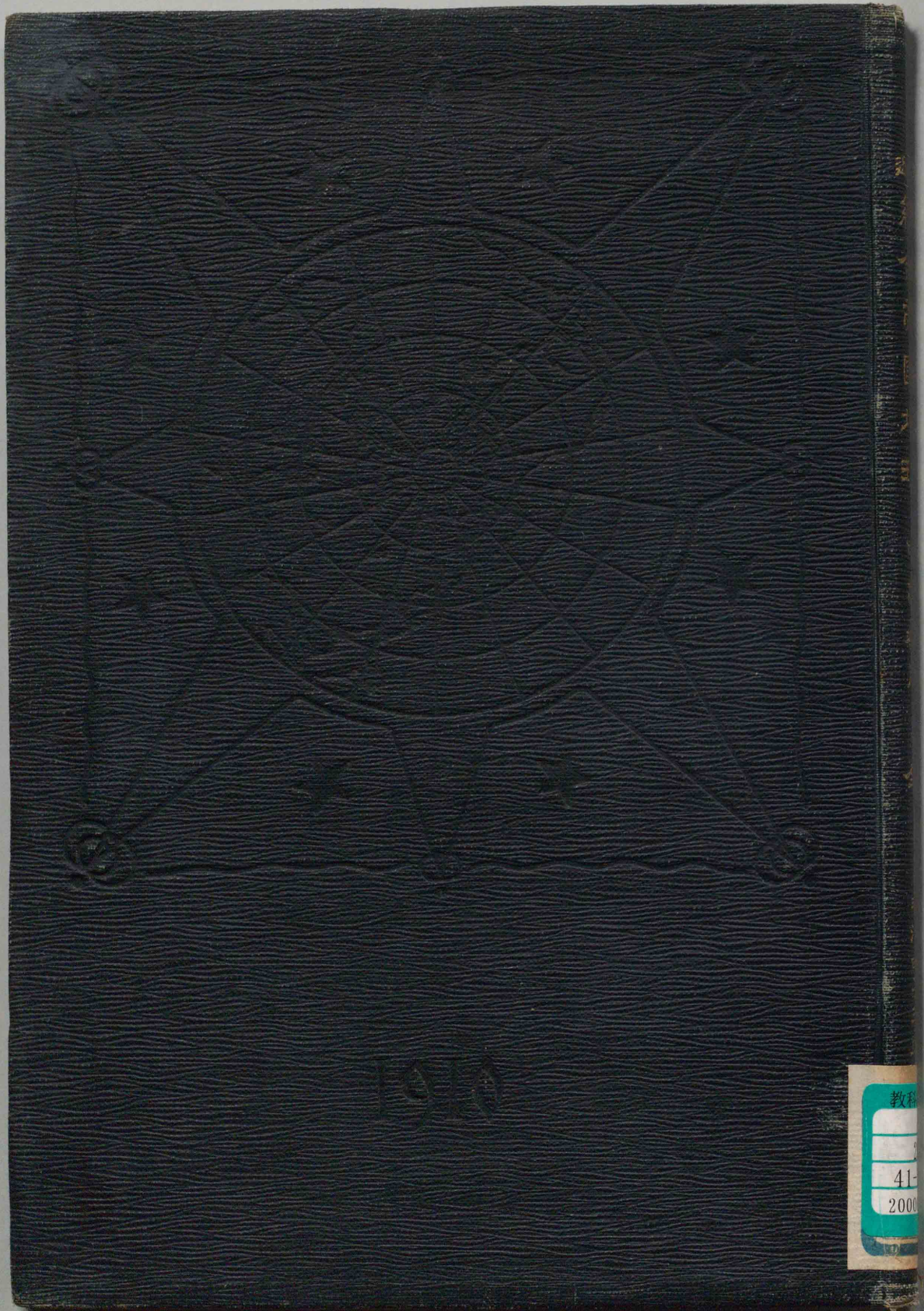
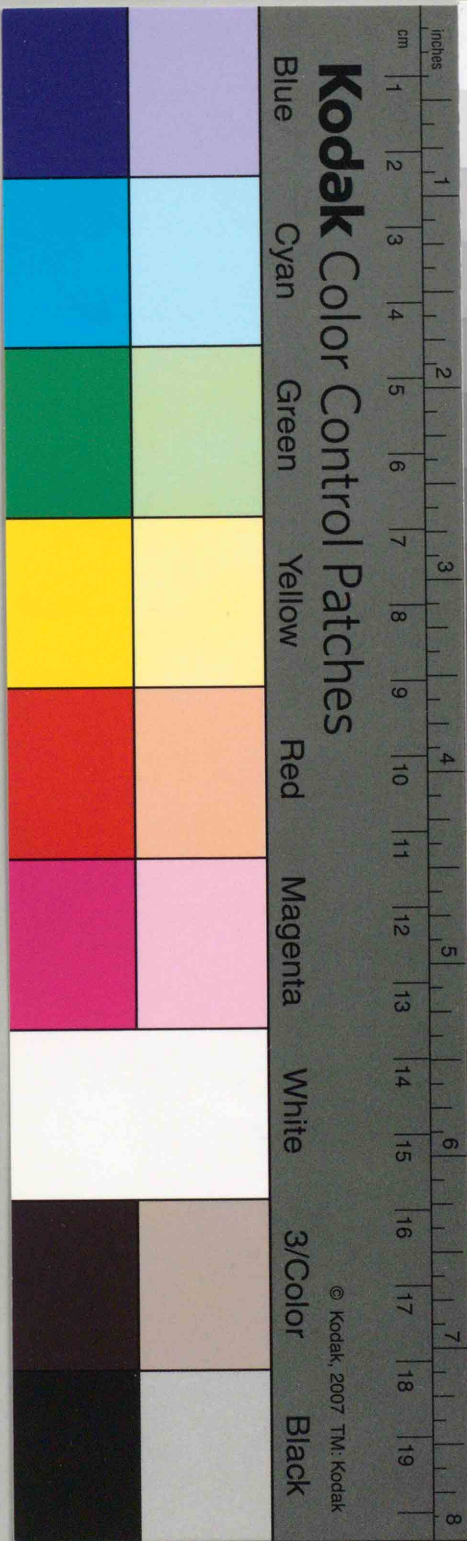


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科  
41-  
2000





教科書文庫

4

290

41-1909

2000014581



資料室

375.9  
Ya.13

文部省檢定濟

明治四十二年  
地理教科書  
中學校  
地科教科書

理學士山上萬次郎著

最新  
統一帝國地理  
中學校  
用

發兌  
大日本圖書株式會社

広島大学図書

2000014581





# 廣島大學圖書印

著 郎次萬上山 士學理  
書科教圖地及理地合統近最

師範學校用	女學校用	帝國地理	外國地理	帝國地理	外國地理	帝國地理	外國地理	中學校用
一學年用	全四冊	全一冊	全二冊	全一冊	全三冊	全一冊	全三冊	全五冊
二、三學年用	全二冊	全一冊	全二冊	全一冊	全三冊	全一冊	全三冊	

THE STUDENT'S ATLAS OF THE WORLD	女學校・師範學校 女學校・實業學校	中學校・師範學校 中學校・實業學校	帝國地理	外國地理	帝國地理	外國地理	實業學校用
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全二冊	全三冊



14581

## 最近 統合帝國地理 中學校用 目次

### 上篇 帝國地理總說(上)

第一章 位置及び面積	一
第二章 地形	二
第三章 近海	九
第四章 氣候	一一
第五章 天産	一四
第六章 住民	一八
第七章 交通	二五
第八章 政治	三一
中篇 帝國地理地方誌	三九
第一章 關東地方	三九

目次



第二章 奥羽地方……………五八

第三章 本州中部地方……………七一

第四章 近畿地方……………九〇

第五章 中國地方……………一〇九

第六章 四國地方……………一二一

第七章 九州地方……………一二八

第八章 臺灣……………一四六

第九章 北海道……………一六〇

第十章 樺太南部……………一七二

下篇 帝國地理總說(下)―産業……………一七八

結論……………一九一

最近 統合帝國地理 中學校用 目次終

最近 統合帝國地理 中學校用 挿圖版目録

一 日本帝國全圖……………一頁に對す	一七 中等教育の進歩……………二二	三四 關東平野の一部……………四〇
二 列國面積比較……………二頁	一八 神宮……………二三	三五 湖面の高低……………四一
三 帝國各大部面積比較……………二	一九 大井川古今の交通……………二四	三六 九十九里濱の地引網……………四二
四 大山系及び大火山脈……………三	二〇 親不知(其の一)……………二五	三七 信越線アプト式鐵道……………四二
五 富士の裾野……………五	二一 同(其の二)……………二五	三八 東京市電車線路畧圖……………四三
六 利根川の下流……………七	二二 鐵道線路の長さ……………二六	三九 東京市及び附近畧圖……………四四
七 等距海岸線畧圖……………八	二三 急流と筏流し……………二七	四〇 東京市凱旋道路……………四五
八 北海道近海の海流と水産の分布一〇	二四 汽船帆船の噸數……………二八	四一 總武鐵道市内高架線……………四五
九 根室海岸附近の冬季氷上釣魚……………一二	二五 郵便物の増加……………二九	四二 小金井玉川上水路……………四六
一〇 樺太南岸結氷中の碎氷船大禮丸……………一三	二六 銚子の無線電信局……………三〇	四三 小笠原島の植物景……………四七
一一 臺灣の榕樹……………一五	二七 府縣面積比較(其の一)……………三二	四四 横濱港の棧橋……………四八
一二 國境の落葉松林……………一六	二八 同(其の二)……………三三	四五 五十年前の横濱……………四八
一三 人口の増加……………一九	二九 國債及び歳出の増加……………三四	四六 横濱港の貿易……………四九
一四 大都會人口の増加(其の一)……………二〇	三〇 地方債及び地方歳出の増加……………三五	四七 犬吠岬の燈臺……………五一
一五 同(其の二)……………二〇	三一 師管及び海軍區……………三七	四八 大宮の鐵道機關車庫……………五二
一六 普通教育の進歩……………二一	三二 關東地方畧圖(其の一)……………三九	四九 榛名富士及び榛名湖……………五三
	三三 同(其の二)……………三九	五〇 足尾銅山の鐵索……………五四



五一	足尾銅山坑口の一例	五五
五二	筑波山	五六
五三	筑波山上の湖侯所	五六
五四	奥羽地方畧圖	五八
五五	鳥海山	五九
五六	岩手山	六〇
五七	猪苗代湖の疏水	六一
五八	松島の一部	六三
五九	釜石鐵山	六五
六〇	三本木牧場	六七
六一	小坂鐵山	六八
六二	能代貯木場	六八
六三	薄荷	六九
六四	月山	七〇
六五	本州中部地方畧圖	七一
六六	淺間山	七二
六七	大井川下流の河床	七二
六八	富士川の富士	七三
六九	大雪の長岡市街	七三
七〇	天龍川の鐵橋	七四
七一	新潟港の入口	七五
七二	四山の油田	七五
七三	長野市及び川中島	七七
七四	新輕井澤	七八
七五	諏訪湖の氷結	七八
七六	桂川の發電所	七九
七七	富士附近畧圖	八一
七八	三椏	八一
七九	名古屋港畧圖	八三
八〇	名古屋港の棧橋	八三
八一	長良川の鵜飼	八四
八二	都邑の高低	八五
八三	黒部川の網渡し	八六
八四	能登半島の輪廓	八七
八五	兼六園	八八
八六	敦賀港	八九
八七	近畿地方畧圖	九〇
八八	大阪市畧圖	九一
八九	熊野川の瀨八町	九一
九〇	大阪築港の棧橋	九二
九一	大阪安治川口	九三
九二	勢多川	九四
九三	琵琶湖の簷	九五
九四	京都市及び附近畧圖	九六
九五	琵琶湖の疏水	九七
九六	天ノ橋立	九八
九七	大阪の街路	九九
九八	造幣局	一〇〇
九九	大和主要社寺の分布	一〇一
一〇〇	畝傍山	一〇二
一〇一	鳥羽港	一〇三
一〇二	眞珠貝	一〇四
一〇三	紀伊川の筏	一〇五
一〇四	神戸港	一〇七
一〇五	神戸港の貿易	一〇七
一〇六	中國地方畧圖	一〇九
一〇七	江川の下流	一〇九
一〇八	島根半島の海岸	一一〇
一〇九	備後糸崎港	一一〇
一一〇	尾道瀨戸	一一一

一一一	莫塵織	一一二
一一二	宇品港	一一三
一一三	宇品港畧圖	一一三
一一四	嚴島神社	一一四
一一五	徳山の煉炭所	一一五
一一六	山口の龜山公園	一一六
一一七	下ノ關海峡	一一六
一一八	大山	一一七
一一九	宍道湖	一一八
一二〇	瀬戸内海畧圖	一一九
一二一	大久野島燈臺	一二〇
一二二	四國地方畧圖	一二一
一二三	祖谷の蔓橋	一二一
一二四	鯉釣り	一二二
一二五	鯉船の歸り	一二二
一二六	撫養の鹽田	一二三
一二七	鳴門の潮流	一二三
一二八	高松市を隔てて屋島を望む	一二三
一二九	別子鐵道	一二四
一三〇	四坂島製煉所	一二六
一三一	珊瑚採收船	一二七
一三二	九州地方畧圖(其一)	一二八
一三三	同(其二)	一二八
一三四	阿蘇山	一二九
一三五	球磨川	一二九
一三六	筑豊炭田畧圖	一三〇
一三七	三池炭坑	一三〇
一三八	八幡の製鐵所	一三一
一三九	門司港	一三二
一四〇	三池港畧圖	一三三
一四一	三池港の棧橋	一三三
一四二	唐津港	一三四
一四三	長崎港の位置	一三五
一四四	長崎港	一三六
一四五	三菱造船所	一三六
一四六	水前寺	一三八
一四七	九州鐵道の螺旋線路	一三九
一四八	別府溫泉場	一四〇
一四九	耶馬溪	一四〇
一五〇	青島	一四一
一五一	鹿兒島市を隔てて櫻島を望む	一四三
一五二	奄美大島の物置	一四四
一五三	沖繩人	一四五
一五四	那覇の市場	一四五
一五五	臺灣畧圖	一四六
一五六	新高山	一四六
一五七	濁水溪の竹橋	一四七
一五八	宜蘭の市街	一四八
一五九	生蕃	一四九
一六〇	隘勇線	一五〇
一六一	轆	一五一
一六二	檳榔樹林	一五二
一六三	水牛と耕作	一五三
一六四	甘蔗の運搬	一五四
一六五	臺灣内地間貿易及び外國貿易	一五五
一六六	淡水港の位置	一五六
一六七	臺灣神社	一五六



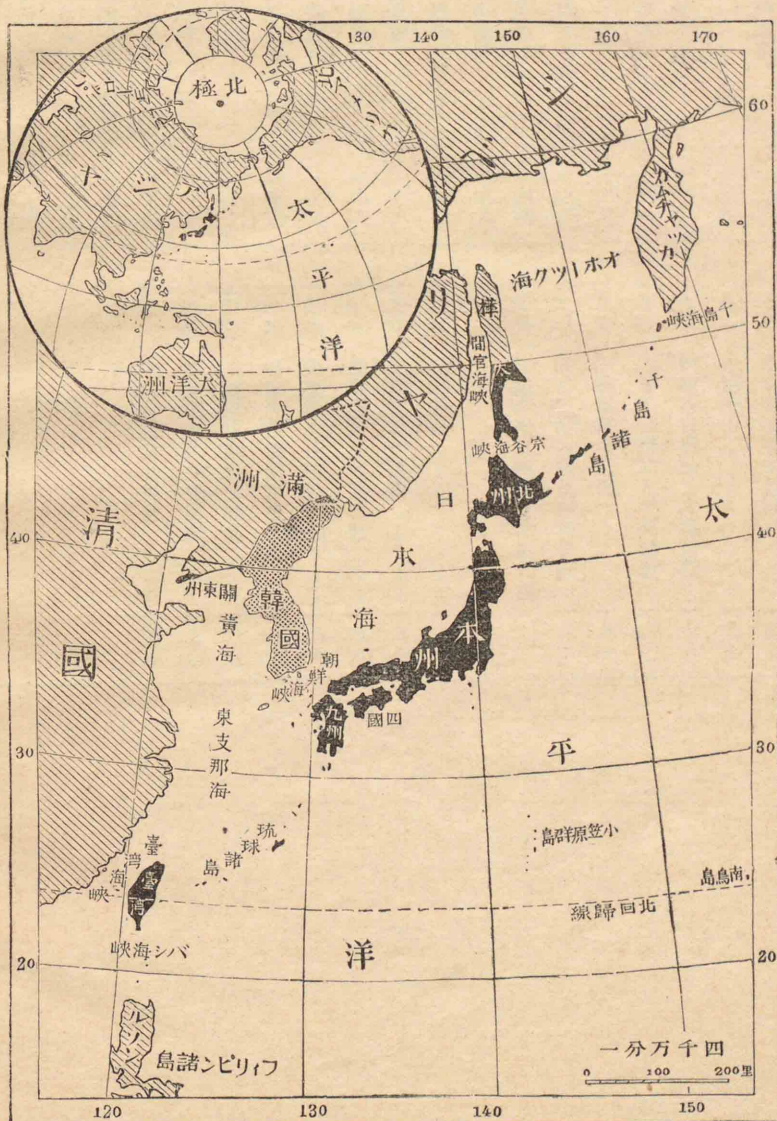
一六八 阿里山森林鐵道……………一五八  
 一六九 媽宮……………一五九  
 一七〇 北海道畧圖……………一六〇  
 一七一 神居古潭の急流……………一六一  
 一七二 大沼公園……………一六二  
 一七三 北海道のアイヌ人……………一六三  
 一七四 北海道の馬橋……………一六四  
 一七五 函館港鯨の陸揚……………一六六  
 一七六 五稜廓の氷切り……………一六七  
 一七七 札幌市街畧圖……………一六八  
 一七八 小樽港の位置……………一六八  
 一七九 小樽港の防波堤……………一六九  
 一八〇 濱中の昆布乾燥……………一七〇  
 一八一 樺太南部畧圖……………一七二  
 一八二 樺太のツンドラ……………一七三  
 一八三 幌内川の流水……………一七三  
 一八四 樺太の海流と水産の分布……………一七四  
 一八五 ギリヤーク人……………一七五  
 一八六 樺太の輕便鐵道……………一七五  
 一八七 雪中の犬橋……………一七六

一八八 海豹島の臘胸獸群……………一七七  
 一八九 大泊港……………一七七  
 一九〇 内地人口増加と米麥産額……………一七八  
 一九一 内地人口増加と牛馬頭數……………一八〇  
 一九二 製絲業地の狀況……………一八一  
 一九三 石油の輸入額及び産出額……………一八二  
 一九四 綿絲の産出額及び輸出入額……………一八四  
 ………………一八四  
 一九五 日本銀行……………一八六  
 一九六 外國貿易の進歩……………一八七  
 一九七 主要輸出品の輸出額……………一八八  
 一九八 主要輸入品の輸入額……………一八八  
 一九九 輸出入主要國及び物品……………一九九  
 二〇〇 主要開港場及び物品……………一九九  
 二〇一 主要開港場の貿易額……………一九〇  
 別刷 日本帝國地形畧圖 二頁に對す



東京帝國大學  
圖書印

第一圖  
日本帝國全圖。



最近  
統合帝國地理 中學校用

山上萬次郎著

上篇 帝國地理總說(上)

第一章 位置及び面積

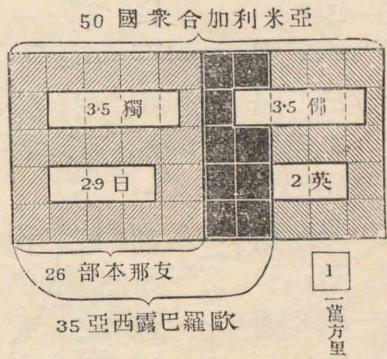
一、位置。我が大日本帝國は、亞細亞大陸の東岸に沿ひ、三箇の弓形を成して、太平洋の北西を限り、約一千二百里の間に亘れる一大列島より成り、世界最長の海國なり。

我が國は樺太に於ての外、何れも、地續きの所更になし。

二、面積。我が國を成せる諸島中、殊に大なるは、本州、北海道、本島、九州、臺灣、四國の五大島及び樺太南部なり。その他、周回一里以上の島、約四百に達す。通じて、我が國の總面積



第二圖。列國面積比較。單位一萬方里



第三圖。帝國各大部分面積比較。單位一千方里

は、全土の約二分の一を占め、北海道本島九州臺灣四國順次これに次ぎ、樺太南部は、略臺灣に等し。又、我が國は、韓國を保護し、關東州を租借し、南滿洲鐵道附屬地を經營す。これ等の面積總計、約本州に等し。

三、概説。狹長なる邦土の全體を通じて、數

第二章 地形

は、約二一萬九千方里あり。

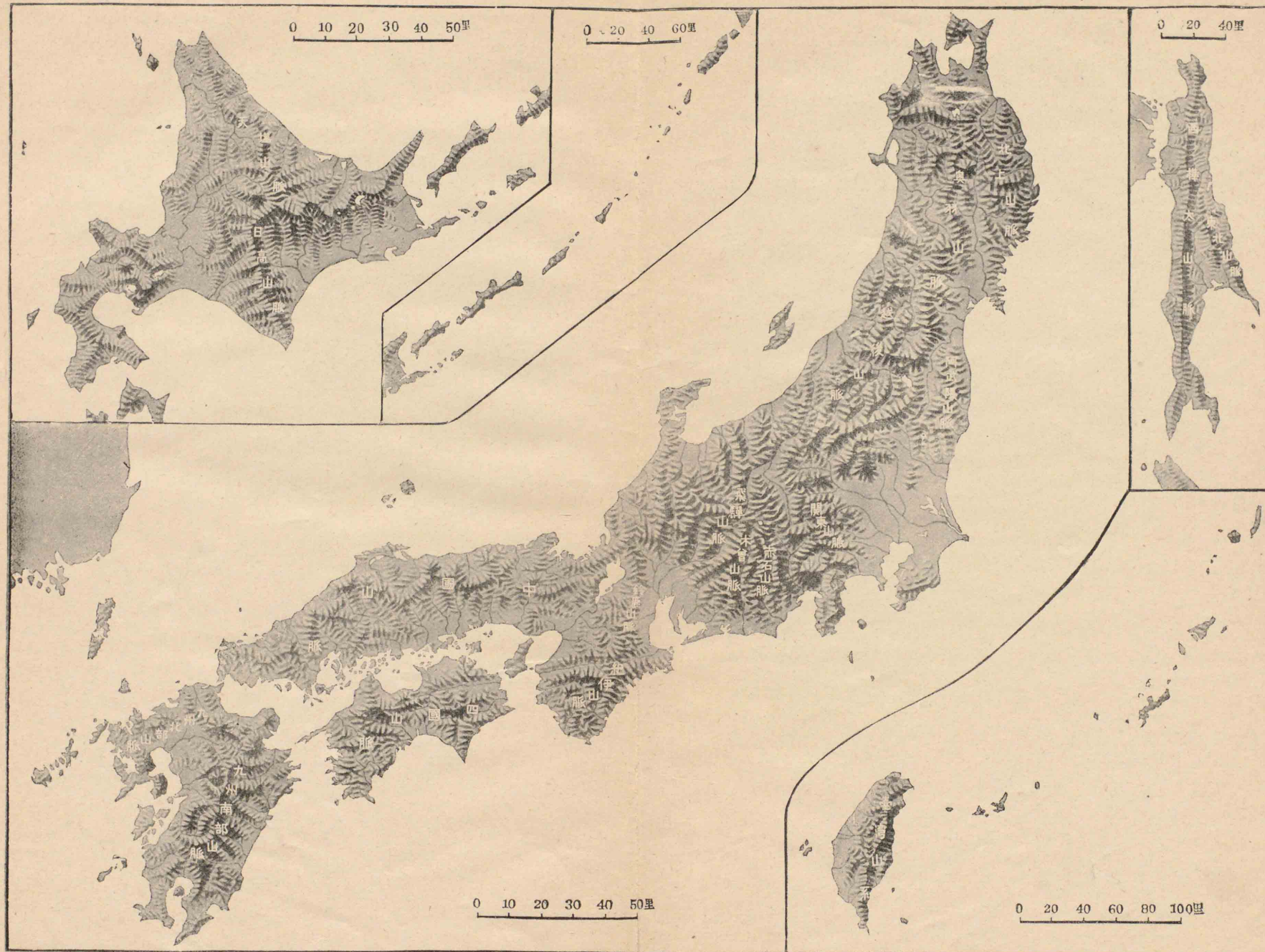
我が國は、決して小國に非ず。其の本國のみに就いて云はば、英國より遙に大にして、獨佛二國と大差なし。唯、清露米等、面積上の大國に比すれば、甚だ小なり。五大島中、最も大なる本州

其他諸島	四國	樺太南部	臺灣	九州	北海道本島	本州
350	180	2060	2320	2620	5080	14570

□ 千方里



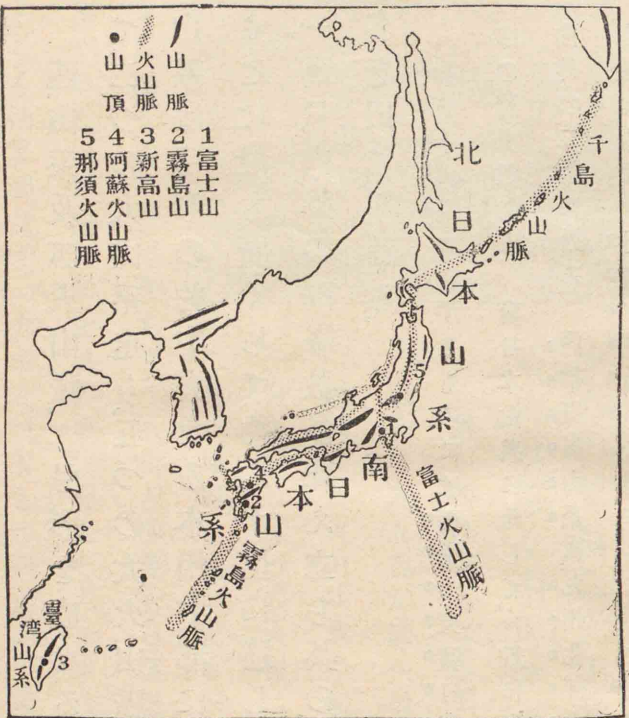
日本帝國地形圖





山名の左側の数字は高さを示す。(單位尺)

第四圖。大山系及び大火山脈。



多の山脈走り、火山脈貫けり。故に、國內到る所、山多く、平地少く、土地の傾斜、概ね急なり。山には、本州の富士山、臺灣の新高山等、世界の高山の中に數へらるるものあれども、平野は、概ね海岸、河岸の一部に、狹長なる地域を占むるに過ぎず。河にも、著き大河なく、且、概ね急流なり。然れども、海岸の出入に富めること、世界に比少

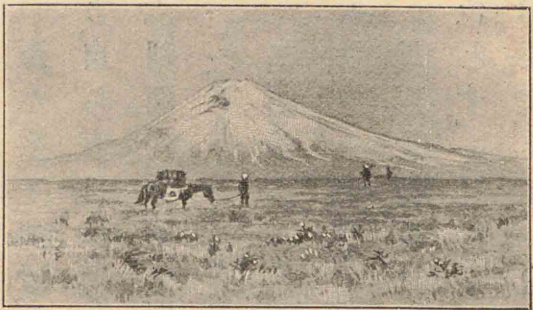


し。

四、山系及び火山脈。弓形を成せる我が國の大體を通じて、二つの大山系走り、五つの大火山脈貫けり。これ等二大山系は、弓形の約中央なる本州中部に相會せり。邦土の幅ここに最も廣くして、約六十里に達し、地形亦最も高くして、一萬尺内外の高峯、數多聳え立ち、其の一部は、日本アルプの名を以て呼ばる。

北日本山系に屬するものには、西樺太、天鹽、日高、北上、阿武隈、奥羽、越後、關東等の諸山脈あり。南日本山系に比して、一般に高峻ならず。南日本山系は、内外の二帯に分る。内帶、崑崙山系に、九州北部、中國等の諸山脈あれども、皆高峻ならず。外帶、支那山系に屬するものは、九州南部、四國、紀伊、赤石、飛驒等の諸山脈にして、本州中部に於けるもの、最も高峻を極め、所謂日本アルプは、其の一部にあり。又臺灣には、別に、臺灣山系あり、極めて高峻なり。

第五圖。富士の裾野。



五、大火山脈は、千島、那須、富士、阿蘇、霧島にして、概ね邦土の弓形に沿ふ。獨り富士火山脈は、二大山系の接合部附近を通じ、南は、遠く南洋諸島に至る。

我が國は、有名なる火山國なり。火山の數二百以上に達し、我が國に於ける名山は、概ね火山なり。高峻なる火山は、長く裾野を引き、山勢優美なるを常とす。裾野の大部は、概ね水利を缺き、灌木疎生せる原野を成せども、又、其の一部は、牧場となり、往々開墾せられたる所あり。火山と關係ある温泉は、全國に亘りて、其の數亦甚だ多く、山間僻地に都邑の發達を促したるもの、少からず。我が國は、又有名なる地震國なり。火山と地震とが、我が國土國民に及ぼせる影響は、甚だ大なり。且、近時、我が國は、火山學、地震學の進歩を以て、世界に名高し。



富士火山脈を以て、我が國を二分し、これより北東を北日本、南西を南日本と稱す。又、邦土の弓形中、太平洋に向へる本州の凸面を表日本(外帶)と云ひ、日本海に向へる凹面を裏日本(内帶)と云ふ。

五、水系。河は、多く中央の山脈に發して、兩側の斜面を下り、自ら、表日本・裏日本の二大斜面に分れ、更に、細別せば、次の六斜面に分屬す。

一、オホーソック海斜面例、幌内川。

二、太平洋斜面例、利根川。

三、東支那海斜面例、筑後川。

四、日本海斜面例、石狩川、信濃川。

五、瀬戸内海斜面例、淀川。

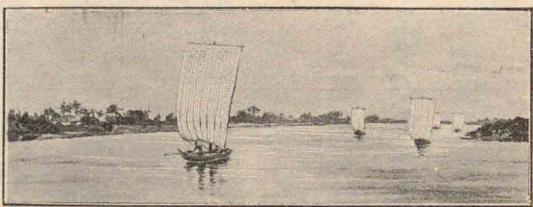
六、臺灣海峽斜面例、濁水溪。

地形上、何づれの斜面の河も、概ね小にして、急流なるを特色とす。且、時々大雨俄に降り、河水多くは一時に出水し、水害頻繁なり。然れども、又、我が國の河は、水力灌漑の利に於

第六圖。利根川の下流。

て、益する所、甚だ多く、中には、著名なる平野を開き、肥沃なる盆地を有するものあり。交通・生業の發達、都會の分布、多くは河筋に沿へるを常とす。

利根川、信濃川、石狩川の如きは、邦土の幅稍廣き所にあり。下流舟運の利大にして、沿岸に、關東、越後、石狩の諸平野を成す。又、木曾川の下流に、濃尾平野、淀川の流域に、畿内平野あり。これ等の外、山脈の間を並走せる、北上川、阿武隈川、吉野川(四國)等は、皆沿岸に著名なる平野を控ふ。



湖も、概ね小なれども、其の數と種類とは、甚だ多く、近時、其の水力の利用、次第に盛んなり。

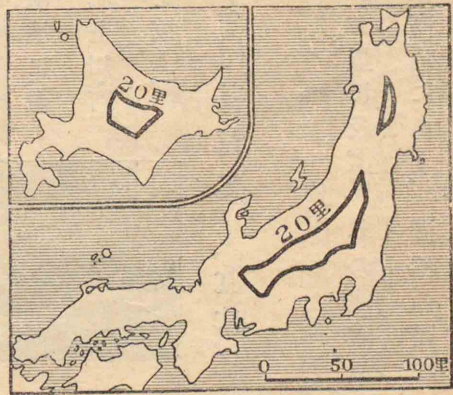
湖の最も大なるは、琵琶湖にして、面積約四十五方里に及ぶ。其の他、霞浦、八郎潟等は、低地に湛へ、猪苗代湖、蘆湖、諏訪湖等は、高地にあり。湖沼の高地



にあるものは概ね火山又は盆地と密接なる關係を有す。

六、海岸線。我が國は、大小無數の島より成り、海岸線の發達、極めて著し。海岸線の總延長は、七千八百里に餘り、海岸より二十里を隔つる内地は、至て少し。これ等海岸線の性質は、背後の地形、附近の氣候等と相待つて、我が國各部の發達を促せしこと、甚だ大なり。

主要なる海峡は、國防上大切な位置を占め、多くは堅固なる要塞の設けあり。又岬は、洋中に突出して、氣象國防、交通、水産上、關係甚だ多く、主要なるものには、燈臺、測候所、海軍望樓等の設けあり。本州中、裏日本は、海岸線の發達著しからず。これ從來、裏日本の進歩稍後れたる一原因なり。



第七圖。等距海岸線略

第三章 近海

七、領海。我が國は、弓形を成せる列島より成れるが故に、領海の區域、甚だ廣く、且大陸との間に圍める海灣の要所を占め、殆ど太平洋上、北西部の制海權を握る。

八、海面及び海底。我が國の近海は、オホーツク海の一部を除き、冬季氷結することなく、又北海道近海は、濃霧屢起り、日本海は冬季、臺灣海峡は四季、概ね風波荒けれども、航海の杜絶するが如きことは、極めて稀なり。

近海の中、本州の北部より千島諸島の東方に至る太平洋の部分は、甚だ深くして、タスカロラ海床の名あり。其の最も深き所は、二萬八千尺に達す。これに次ぐは、小笠原島と琉球諸島との間にある太平洋の部分と、日本海の一部なり。オホーツク海、又これに次ぐ。東支那海、瀬戸内海及び間宮



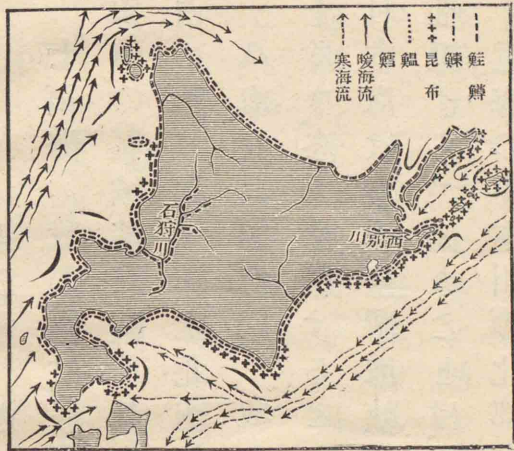
宗谷・朝鮮・臺灣の諸海峡は、甚だ淺し。

海底の隆起僅に百尺にして、北海道本島の北端は樺太に、二百尺にして、澎湖諸島は清國に、四百尺にして、對馬は韓國に、地續きとなるべし。然れども、陸地に接近せる部分にも、甚だ深き所あり。駿河灣の最も深き點は、六千尺

を超え、又、潮流急なる鳴門海峡は、海底深く削られて、六百尺に達する所あり。

九、潮汐。潮汐の昇降は、太平洋

沿岸に、平均約八尺に達すれども、日本海沿岸には、平均約二尺に過ぎず。九州の有明海に於ては、十八尺に達し、佐渡に於ては、僅に一尺のみ。従つて、所によりては、干潮に大なる干潟を生じ、(例、有明海、



第八圖。北海道近海の海流と水産の分布。

或は、潮の干満に際して、著き潮流を起し、(例、鳴門)近海の航路、港灣の設備に、大なる影響を及ぼすことあり。

一〇、海流。海流は、海中を流るる河の如きものにして、潮流とは、全く異れり。日本近海、特に重要なるは、黒潮・日本海流の暖流及び、親潮・千島海流の寒流にして、氣候及び水産上の影響、少からず。殊に、黒潮の鰹、親潮の昆布は、最も著し。黒潮の流るる近海は、高温多雨にして、又、これ等寒暖二流の相會する所は、濃霧多し。

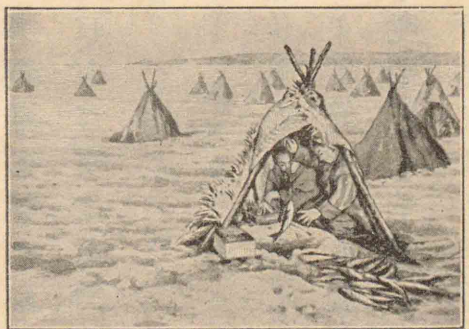
第四章 氣候

一一、概説。我が國の大部は、北温帯に位し、四面環海の地なれば、氣候良好にして、雨量に富み、生物よく繁殖し、人體の健康に適せり。然れども、國土の位置、緯度殆ど三十度に亘り、且、地形の變化、海流の影響、大陸との關係等により、各部の



第九圖。根室海岸附近の冬季海上釣魚の垂る氷面に釣針を穿ちて釣る。

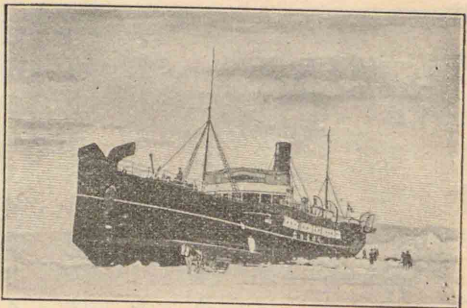
氣候、一ならず。  
一、二、氣溫。氣溫は、概ね南より北に減じ、等溫線は、従つて畧東西に走る。内地の平均溫度は、十度乃至十五度にして、同緯度にある對岸の大陸部に比して、寒暑の差甚だ少し。



我が國最寒の地は、北海道本島の東部・内部と、樺太南部とにして、平均氣溫攝氏五度を超えず。最低氣溫は、零下四十五度に降りしことあり。最熱の地は、臺灣南部にして、平均氣溫攝氏二十四度に位し、平地には、霜雪を見ず。

樺太の海岸は、冬季三箇月間氷結す。北海道以北は、寒暑の差稍大にして、夏季は、高溫に昇ることあり。唯、酷暑の季節短く、且朝夕は、常に冷涼なり。

第一〇圖。樺太南岸結氷中の丸の碎氷船大禮。



一、三、雨量。我が國は、四面海にて圍まれ、高き山其の中に聳えて、濕氣を遮ぎり、雨量甚だ多し。雨量の最も多きは、高温にして、海風を受くる臺灣の北東部、九州、四國の南部、本州の南端等にして、雨量の最も少きは、山にて圍まれたる瀬戸内海、本州内地に位する長野縣、氣溫の低き北海道、樺太南部等なり。

長野縣の内地に位して雨量少きは、養蠶業の盛大なる一因を成し、瀬戸内海の山に圍まれて、雨少く、晴天多きは、製鹽業の發達を促し、北海道樺太の暑季短く、雨量少きは、米作の普及を妨げ、本州北部以北の降雪は、交通上特殊の設備を必要とす。

一、四、風向。我が國は、概ね夏は、南東風多く、冬は、北西風多



し。又、夏・秋兩季には、暴風屢吹き、殊に二百十日・二百二十日頃、即ち、稻の實を結ぶ季節に多く、これを農家の厄日と稱す。冬季、裏日本は、北西風を受けて、雨雪多く、殆ど毎日太陽を見ざる所あり。殊に、北越地方の高峻なる山脈は、此の風を遮りて、冬季、裏日本の一部に、深雪地を作り、越後の長岡・高田等に於ては、積雪一丈以上に達す。これに反して、表日本は、冬季多く晴天なり。

梅雨。六月頃には、弱き低氣壓相次ぎて起り、連日曇天にして、微雨多く、物に微を生ず。これを梅雨と云ひ、田植の季節なり。又、甘藷の植付も、挿木も、必ず、この季節に限りて、これを行ふ。北海道及び奥羽の北部と、臺灣とは、前記低氣壓の範圍外にして、梅雨を生ぜず。

### 第五章 天 産

一五、植物。我が國は、雨多く、地肥え、高山聳え、海洋繞ぐり、其の地域、熱帶より寒帶附近に跨れるが故に、植物の種類、甚

第一圖  
臺灣の榕樹。



だ多し。即ち、臺灣には、氣根を生ずる榕樹の外、杉・羅漢松・蒲葵・檳榔樹・林投樹等、熱帶性の植物、よく茂り、甘蔗畑は、甚だ廣く、香蕉・鳳梨等は、特色の果實なり。本州に入れば、溫帯性の植物ありて、南部に櫛、北部に榲を特色とし、松・杉・扁柏の美林あり。南部には、甘藷と柑橘、北部には、馬鈴薯と苹果とを特色とし、又、中部には茶、中部以北には桑の栽培盛んなり。進んで、北海道の中部以北に至れば、白檜・榎松の如き寒帯性のもの、林を成す。又、全國の大部を通じて、水田甚だ多し。これ、夏季の高温多雨なるは、米作に適する一原因にして、臺灣には、年二回の收穫あり。

樟は、臺灣の稍高地に多く、我が國に特有なるものにして、殆ど世界樟腦の



第一二圖。樺太國境の落葉林。林空は日露兩國境界劃定の爲めに作られたるもの。



性の植物より、寒帯性の植物を認め得べし。

一六、動物。我が國は、動物の種類に富み、中にも、昆蟲の種類多きことは、世界に比少く、中國・近畿地方の鮠魚は、世界の

原料を獨占す。九州の南部、紀伊土佐の南岸にも、これを見る。九州の南方なる大島には、野生の蘇鐵あり。奥羽の中部以北には、竹藪を見ず。千島の極北には、海岸の平地に偃松あり、他に著き樹を生ぜず、夏季は、草一面に生ずるのみにして、寒帯性の特色を呈す。斯くの如き植物の分布は、同一の地にもありても、土地の高低によりて存在し、臺灣の高山には、よく此の特色を備ふ。又、内地に於ても、富士山・御嶽等の高山に登るときは、順次温帯

兩棲類中、最大のものなり。古來拓殖の結果、猛獸は、極めて少し。

我が國に於ける動物の分布は、植物の如く、南北及び高低によりて、著き差異を見ざれども、亦自ら變化の少からざるを見る。即ち、北海道の熊、四國の猿、琉球のハブ、臺灣の蝟等野生のもの外、有用家畜には、臺灣に水牛、其の以外に牛・馬等あり。水産動物は、表日本の近海に、鱈・鯉・鱒等あり、多くは、暖流に乗りて來る。又、北海道近海には、鯨・鮭の産多し。海獸も、亦南北によりて、差異あり。即ち、南部に鯨多く、樺太島の近海には、鰐・豚獸の棲所あり。

一七、鑛物。我が國は、地質の變化多く、従つて、鑛物の種類に富み、石炭・銅・硫黃の産、殊に多し。石炭は、東洋第一の産額を有し、殊に、九州・北海道に多し。銅の産額は、世界第五に位



し、殊に、本州の北部及び四國に多し。硫黄の産額亦少からず、殊に北日本の火山地方に多し。近時、裏日本の石油、著く産額を増加して、輸入を減少するに至れり。金銀の産多からざると、鐵鑛に乏しきとは、遺憾とする所なり。

有用石材には、火山岩、花崗岩、凝灰岩等あり。火山岩、凝灰岩等は、殆ど到る所に多く、花崗岩は、本州西部に分布廣し。陶土亦甚だ多く、殊に、花崗岩の分解に成れるものは、本州の中部に多し。花崗岩は、多く白砂青松の美景を作り、又、最も石材に適し、且、分解によりて、往々砂鐵を生ず。中國地方は、其の適例なり。

### 第六章 住民

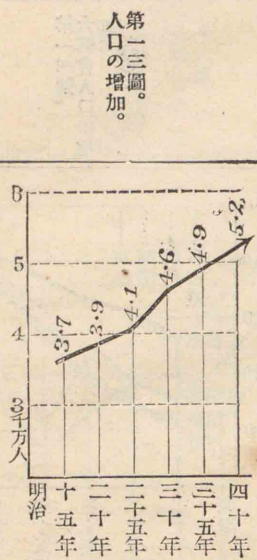
一八種族。我が國民の最多數は、大和種族に屬す。大和種族は、歴代の天皇の聖徳を仰ぎ、其の愛撫を蒙り、融和して、一團の民族を成し、言語・風俗・習慣を一にし、忠君・愛國の精神

に富む。然れども、往々公德を缺き、忍耐力に乏しく、小成に安んずるを缺點とす。

此の外、臺灣には、臺灣漢族、臺灣蕃族あり。又、北海道、樺太南部には、アイヌ族あり。臺灣漢族は、純粹なる支那人にして、我が領有以前、支那より移住せるものなり。臺灣蕃族は、支那人移住前より、臺灣に據れるものにして、馬來人種に屬し、概ね慍悍なる未開人種なり。アイヌ種族は、もと、廣く國內に擴がりしが、今は、北海道及び樺太の所々に、殘存するのみ。

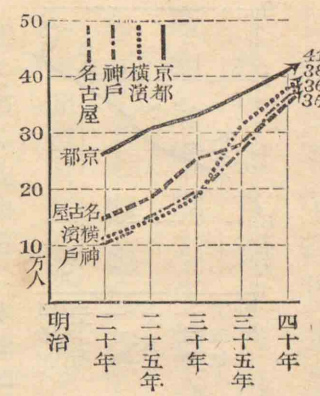
一九人口。我が國の人口は、明治十五年には、約三千七百萬人に過ぎざりしに、以來、次第に増加し、且、領土の擴張により、現在は、約五千二百萬人に達せり。

人口の密度は、一方里につき、全國の平均、約一千八百人にして、世界列國中、白耳義和蘭英國の





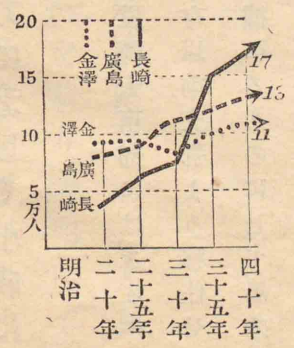
第一四圖。大都會人口の増加。其の一。



第一五圖。同。其の二。

三國に次ぐ。各地方中、人口最も密なるは、關東近畿の各約四千人、最も疎なるは、樺太を除き、北海道の約二百人なり。我が國は、從來、農業國なりしを以て、都會割合に甚だ少く、人口の約八割は、村落に住す。然れども、近時、商工業の發展と共に、人口は、次第に都會及び其の附近に集中し、又大なる市は、接續町村を合して、次第に大都會となる傾向あり。關東・濃尾近畿の三平野及び九州北部に其の例多く、殊に、政治上、實業上の中心、大開港場、軍事上の大輸送地、炭田の中心等となれる都會は、人口の増加、特に著し。横濱・神戸・名古屋・長崎・廣島等の諸市に、人口の増加急激なるは、これ等の原因による。

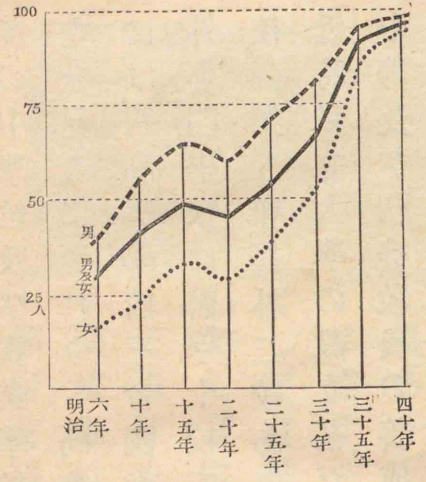
我が國人口の増加は、頗る急激にして、毎年約五六十萬人なり。此の割合を以



て進まば、我が國の人口一億に達するは、七十年を待たざるべし。故に、北海道・樺太への移住と、海外への殖民とは、最も奨励すべし。

海外移住は、年々増加し、岡山・廣島・山口・熊本四縣の人、特に多し。海外在留邦人は、三十萬人を超え、韓國・ハワイ・米國本土に、最も多く、清國これに次ぐ。我が國に在留する外國人は、僅に二萬に満たず。其の中、清國人最も多く、英米二國の人、これに次ぎ、主として、横濱・東京・神戸に住す。

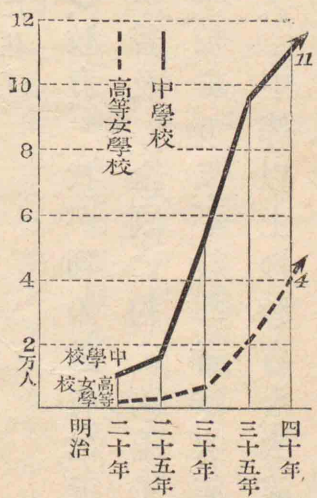
第一六圖。普通教育の進歩。學齡兒童百人中、就學者の歩合。



二〇、教育。我が國の教育は、近時大に普及し、全國に約二萬七千の小學校ありて、不就學者は、次第に減ず。中等以上の教育も、次第に盛大となり、北海道各府縣に數



第一七圖。中等教育の進歩。生徒数の増加を示す。

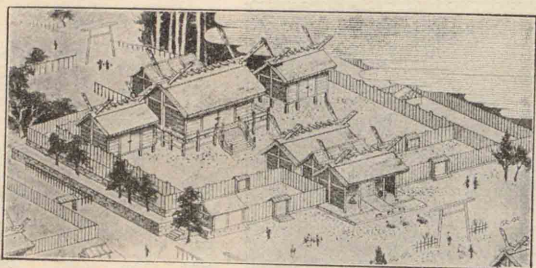


多の中學校及び實業學校の設立を見るに至れり。高等教育には、八高等學校、三帝國大學の外、専門學校に、醫學十校、工業七校、商業五校、農林二校あり。又、近時、私立大學の設立、甚だ多し。中等及び初等教員の養成には、高等師範學校、女子高等師範學校各二校、及び北海道府縣に、一校以上の師範學校あり。又、陸海軍人の教育には、陸海軍大學校、陸軍士官學校、海軍兵學校等あり。華族の教育には、學習院あり。臺灣には、國語學校、公學校、小學校等、特別なる教育制度、よく備はれり。近時、東洋諸國、特に、清國の留學生、甚だ多く、又、我が教育家の、東洋諸國に招聘せられたるもの、少からず。

女子教育は、近時次第に盛んにして、不就學の女兒は、大に減じ、又、公私立の高等女學校、各種技藝學校の設立、甚だ多し。

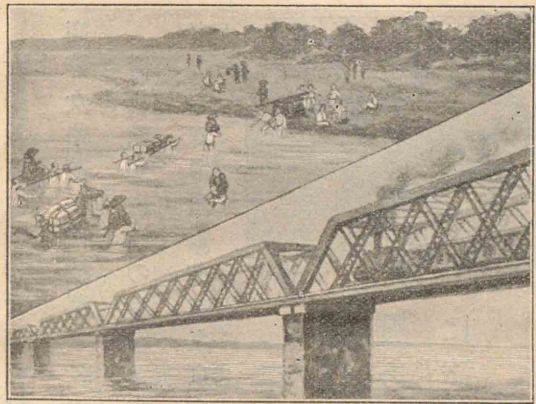
博物館、圖書館の設備、圖書新聞の刊行は、外國に比して、大に劣れり。唯、東京にある帝國圖書館、東京、京都、奈良の三帝室博物館のみ、規模稍大なり。

二一、神社。大和種族は、皇祖・皇宗の靈を奉祀し、氏族の祖先、勳功、忠節の士等を祀る風あり。従つて、神社甚だ多く、殆ど二十萬に達す。神社の階級を社格といふ。大別して、官幣社、國幣社、府縣社、郷社、村社、無格社とし、官幣社には、別に國家に偉勳を建てたる人臣を祭神とせる、別格官幣社あり。官國幣社は、歴史上の關係により、畿内、特に、京都府及び奈良縣に最も多し。



第一八圖。神宮。





第一九圖。大井川古今の交通。

伊勢の神宮は、普通神社の外に立ち、國家の崇敬、極めて厚く、大事には、必ず奉告の式を行はせらる。又、伊勢參宮は、古來、全國人民盛んにこれを行へり。  
二、宗教。現今、我が國に弘く行はるる宗教に三つあり。一、神道は、我が國固有の教義に基きて起れるものにして、大社教、黒住教、天理教等を始めとし、數多の派に分る。二、佛教は、眞宗、曹洞宗、眞言宗、淨土宗、臨濟宗、日蓮宗、天台宗等、數多の宗派に分れ、全國寺院の數は、七萬を超え、其中、本山の名あるものは、古來、帝都の所在地たる近畿、特に、京都府に最も多し。三、現今行はるる基督教は、主として、維新以後の布教に係り、信徒は、東京、仙臺、其

の他、長崎、神戸、横濱等の開港場に多し。

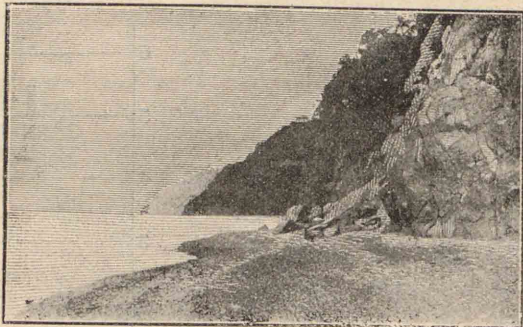
### 第七章 交通

二、陸路。維新後、道路を開き、橋梁を架し、鐵道を敷き、馬車、人車等の交通機關大に備はりしが、山間の内地には、今尙、蔓橋を架し、駕籠を用ひ、交通不便なる所、少からず。

陸路の運搬に

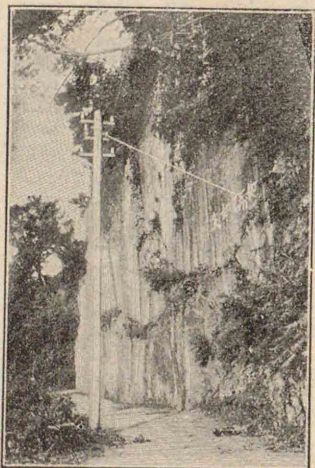
は、又、牛車、馬車等

あり。牛車は、近畿以西に多く、大阪府、兵庫縣にて、全國の三分の一を有す。又、人力車は、都會の地に多く、東京、大阪二府にて、全國の三分の一を有すれども、漸次減少す。



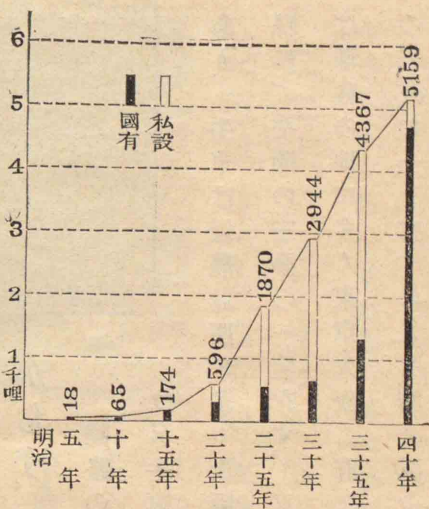
第二〇圖。親不知。其の一（舊道）新潟縣より富山縣に至る沿岸にあり。

第二一圖。親不知。其の二（新道）





第二圖。鐵道線路の長さ。



方に及ぶ。近時長足の進歩をなしたるは、汽車鐵道にして、延長五千哩を超え、概ね國有となれり。然れども、地形の峻峻なる爲めに、悉く狹軌にして、且、概ね單線なれば、速度、輸送力、共に、歐米諸國のものに劣れり。

鐵道線路の最も集中せるは、首府たる東京附近、名所多き京阪附近、石炭の大産地たる九州北部の三箇所なり。特に、東京附近の一部及び東海道線の

道路には、國道・縣道・里道の別ありて、稍整頓せり。

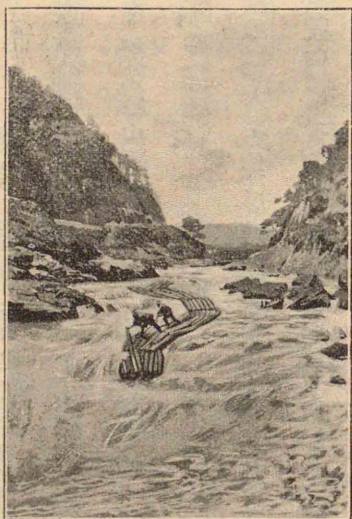
近時、電車の發達盛んにして、東京・京都・大阪の如き、大都會に於ては、市の内外を通じ、街路の外觀と、市民の生活とに、著き變化を與へ、尙、漸次、全國の主要地

殆ど全部は、交通最も頻繁なるを以て、複線の設けあり。我が國の鐵道は、輸送上、通常旅客を主とし、貨物を従とすれども、九州北部と、北海道及び常磐線等、炭田地方のものは、貨物を主とし、旅客を従とす。

鐵道の幹線は、北は、北海道の釧路、南は、九州の殆ど南端に達し、全長約二千哩、津輕下關二海峡には、聯絡船あり。此の間を旅行するに、約五日を要す。

又、此の幹線は、下關と釜山間、敦賀・ウラジオストク間、長崎・大連間の聯絡船によりて、滿韓・西比利亞の鐵道に聯絡す。

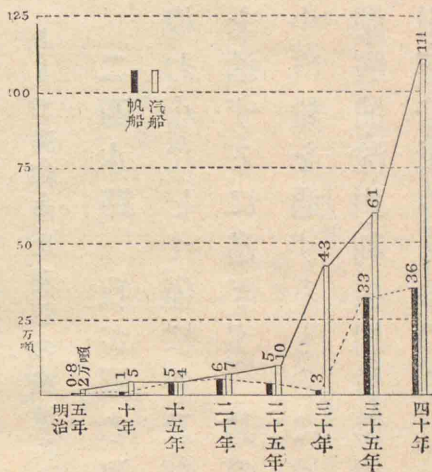
二四、水路。我が國の河・湖は、概ね小にして、僅に筏及び小舟を通ずるに過ぎず。其のよく小汽船を通ずるものには、琵琶湖・霞浦・淀川・利根川・信濃川・北上川・石狩川等あるのみ。



第二三圖。急流と筏流し。(丹波保津川)



第二四圖。汽船帆船の噸數。



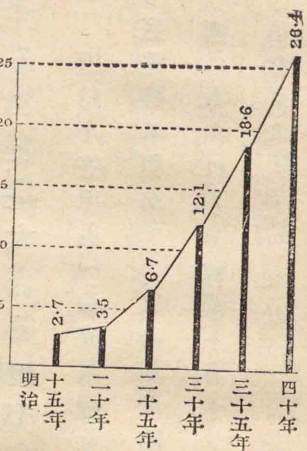
海運は、日清・日露の兩役後、政府の保護・獎勵によりて、其の進歩殊に著く、船舶は、約六千四百隻、百六十萬噸に達せり。

海運の盛大に伴ひ、造船の進歩甚だ著く、船渠の設備は、次第に完全を極め、大船の製造と修理とに、支障あるを見ざれども、港灣の設備は、横濱・神戸の二港に於てすら、不十分にして、背後の聯絡殊に不完全なれば、近時其の改良に従事せり。

水路交通の大中心は、神戸・横濱の二港にして、長崎・門司・大阪・下關の四港、これに次ぐ。水路交通の大機關は、日本郵船大阪商船の二株式會社なり。

日本郵船株式會社は、内國及び東洋の主要諸航路の外、ボンベイ線・濠洲線

第二五圖。郵便物の増加。人口一人に付の郵便物の噸數。



航路の安全を計りて、燈臺・浮標・霧笛等の設け、次第に多く、全國燈臺の總數、約百四十に達す。

二五、郵便・電信・電話。郵便は、明治四年に始まり、明治十年、萬國郵便聯合に加入し、今は、全國、到る所、其の設けあり。

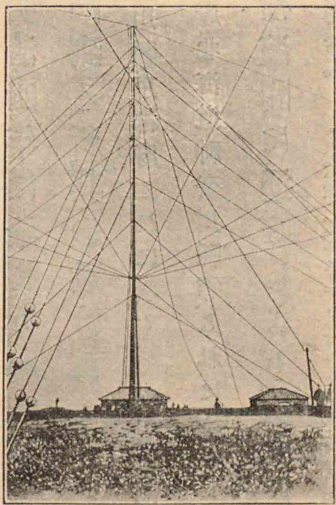
郵便物は、東京府最も多く、大阪府・神奈川縣・京都府これに次ぐ。又、人口一人當に就いては、東京府第一にして、大阪府・北海道・神奈川縣等、これに次ぐ。電信は、明治二年、始めて東京・横濱間に通ぜしより、次第に發達し、今は、殆ど到る所、これを通ず。且、海底電線は、次第に

郵便物數 (人口一人當)  
東京 一〇三・九  
大阪 六〇・三  
北海道 五二・〇  
神奈川 三三・四  
北陸 三三・二  
廣島 三三・二



第二六圖。銚子の無線電信局。

延びて、北は樺太、南は臺灣に至り、且、近海の主要諸島を連ぬ。其の海外に通ずるものは、九州より上海、釜山及びウラジオストクに、臺灣より對岸の南清に達し、近時、大連、芝罘間の線も開通せり。又、商業上、軍事上必要なる岬角に、無線電信局を設けて、近海を航する主要船舶に、音信を通じ、航海の便利を感ずること、益大なるに至れり。



近時、小笠原島へ海底電線を通じ、グアム島を経て米國に通ずる太平洋海底電線に聯絡す。又、臺灣、清國、福建省間及び大連、芝罘間のものは、共に、我が國の有なれども、韓國、上海、ウラジオストク等に通ずるものは、丁抹の大北電信會社に屬す。

電話は、明治二十三年、始めて架設せられ、次第に盛大となり、今は、主要なる都會には、概ね、交換局あり。又、主要都會の間に、長距離電話を通ず。

### 第八章 政治

二六、統治。我が國は、開闢以來、萬世一系の天皇の統治し給ふ所にして、其の國體は、世界に冠たり。國務大臣は、輔弼の責を負ひ、帝國議會は、立法に協賛し、樞密顧問は、諮詢に奉答す。

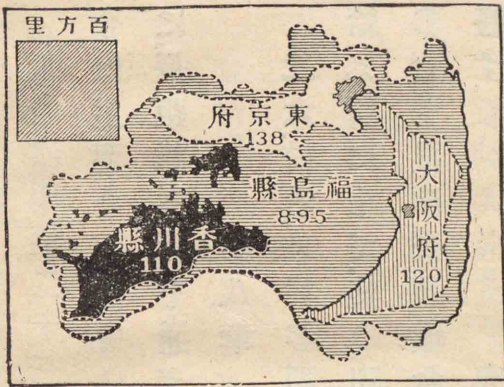
帝國議會は、貴族院と衆議院とより成る。國務大臣は、内閣を組織し、内閣總理大臣は、其の首班にして、外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信の各省に、主務の大臣あり。會計検査院は、政府の會計を検査し、行政裁判所は、行政處分に對する訴訟を裁決し、又、宮内省は、帝室の事務を掌り、華族を監督す。



裁判所は、四級より成る。區裁判所、地方裁判所、控訴院、大審院これなり。最下級の區裁判所は、約三百の主要地方に、地方裁判所は、各府縣廳、樺太廳所在地と、北海道根室、函館、札幌の三箇所とに、控訴院は、東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、仙臺、函館の七箇所に、最上級の大審院は、東京にあり。又、臺灣には、特別なる司法制度を施行せり。

もと、全國を畿内、七道に分ちしが、維新の後、北海道を置き、畿内、八道、八十五國とせり。現時は、地方行政の爲めに、全國を分つて、三府、四十三縣、北海道、臺灣、樺太とし、府縣に知事、北海道、樺太に長官を置き、部内の政務を行はしむ。又、臺灣には、總督を置き、文武の政を行

第二七圖 府縣面積比較 其の一。



はしむ。

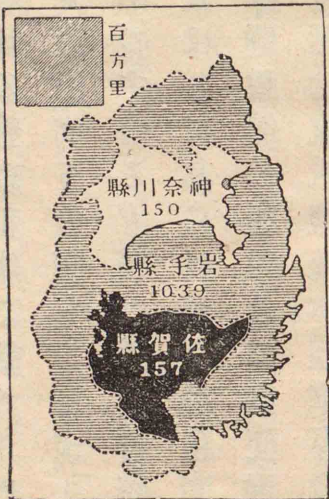
府縣を市郡沖繩縣は區郡に分ち、大なる市を區に分ち、郡を町村に分つ。市町村は、自治團體を成し、各公選せる長ありて、これを支配す。

各府縣の面積、人口は、共に、甚しき不同あり。人口の最も少きは、鳥取、沖繩二縣にして、面積最小、人口最多なるは、東京府、面積最大、人口最も疎なるは、岩手縣なり。

近時、國威の及ぶ所、益範圍を擴め、租借地たる關東州には、都督を置き、兼ねて、南滿洲鐵道線路を保護し、保護國たる韓國には、統監を置き、韓國の施政改善を圖る。

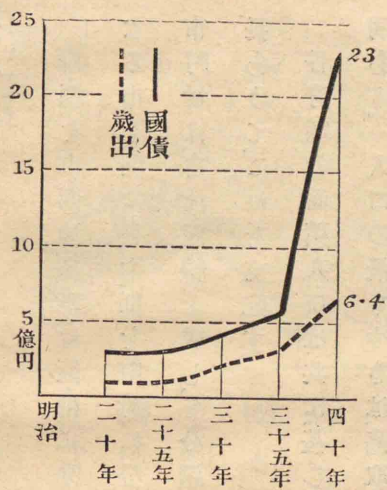
二七、外交。我が條約國は、二十四箇國に達し、世界の主要諸國中、我が條約國にあらざるものは、僅に、亞細亞洲の波斯

第二八圖 府縣面積比較 其の二。





第二九圖。國債及び歳出の増加。

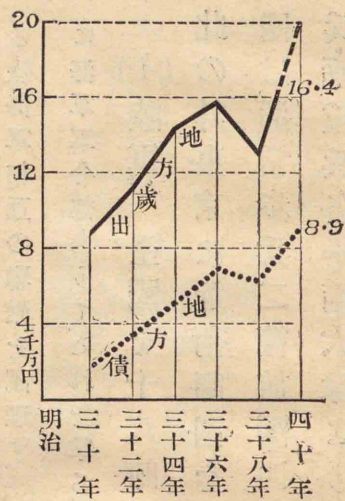


歐羅巴洲の土耳其等あるのみ。又、清・英・佛・獨・露・米の六國とは、最も密接なる關係を有し、特に、英國との同盟、佛・露・米三國との協約は、東洋平和の維持上、最も大切なり。

二八、財政。我が國の歳出は、日清戰役前までは、約一億圓なりしが、其の後、軍備の擴張、新事業の施設等と共に、次第に増加し、日露戰役の後、急に膨脹し、明治四十年度の歳入出豫算は、各約六億圓に達せり。近時、財政の整理、稍緒に就きたれども、歳出、尙、五億圓を下らず。

歳出の主なるものは、國債費、國防費にして、其の財源を地租、酒造税、關稅等の租稅、及び郵便、電信、電話の收入、鹽及び煙草專賣

第三〇圖。地方債及び地方歳出の増加。



益金等に仰ぐ。

我が國債は、日露戰役後、急劇に増加し、今は、内外債を通じて、二十五億圓を超ゆ。これを列國に比して、多きに過ぐるにはあらざれども、國民の負擔は、其の富力に比すれば、甚だ大なり。且、地方債も、非常に増加し、地方費の負擔も輕からず。殊に都市の發達に従ひ、上水、下水、其の他、衛生の設備、港灣の築造等、都市の爲すべき事業、甚だ多く、東京、大阪、長崎、横濱、神戸等の大市は、多額の公債を負ふに至れり。近時、財政の整理により、國債の償還を速にし、且、地方債も、亦漸次整理の途にあり。我が國民は、益勤儉産を治め、よく國費の賦課に堪へ、以て、戦後經營の効果を完全な



らしむべし。

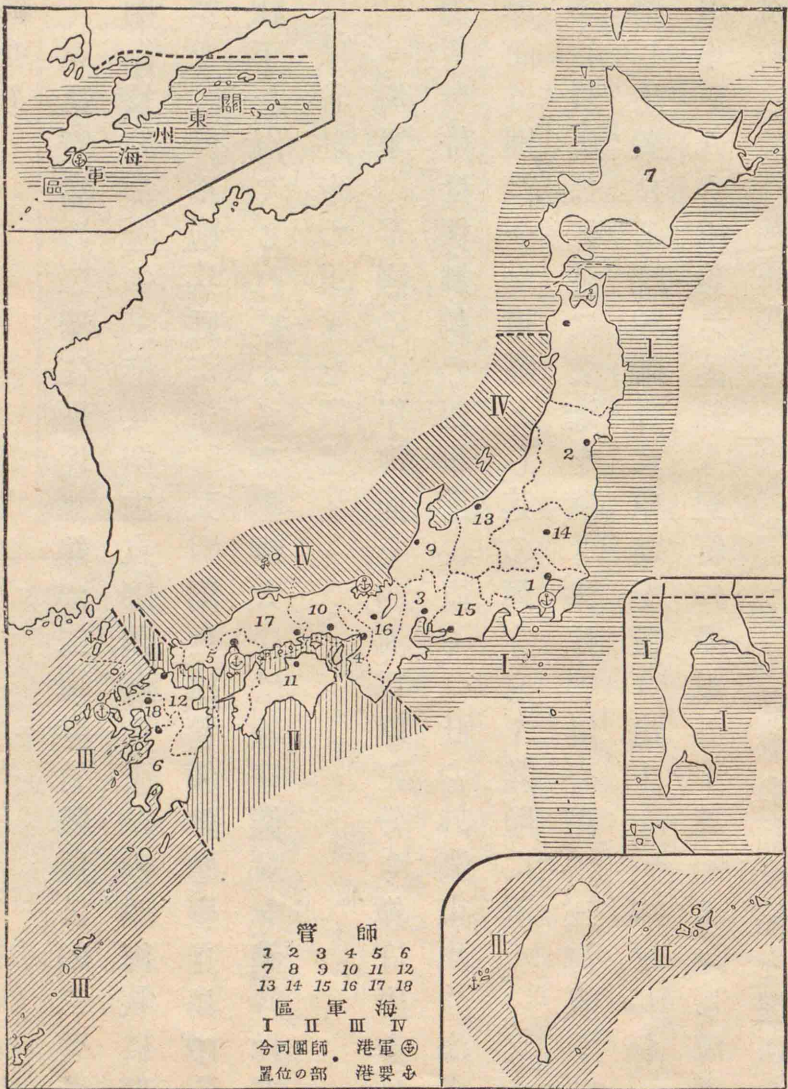
二九、兵備。帝國の男子は、滿十七歳より四十歳まで、悉く、兵役の義務を有す。兵役の種類は、分つて、常備後備補充國民の四種とし、更に、常備兵役を、現役と豫備役とに、國民兵役を、第一第二の二種に分つ。

天皇は、大元帥として、陸海軍を統率し給ふ。其の最高顧問府に元帥府あり。又、軍事參議院ありて、重要なる軍務の諮詢に應じ、殊に國防用兵に關する陸海軍相互の聯繫を調理す。國防用兵に關しては、陸軍に參謀本部、海軍に海軍軍令部ありて、これを掌る。

(イ)陸軍。全國を十八師管に分ち、各師管に師團を置く。

此の外、東京に近衛師團を置き、宮闕の守衛に任ず。一箇師團は、通常歩兵二箇旅團四箇聯隊、騎兵野砲兵各一箇聯隊、工兵輜重兵各一箇大隊より成る。我が國は、世界有數の陸軍

第三圖。師管及び海軍





國たり。

東京・廣島の二灣、佐世保・舞鶴の二軍港、竹敷・馬公の二要港、函館・長崎・基隆の三港、及び由良・鳴門・藝豫・下關の四海峽に要塞を設け、重砲兵駐屯す。又、對馬には、警備隊を置き、島中の壯丁を以て、これに充て、臺灣・樺太には、各、守備隊を、滿韓地方には、各、駐屯の軍隊を置く。

(口)海軍。帝國の海岸海面を四海軍區に分ち、鎮守府を、横須賀・吳・佐世保・舞鶴の四軍港に置く。此の外、關東州の海岸海面は、別に一海軍區とし、其の鎮守府を、旅順に置く。又大湊・竹敷・馬公三港に、要港を置き、津輕・朝鮮・臺灣の三海峡を防禦し、主要なる岬角・離島に望樓を置き、海上を監視せしむ。海軍軍人の總數、六萬餘人、艦艇の噸數、五十萬噸に達し、海軍國として、世界第五位に居り、殆ど東洋近海の制海權を握れり。

### 中篇 帝國地理地方誌

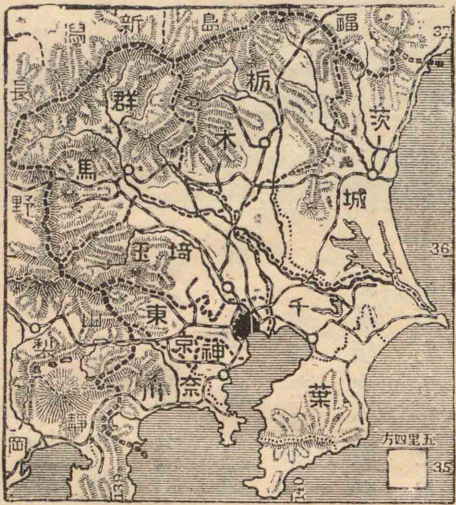
一、我が國の區劃。我が國は、行政上、三府四十三縣、臺灣、北海道、樺太に分れ、又、自然區劃上、本州、四國、九州、臺灣、北海道、樺太南部の六部より成る。其中、本州は、他より著く大なれば、便宜上、これを關東、奥羽、本州中部、近畿、中國の五地方に分ち、他の五部をこれに加へて、全國を十地方に分つ。

#### 第一章 關東地方

〔東京府・神奈川・千葉・埼玉・群馬・栃木・茨城・六縣〕

二、地形。關東地方は、本州の

太平洋に向つて凸出せる部

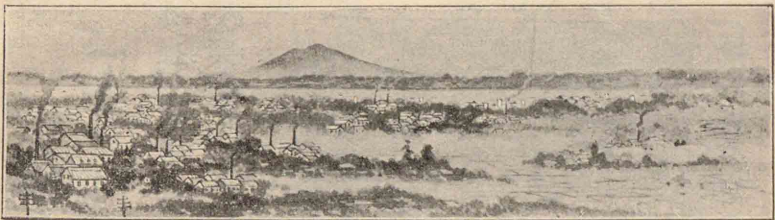


第三二圖。關東地方略圖。其の一。  
第三三圖。其の二。





第三四圖。關東平野の一部。王子飛鳥山より荒川國府臺を隔てて筑波山を望む。

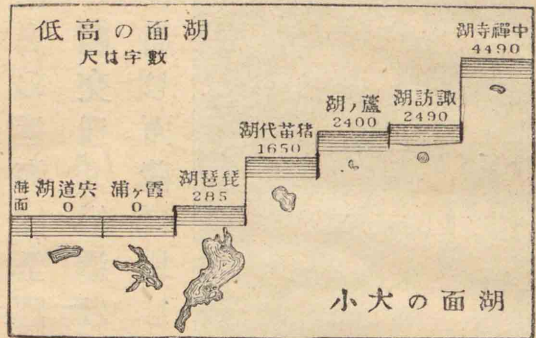


分を占め、北西二境に偏する部分には、越後關東等の諸山脈、那須火山脈等相連り、これより海岸に至る地方は、我が國最大の關東平野を成す。利根川、荒川等は、北西の高地に發して、此の平野を流れ、下流の水利甚だ大なり。

著名なる山には、越後山脈の帝釋山、關東山脈の甲武信嶽、那須火山脈の那須山、男體山、淺間山、富士火山脈の箱根山等あり。これ等の山地は、相共に關東の牆壁を成し、これを横斷する足柄、小佛、碓氷、三國等の諸峠は、古來交通の要路なり。

利根川(見よ)は、渡良瀬川、鬼怒川等を支流とし、江戸川を分流とし、霞浦、印旛沼、北浦等を受け、流域關東の約二分の一に及ぶ。これに次いで、荒川、多摩川、馬入川、那珂川等の

第三五圖。湖面の高低。



湖の面の高低

諸川あり。何づれも、下流は、水運の利多く、上流は、近時往々、水力電氣の發作に利用す。これ等諸川の流るる關東平野は、四方約三十里に及び、河岸には、低地相連れども、又、臺地の發達著し。此の臺地の急に低地に接する部分には、山名の附せられたる所あり。

丘陵多き房總三浦兩半島は、東京灣を抱き、觀音崎及び富津洲、相對して、灣口を扼し、浦賀水道によりて、外海に通ず。又、三浦半島の西には、相

模灣の彎入あり。東岸は、著き出入なく、僅に犬吠崎の岩角を境として、南北に二箇の弓狀を成す。北なるは、鹿島灘の濱にして、南なるは、九十九里濱なり。沿岸は、概ね氣候溫和にして、帝都住民の休養地たり。

三、産業。關東平野は、概ね地味肥沃にして、米、麥、大豆、甘藷



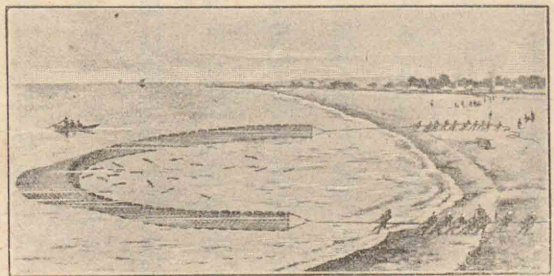
第三六圖。九十九里濱の地引網。

等の農産物多く、麥・大豆の産額、全國の首位を占む。又平野の北西部より山地に亘り、全國屈指の養蠶地方ありて、機業亦盛なり。沿海は、鱈・鯉等の漁獲行はれ、殊に、房總半島の近海は、全國屈指の好漁場たり。

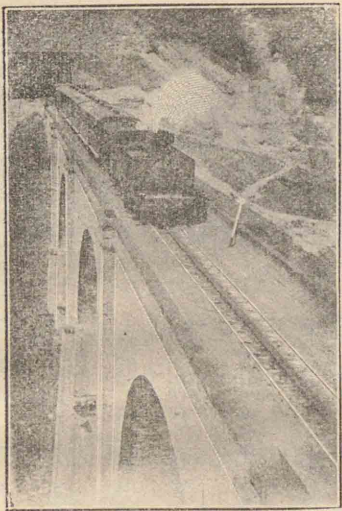
四、交通。鐵道は、東京を中心として、四方に通じ、面積に比して發達せること、全國第一なり。海運

は、域外に對しては、横濱港主としてこれに當り、近海にありては、東京を中心とす。又、東部にありては、利根

河系の水運によること大なり。



第三七圖。信越線アプト式鐵道。



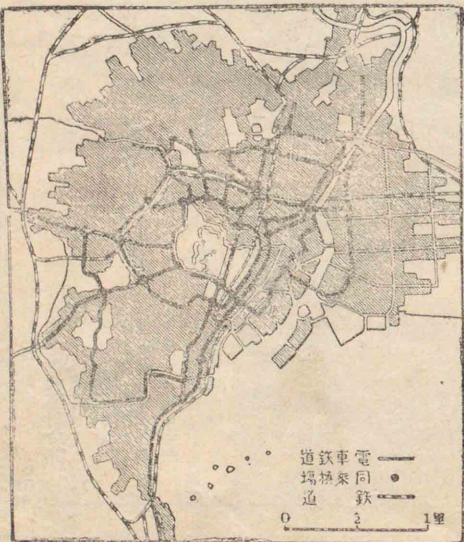
都邑名の左側の数字は人口を示す單位一千。

第三八圖。東京市電車線路略圖。長さ約五十哩。乗客一箇年約一億五千萬人。

東京を起點とする鐵道は、東海道線・中央線・東北本線（高崎線を分岐す）・常磐線・海岸線・總武線等にして、中にも、東海道線と東北本線とは、本邦縦貫の幹線たり。これ等の線に關聯して、兩毛線・横濱鐵道線・成田線等あり。

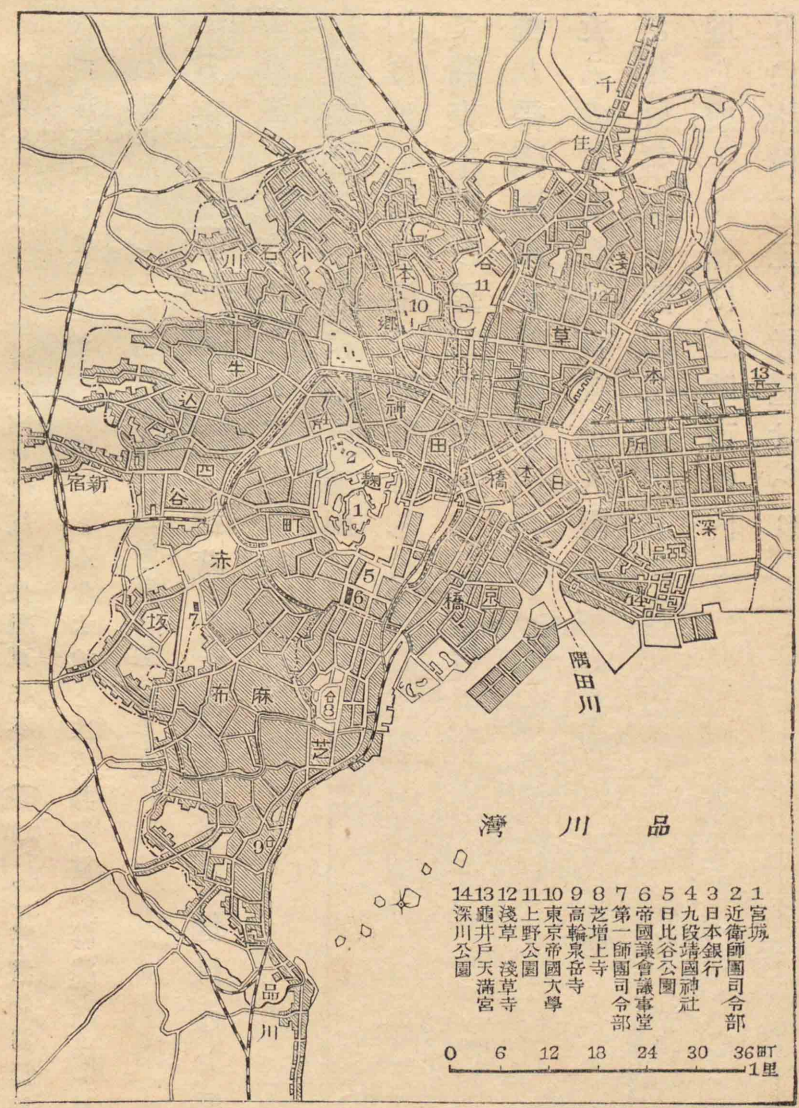
五、東京府（武藏一部伊豆・七島小笠原島）<sup>(1923)</sup>。武藏の一部を主なる地域とし、帝國の首都、東京市ここにあり。

東京は、品川灣に臨み、隅田川に跨り、横濱港を咽喉として、關東平野の要點を占む。獨り、帝國の政治・學藝の中心たるのみならず、實業上、大阪と共に、帝國東西の二大中心地を成す。殊に、近時、市内の外に諸種の工場設置せられ、



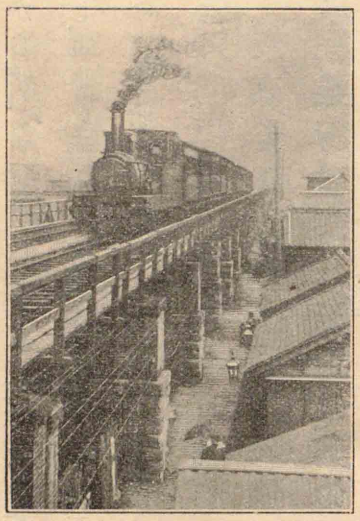


第三九圖。東京市及び附近略圖。



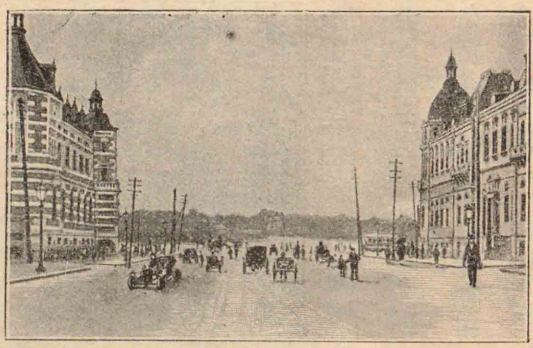
工業上に著き進歩を示せり。

行政上、全市を十五區に分つ。市の北西部は、概ね臺地にして、山、手と云ひ、高燥にして、學校、兵營、貴紳の邸宅多く、南東部は、低平にして、下町と稱し、商工の業盛んに行はれ、錦繪、淺草、海苔袋物等、古來の物産の外、綿絲、毛織物、諸機械、洋紙、製糖、製革、雜貨等を産し、特に、市の東部は、隅田川及び



これに通ずる運河

によりて、水運の利多く、工業最も盛んなる地區となれり。市の内外には、靖國神社、淺草寺、泉岳寺を始めとし、上野日比谷、芝、向島、飛鳥山等、遊覽の場所少



第四〇圖。東京市凱旋道路。正面に見ゆるは宮城。洋紙産額。全圖。一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇。

第四一圖。總武鐵道市内高架線。

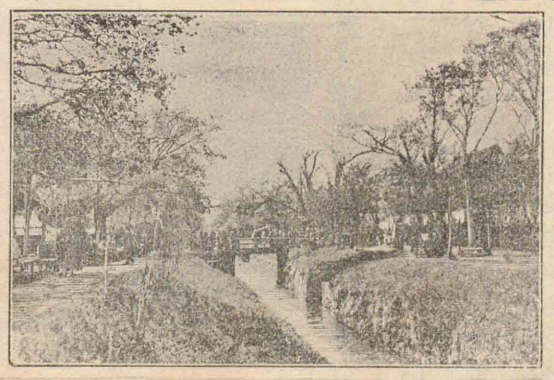


からず。市區を改正して、主要なる街路を廣くし、電車を通ず。又、新橋上野萬世橋工事中、兩國の四箇所に、起點たる鐵道停車場ある外、大規模の中央停車場は、目下工事中なり。

東京より西方、多摩川の流域は、養蠶業・機業行はれ、八王子は、其の中心にして、糸織・紬等の産多し。

伊豆七島は、遙に南方の硫黄列島と共に、富士火山脈の通ずる所なり。近海は、黒潮の流れ著く、鰹・鮪等の好漁場なり。

伊豆七島中、式根島には、出漁船の避難港あり。大島の三原山は、有名なる活火山にして、波・浮港は、噴火口の跡なり。又、八丈島には、八丈絹の名産あり。小笠原島は、本陸より、約五百哩を距つ。行政の便宜上、亦



第四二圖。小金井玉川上水路。兩側は櫻花の名所。

第四三圖。小笠原島の植物景。樹は林投樹。



の中繼所たり。附近には、歸化外國人の子孫、少からず。

六、神奈川縣〔武藏南部相模〕地形西部に高く、ここに、丹澤山・大山・箱根山等あり。馬入川の下流附近より以東は、平野開け、僅に三浦半島の丘陵地を見るのみ。大山の南方なる秦野地方は、煙草を産す。東海岸は、東京に對する要地にして、ここに横濱〔市〕・横須賀〔市〕あり。横濱は、東京市の門戶、北日本輸出

東京府に屬す。數多の島より成り、父島・母島最も大なり。氣候高溫にして、熱帶性植物よく繁茂し、砂糖・香蕉・鳳梨・林投樹・細工・蠶龜・大蝙蝠等を産す。父島の二見港は、南洋の良港にして、太平洋海底電線

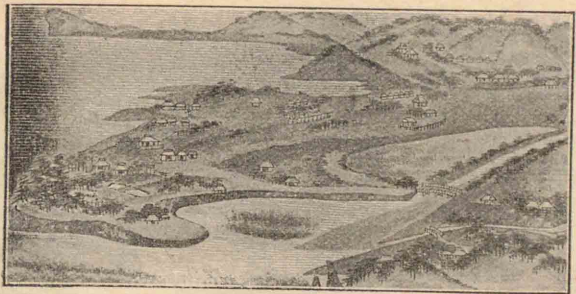


入品の重なる經由地なり。貿易次第に盛んにして、神戸と共に、開港場の首位を占め、我が國第四の都會なり。

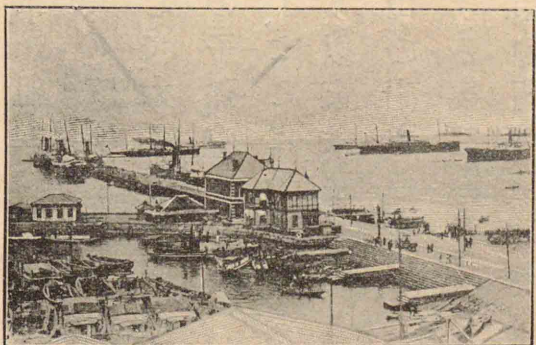
横濱には、在留外國人甚だ多く、税關正金銀行各國領事館等あり。其の港は、防波堤及び棧橋ありて、二萬噸以上の大船も、入港し得べく、我が國生絲羽二重の輸出は、殆ど全く本港よりす。

横須賀は、第一海軍區の軍港所在地にして、船渠の設備整ひ、又、海軍機關學校あり。其の南東、觀音崎は、房總半島の富津洲と相

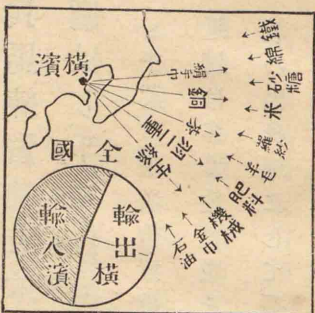
第四四圖。横濱港の棧橋。



第四五圖。横濱五十年前の横濱。



第四六圖。横濱港の貿易。輸出 百萬元 全國 三七八・二 横濱 一九〇・八 全國輸入 四三六・二 横濱 一五一・二



對し、附近に海堡及び砲臺の設けありて、東京灣を防禦す。觀音崎の頸部なる浦賀港には、造船所あり。附近の久里濱は、米國使節の始めて上陸せし地なるを以て名高し。三崎の附近は、水産動物に富み、帝國大學の臨海實驗所あり。

相模灣の海岸は、鎌倉・逗子・葉山・大磯・小田原等を始めとし、到る所風景に富み、氣候溫和にして、東京横濱市民の保養地たり。又、西境の箱根山は、一大勝地として著はる。

鎌倉は、源氏幕府の舊地にして、八幡宮・鎌倉宮・大佛・建長寺等、見るべきもの多く、附近に、金澤江島島の勝地あり。平塚には、近時規模宏大なる火藥製造所の設立あり。北方に聳ゆる大山は、夏季白衣の登山者多し。箱根山は、一大休火山にして、溫泉・噴氣孔多く、且、風景の美、日光と並び稱せられ、其の火口原



湖たる蘆湖に、逆富士の景あり。湖畔には離宮あり、附近に古の關所の址を存す。國府津より小田原を経て、箱根に至る電車は、箱根山中の水力を其の動力に利用せり。

七、千葉縣（上總大部、下總安房）。房總半島の外は、概ね關東平野に屬し、

利根川と、江戸川とは、北西の境を流れ、内に印旛沼、手賀沼等の河跡湖あり。平野の地方は、米、麥、甘藷等を産し、盛んに豚、家禽を飼養す。江戸川の岸、國府臺より佐倉に至る間には、兵馬練習地となれる所多し。河の水運と、鐵道の便と、よく備はり、千葉、佐倉、成田、銚子、佐原、野田等、小都邑少からず。

千葉は、鐵道總武線と房總線との集點に位し、醫學專門學校あり。佐倉の近傍は、多く佐倉炭を産す。北東なる成田は、不動を以て榮え、佐原は、伊能忠敬の出身地にして、香取神宮其の東にあり。銚子は、利根川水運の起點に位し、其の東方、利根河口の南は、太平洋中に突出し、附近に岩礁多し。故に、犬吠

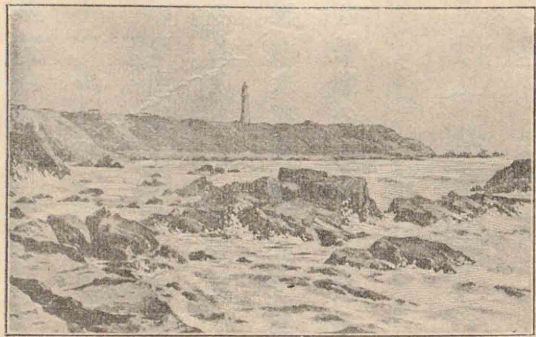
第四七圖。犬吠岬の燈臺。

全國	二〇七、四
千葉	二九、三
兵庫	一四、一
愛知	一、二、八
水産漁獲物産額	六、二、八
全國	五、三、七
千葉	三、〇、一
靜岡	三、三、七
鹿兒島	二、七、〇
長崎	二、七、〇
兵庫	〇、八

岬に燈臺を設け、又附近に救難所ありて、救命砲を備ふ。又、無線電信局（見三〇）を設け、太平洋を航海する船舶との間に、通信を交換す。銚子、佐原は、江戸川の岸なる野田と共に、醬油の産多く、これが爲めに、本縣の産額は、我が國第一に位す。

九十九里濱及び以南の海岸は、漁業の特に盛んなる所にして、鱈、鯉、鯖等の漁獲夥しく、これが爲めに、本縣の水産漁獲物は、諸府縣中、第一に位し、東京方面に、生魚の積出盛んなり。西岸の木更津、館山も、亦漁業地にして、東京を始めとし、對岸各地との交通繁し。

木更津は、遠淺にして、干潮には、人力車又は荷車によりて、沖合に懸れる小汽船との聯絡を圖る。

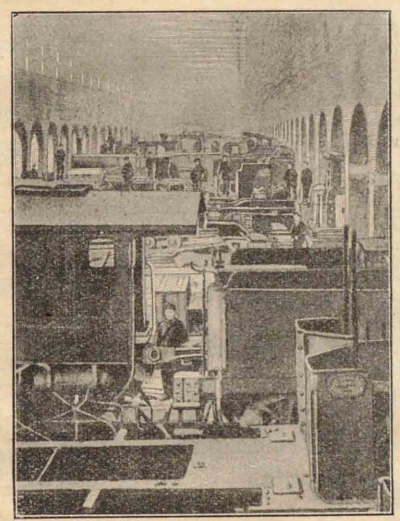




全	一	九	五	七
英	一	一	一	五
埼	八	八	一	一
兵	八	一	一	一
愛	七	八	一	一
玉	九	二	四	八
城	九	二	四	八
知	九	二	四	八
木	九	二	四	八

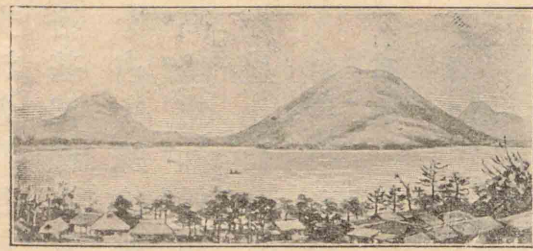
第四八圖。大宮の鐵道機關車庫。

八、埼玉縣（武藏部）。西部は、山脈相連れる秩父地方なれども、東半は、關東平野に屬し、荒川其の中央を流る。利根川に近き地方には、稻田多く、西するに従ひ、畑多く、麥は、全國第一の産額に達し、其の他、甘藷大豆茶等の産に富む。本縣は、全國屈指の養蠶地にして、本庄・熊谷・川越（武蔵）は、皆蠶業の中心として榮え、大宮は、交通の要點なり。



本庄には、繭の取引盛んにして、川越地方には、甘藷の名産あり。大宮には、鐵道の工場及び氷川神社あり。其の南東の浦和は、縣廳の設置以來、發達せし所なり。秩父山中には、一盆地あり。亦、養蠶機業の盛んなる所にし

第四九圖。榛名富士及び榛名湖。



て、其の中心市場は、大宮（郷）なり。  
 九、群馬縣（上野）。大部は山多く、其の間より發する利根川の本支流は、遂に相合し、一條の大河となり、南東部に至りて、平地を開く。那須火山脈東西に通じ、淺間山・白根山は西境に、赤城山・榛名山は、中部に、妙義山は、南西に聳え、伊香保（榛名山麓）・草津（白根山東麓）等の温泉多し。  
 赤城・榛名の兩火山は、利根川の河谷を都合谷として、東西相對峙し、各山上に火口原湖ありて、風光甚だ佳なり。赤城山上の湖水よりは、冬季氷を伐り出す。妙義山は、火山岩地風景の極めて雄大なるものなり。甚しく侵蝕作用を受けて、奇岩多く、四大石門最も名あり。赤城榛名と共に、上野の三山と稱せらる。  
 縣下の平野は、甚だ狭小なれども、利根川本

ASBA



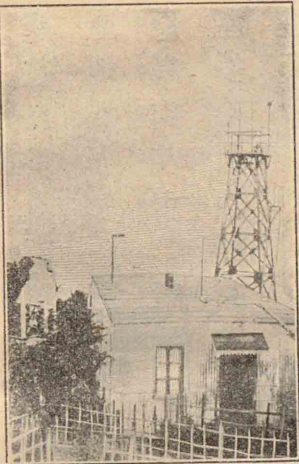




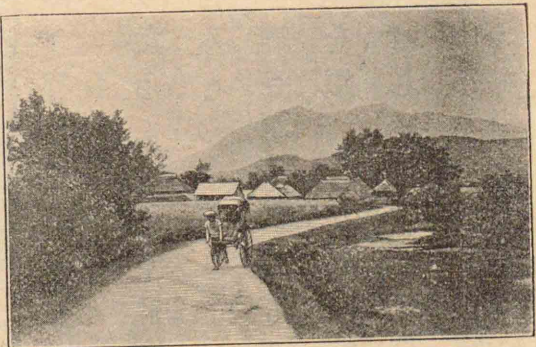
宇都宮は、交通の要所に位し、第十四師團司令部あり。栃木は、生絲木材の取引多く、足利は、關東屈指の機業地にして、足利絹の産地なり。日光の西方、日光白根山の五色沼、南西の庚申山、皆奇景を以て知らる。

一一、茨城縣(常陸下。總一部)。北部は、山地多く、久慈川其の間を流れ、中部に那珂川あり。南部

は、平野廣く、霞浦・北浦ここに湛へ、僅に筑波山の隆起を見るのみ。東面長く海に沿へども、平直にして、出入に乏し。



第五三圖。筑波山上の測候所。



第五二圖。筑波山。南方より望む。左は女體山。

大豆産額。  
全國 三六六、七〇七  
北海道 五三三、九一七  
茨城 二〇〇、六三三  
埼玉 一一九、〇二六  
岩手 〇二、〇二六

筑波山は、平野の間に隆起し、古來、關東の名山なり。山上に、故山階宮殿下の設立し給ひし測候所あり。霞浦は、本邦第二の大湖にして、周回約三十四里、水運の利多く、若鷺(魚)、鯉、鰻、蝦等を産す。

北部の山地は、林産に富み、又多く、葉煙草、蒟蒻を産し、太田を中心市場とす。海岸の高萩地方は、石炭の産多く、所謂常磐炭田の南部を成す。平野の地方は、米、麥、大豆の産に富み、水戸(市)、土浦、結城等の都邑あり。

水戸は、那珂川の南岸に位し、弘道館常磐公園常磐神社あり。土浦は、水陸交通の便多く、結城は、紬の産に名高し。

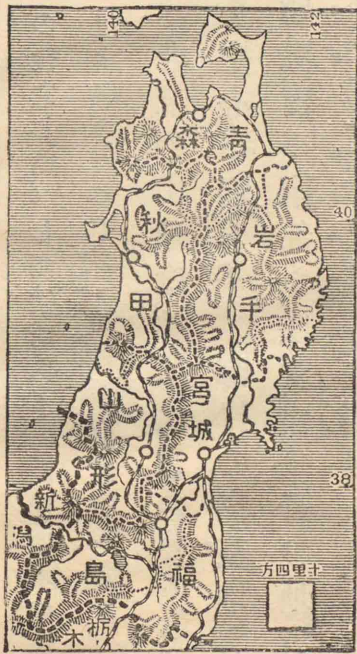
沿岸地方中、殊に那珂川附近より以北の海岸は、鱈、鯉の漁利に富み、湊、磯濱、平潟等は、其の市場なり。磯濱の近傍、大洗岬は、風景に富み、北浦の畔には、鹿島神宮あり。



第二章 奥羽地方〔福島・宮城・岩手・青森・秋田・山形六縣〕

一二、地形。奥羽地方は、本州の北東部を占め、北端は、北海道本島と、津軽海峡を挟みて、日本海の東口を扼し、南境には、白河・勿來等、古奥羽の咽喉を扼したる關所の跡あり。奥羽山脈は、南北に走り、那須火山脈を其の中に通じて、主なる分水界を成し、これに相並びて、東には、北上・阿武隈の二山脈、西

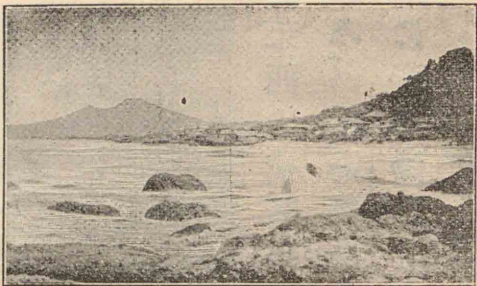
には、烏海火山脈あり。これ等三條の高地間にある東西の各低地は、主要なる交通路を成し、其の東にあるものは、北上・阿武隈二川の殆ど直流する所に



第五四圖 奥羽地方略圖

して、南北に長き一帯の平野を成し、西にあるものは、最上・御物能代諸川の流域にありて、幾多の盆地を作り。

那須火山脈に屬するは、磐梯山〔會津富士〕・吾妻山・藏王山・岩手山〔南部富士〕・八甲田山等、烏海火山脈に屬するは、烏海山・月山・岩木山・津軽富士等なり。北上山脈は、早池峯山を最高點とす。湖沼中、猪苗代湖・十和田湖は、内部の高地に、八郎潟・小河原沼・十三潟は、海岸の低地にあり。



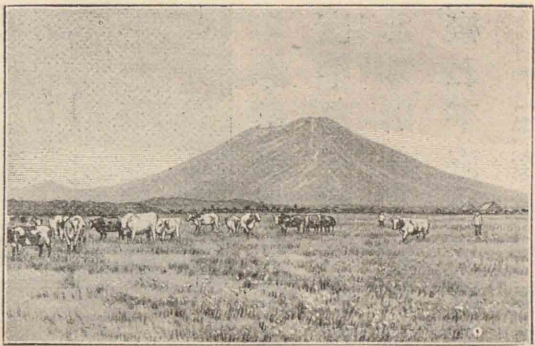
第五五圖 烏海山・藏王山・磐梯山の北西に當れる海岸地方より望む

海岸は、陸奥灣の津軽・下北の兩半島に抱かれ、仙臺灣の牡鹿半島に限られ、男鹿半島の八郎潟を圍みて突出するを大なる出入とし、東岸の中部には、小出入多けれども、其の他は、概ね平直の砂濱なり。

一三、産業。奥羽地方の一部は、山林・原野廣く、鑛産極めて



第五六圖。岩手山。東麓より望む。



東西の横斷線には、僅に、岩越線の一部、開通せるものあるのみ。且、港灣に乏しく、海運未だ振はず。開港場としては、僅に青森港あるのみ。

冬寒稍烈しく、海岸の外、積雪久しきに亘り、冬季は、鐵道線路にも、所々に屋

豊富にして、大部は、蠶業盛大なり。耕地亦廣く、著名なる米産地あれども二毛作に適せずして、麥の産少し。山林の大なるものは、秋田縣の北部より青森縣の西部に亘り、鑛山は、特に、秋田縣に多く、銀銅の産莫大なり。又、石炭は、福島縣の南東部に、鐵は、岩手縣に多し。原野は、特に、岩手縣に多く、牧場少からず。

一四、交通。鐵道は、東北本線・奥羽線・常磐線等ありて、南北交通の幹線を成せども、

根を設けて、積雪を防ぐ。又、冬季陸路の交通には、橇を用ふ。特に、日本海岸は、冬季北西風烈しく、海上波荒く、航海困難なり。

一五、福島縣〔岩代磐城大部〕。阿武隈山脈・那須火山脈によりて、地

形自ら東・中西の三部に分る。那須火山脈中の磐梯山・吾妻

山等は、近時の破裂を以て知られ、阿

武隈山脈中の靈山リョウサンは、史上に名高し。

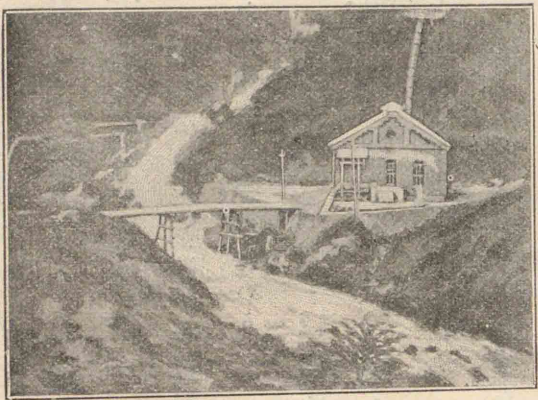
磐梯山南麓の猪苗代湖は、本邦屈指の大湖

にして、其の水、阿賀川に入り、又、疏水により、郡

山地方の灌漑を助く。

中部〔中通り〕は、古來奥羽交通の幹線たる阿武隈川の流域に當り、到る所、皆桑園にして、蠶業大に進歩せり。福島〔33〕市は、生絲羽二重取引の大中心

第五七圖。猪苗代湖の疏水。家屋は發電所。





にして、市況の盛大なること、奥羽第一と稱せらる。川俣の羽二重は、重要な輸出品にして、二本松郡山の製絲、梁川地方の蠶卵紙、皆名高く、三春・白川は、牧馬・葉煙草の市場なり。福島には、生絲の共同荷造所ありて、製品の査定統一を圖り、川俣には、盛大なる絹布精練會社あり。

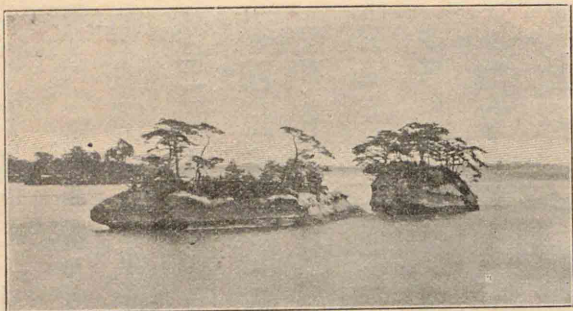
西部(會津地方)は、中に會津盆地あり、阿賀川の流域に當る。若松(市)は、會津第一の都會にして、喜多方は、市況の盛んなること、若松を凌ぐの趣あり。

會津は、古來士氣の旺盛を以て知られ、市東に、白虎隊の遺蹟あり。會津燒は、若松の南、本郷に産し、若松を市場とす。會津塗は、若松を本場とす。

東部の平附近には、豊富なる炭田ありて、茨城縣に連り、所謂常磐炭田(見よ)を成し、鐵道常磐線(見よ)によりて、石炭を東京に輸送す。又、中村は、相馬燒を産す。

常磐炭田 石炭  
産額 三四三  
福島 三三九  
茨城

第五八圖。  
松島の一部。  
(二十島)



一六、宮城縣(陸前大部)。大部は、西に那須火山脈に屬する諸山を負ひて、東に傾き、北上川は北より、阿武隈川は南より來り、其の間に、奥羽第一の仙臺平野を開く。平野には、湖沼多く、最も大なる品井沼には、近時、排水を行ひ、沿岸を開墾す。

仙臺平野の北部は、米産に富み、南部は、養蠶盛んにして、北西部には、牧馬行はる。仙臺(市)は、平野の南部に位し、古來、奥羽第一の都會なり。

仙臺は、廣瀨川に跨り、仙臺平埋木細工を産す。第二師團司令部、控訴院、第二高等學校、醫學專門學校、高等工業學校あり。又、近時、東北帝國大學理科大學の所在地となれり。



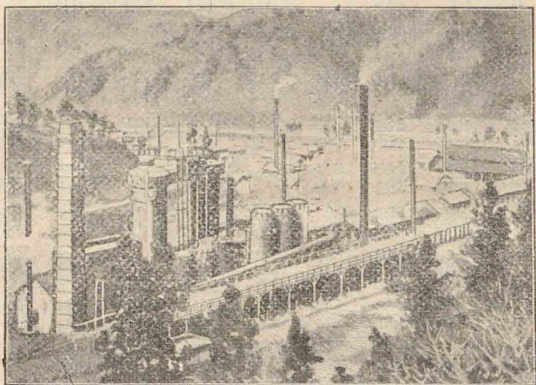
牡鹿半島の南端に近く、小島、金華山あり、近海航路の目標たり。半島近海は、鯉、鮪等の漁利多く、捕鯨業亦盛んなり。仙臺灣の鹽釜、北上河口の石巻は、共に漁業の中心にして、日本三景の稱ある松島灣と、運河(運)により、交通の便あり。又、萩濱は、横濱・小樽間航路の要點に當れり。

石巻は昔時、米穀の積出盛んにして、奥羽第一の商業地たりしが、錨地の不完全と、鐵道の開通とにより、其の繁榮、昔日に及ばず。萩濱は、これに代るべき良泊地なれども、四近との聯絡困難なり。

一七、岩手縣(陸中大部、陸奥、陸前各一部)。西境には、那須火山脈に屬する諸山(五九を)、長く裾野を引き、東部には、北上山脈連れり。原野、山地廣く、稗馬鈴薯の産に富み、米麥の産少く、面積上、我が國第一の大縣(三三を)なれども、人口甚だ疎なり。主要なる物産は、牧馬海産物、鐵等にして、諸川の鮭も、亦名あり。

馬頭數。  
全國一四九萬  
北海道一一一萬七  
鹿兒島一〇七  
熊本九一七  
岩手七八二  
福島二二四

第五九圖 釜石鐵山。



岩手山の麓には、牧馬盛んに行はれ、又、南西麓に小岩井農場あり。本縣の北部より青森縣の南東部に至る地方は、南部馬の産地なり。北上川、馬淵川は、南北に背馳して、一條の交通路を開き、沿岸は、縣下主要の生産地にして、盛岡(盛)市を始めて、黒澤尻、一關等の都邑あり。

盛岡は、もと南部と稱し、仙臺青森間の要地にして、鑄物を名産とし、南部馬、苹果の集散多く、盛んなる馬市あり。又、鐵道工場、高等農林學校あり。黒澤尻は、秋田に通ずる要路に當り、西方に仙人鐵山あり。水澤には、臨時緯度觀測所あり。平泉は、史上の名蹟にして、其の中尊寺は、金色堂を以て名高し。海岸の南半は、特殊なる出入をなし、宮古釜石、大船渡等の



釜石の鐵産額  
二〇九萬圓

諸港あれども、後地山多く、且、港口認め難く、又、北上川筋との交通、甚だ不便なり。海岸地方は、多く、鰯、鮑、鯉節等を産す。釜石の近傍は、鐵鑛多く、其の産額我が國第一なり。

大船渡は、近時、これを築港し、奥羽横斷鐵道(六〇を)の起點とすべき計畫あり。

一八、青森縣(陸奥大部)。本州極北の地にして、三面海に臨む。

那須火山脈に屬する諸山は、中央の脊梁となり、西部には、烏海火山脈ありて、其の間に、津輕平野を開く。山地は、林産に富み、殊に、津輕及び下北兩半島の北部は、羅漢柏の美林に名高く、沿岸一帯は、漁利多し。

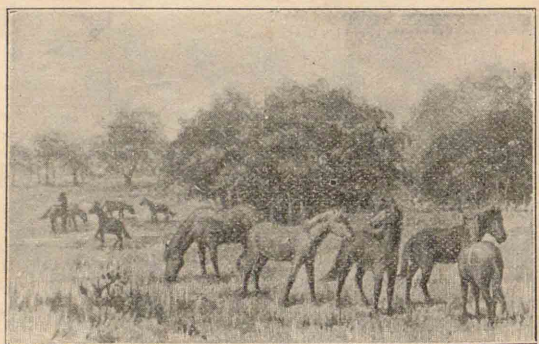
陸奥灣に沿ひ、青森市野邊地、大湊等の諸港あり。青森は、本州北海道間聯絡の要點を占め、東京を距ること、約四百六十哩、近時、開港場となれり。大湊は、要港にして、津輕海峽を守る。津輕平野は、岩木川の流域にして、弘前市(弘前市)を中心とす。

弘前は、第八師團司令部の所在地にして、苹果の集散夥しく、又、漆器の産あり。

東部の原野には、牧畜盛んに行はれ、三本木七戸附近は、南部馬(六五を)の産地なり。又、八戸は、馬淵川流域の市場なり。南境の十和田湖は、風景に富み、近時、鱒の産多し。

一九、秋田縣(羽後大部、陸中一部)。地形、畧長方形

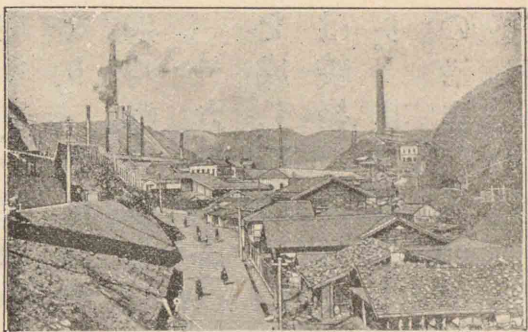
を成し、西の一面、海に臨む。他の三境は、峻嶺を環らし、南境に、烏海火山脈の主山、烏海山(五九を)あり。其の脈、北に亘れども、御物川能代川これを横ぎりて、其の沿岸に、沃野を開く。海岸は、一般に、平直なる砂濱長く連れども、男鹿半島其の單調を破り、半島の東側に、八郎潟を抱



第六〇圖。  
三本木の牧場。



第六一圖	小坂鑛山	銀産額	全國	三三七	萬圓
			秋田	二二七	萬圓
			兵庫	二八	萬圓
			銅産額	一四八	萬圓
	小坂	一八			
	尾去澤	一〇			
	阿仁	〇			
	日三市	六			
	荒川	六			
	椿(銀)	八			
	能代貯木場	五			
第六二圖					



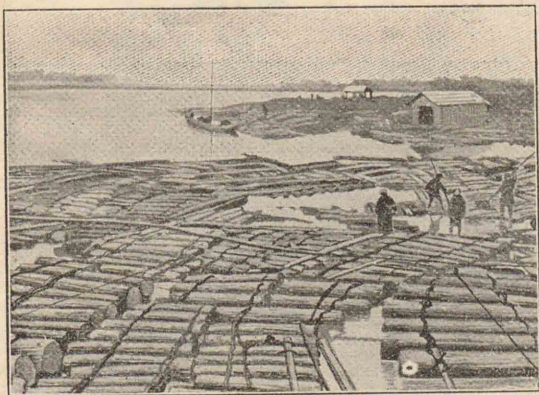
及び椿尾去澤阿仁等の銅山あり、又杉の良材を産す。能代川筋は爲めに活氣を呈し、河口の能代港及び大館には、盛大なる製材所あり、又能代

き、寒風山中に聳え、風景絶佳なり。主要の富源は、鑛産、林産にして、國有林の面積は、全國の七分の一、銅の産額は、全國の三分の一、銀は十分の六を占む。米産亦多し。

能代川流域の

山地には、銀、銅の産我が國第一に

位する小坂鑛山



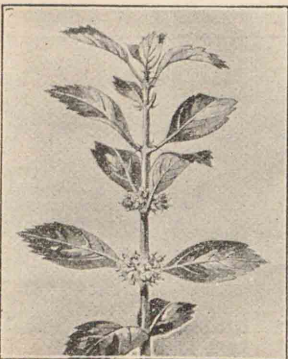
は、春慶塗を産す。

御物川沿岸は、奥羽屈指の米産地にして、上流盆地に、横手・大曲等の商業地、流域に、荒川銅山、院内銀山、流域の咽喉に、秋田(市)及び土崎港あり。

院内銀山は、古來、本邦有名の銀山にして、院内町これが爲めに興りしが、今は大に衰ふ。秋田は、畝織、八丈編等を名産とし、木材の取引、盛んなり。鑛山専門學校の開講、近きにあり。土崎港は、秋田の外港にして、冬季は、北風を拒ぐに便なる男鹿半島の船川港を錨地とす。船川は、築港の計畫中なり。

二〇、山形縣(羽前羽後一部) 鳥海火山脈西

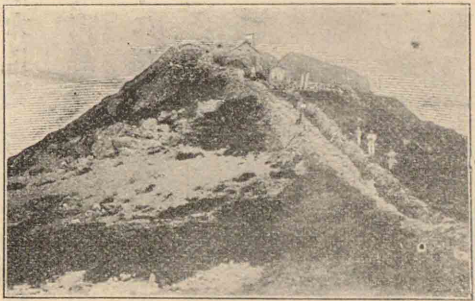
部を走り、大部は、最上川の流域にして、中流に、米澤(市)、山形(市)、新庄(市)を中心とせる盆地を作り、下流に、庄内平野を開き、縣下の主要生産地を成す。



第六三圖  
薄荷



第六四圖  
月山。



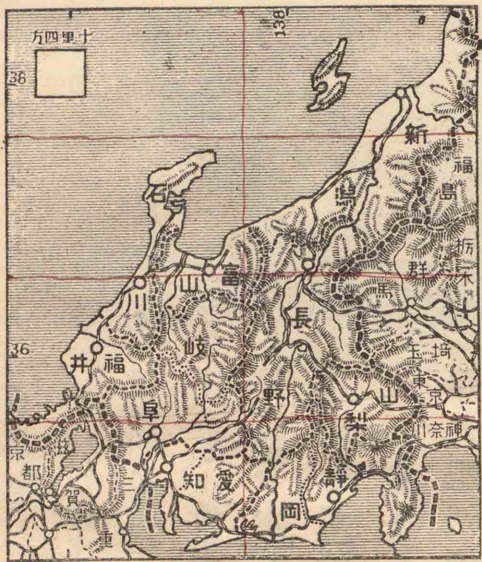
地とす。

酒田附近は、近時機業盛んなり。

米澤は、鷹山公遺業の地にして市街の外観、質素を極め、糸織の産多し。高等工業學校の開講、近きにある。山形は、縣治の中心、軍隊の衛戍地として榮え、多く薄荷を出す。山形の北東、山寺は、奇石怪岩の絶景を以て聞ゆ。

庄内平野は、縣下第一の米産地にして、後に月山、羽黒山を負ひ、前に、白砂青松の海濱を帯び、鶴岡、酒田を其の中心

第六五圖  
本州中部地方略



第三章

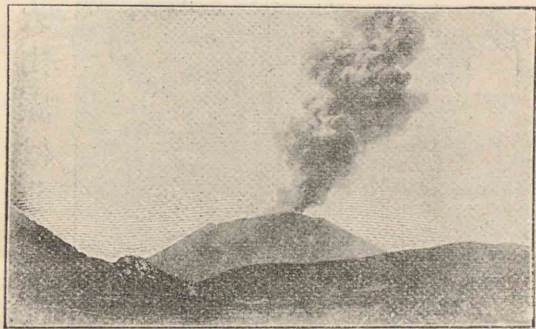
本州中部地方 新瀨長野山梨静岡愛知  
岐阜富山石川福井九縣

二、地形。本州中部地方は、本州の幅最も廣き部分を占め、高峻なる赤石、飛驒の二山脈を主とし、木曾、關東等の諸山脈、連亘し、且、那須火山脈は東境に、富士火山脈は東部に、白山火山脈は、北西部に現はる。又、飛驒山脈には、更に、乗鞍火山脈を通じ、地形、最も雄峻、複雑を極む。

飛驒赤石兩山脈は、本邦第一の高山脈にして、一萬尺以上の高峯聳立す。富士火山脈には、富士山を始め南には、天城山北には、八嶽、立科山、飯綱山等、那須火山脈には、淺間山、乗鞍火山脈には、御嶽、乘鞍岳等、有名なる



第六六圖  
淺間山

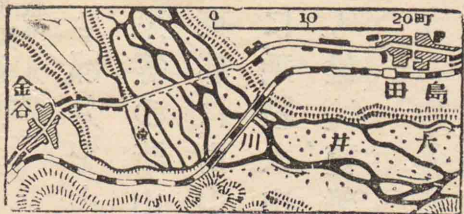


火山あり。

河は、中央高地の爲めに分水せられ、兩斜面を流下す。北に、信濃・神通・庄・九頭龍南に、木曾・天龍・大井・富士等の諸川あり。一瀉直走し、著名の急流を成し、或は、河岸に廣き河積を作るものあり。下流沿岸に、肥沃の平原を開く。越後濃尾の二平野は、其の

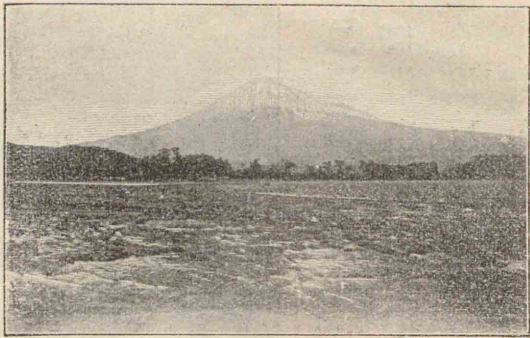
第六七圖  
大井川下流の河床

最も著きものなり。海岸の状態は、南北相似たるものあり。伊豆半島の駿河灣を抱けるは、能登半島の富山灣を抱けるに比すべく、遠州灘の北濱と、越後



第六八圖  
富士川の富士

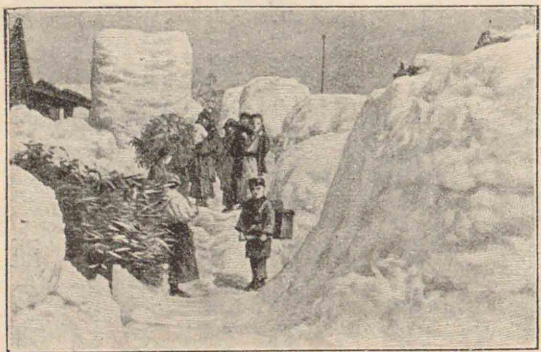
第六九圖  
大雪の長岡市街



の海岸とは、共に平直にして、伊勢海と、若狹灣とは、相對して、本州の幅、ここに最も狭し。

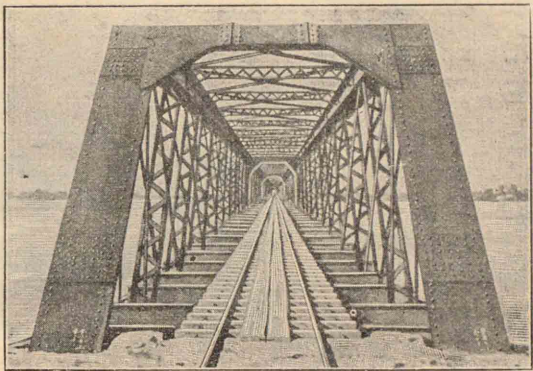
二二、氣候。本地方の中、北區は、日本海に面し、冬季雪多く、中區は、雨少き高地にして、冬季湖面氷結し、南區は、太平洋に面し、氣候溫暖にして、果樹よく生育す。

二三、産業。平野は、米産多く、濃尾・越後の二平野、殊に然り。中區は、蠶業・林業を主とし、南區は、製茶盛んに行はれ、





第七〇圖。  
天龍川の鐵橋。  
長さ約四千  
尺。



二五、新潟縣（越後、佐渡）。大縣の一にして、海岸七十里、長く日本海に沿へども、一の良港を見ず。新潟港は、港口の砂堆上、水淺く、浪荒く、大船入り難し。中部には、信濃、阿賀の二川貫流して、廣き平野を開き、米の産額、我が國第一に位し、大地主甚

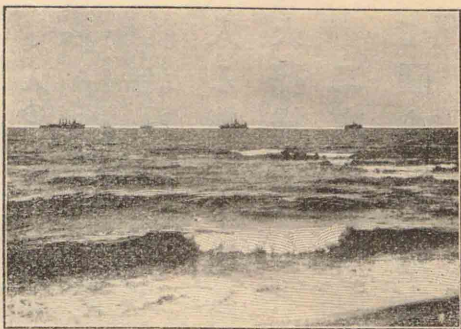
其の近海は、暖流を受けて、水産の利多く、又、越後平野は、石油の産に富む。  
二四、交通。鐵道東海道線（見よ二六を）は、南區を貫き、信越線は、中區を横きりて、新潟に達し、北陸線は、北西の海岸を走り、中央線は、中區の内部を貫かん。中央線の全通信越、北陸二線の聯絡も、遠からざるべし。海岸良港少く、海運未だ盛んならず。

米産額（平年）  
全國 四五三萬石  
新潟 二四六萬石  
兵庫 二一四萬石  
福岡 一〇二萬石  
愛知 一〇二萬石  
千葉 一八二萬石

第七一圖。  
新潟港の入口。

石油産額。  
全國 一七五萬石  
新潟 一七四萬石  
其他 〇六四萬石

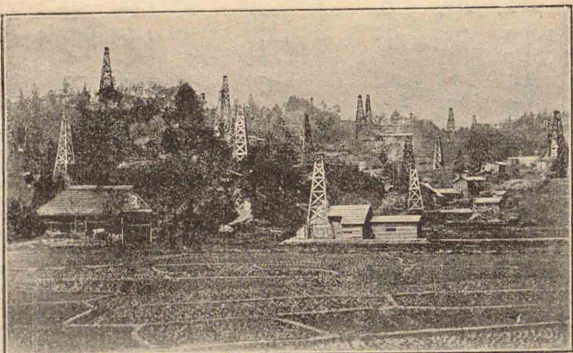
第七二圖。  
西山の油田。



だ多し。石油の産額、近時、大に増加して、宏大なる製油所は、主要都邑に設立せられ、長岡、新津等は、石油業の大中心となり。又、近時、羽二重製織の業、各地に行はる。

新潟港は、開港場なれども、良港に非ざるを以

て、外國貿易は、盛んならず。醫學専門學校の開講、近きあり。長岡は、東山、西山の油田を控へ、柏崎、其他と共に、製油業の盛大を以て知らる。又、新發田は、北東部貨物の集散地にして、村上は、鮭に名ある三面川に沿ふ。小千谷は、縮十日町





佐渡の金産額五  
五萬圓、銀産額  
一五萬圓。

は透綾、五泉は、五泉平の本場なり。  
本縣の南部、荒川流域には、高田、直江津の二市場あり。高田には、第十三師團司令部あり。直江津は、本縣西部の要津にして、製油工場あり。

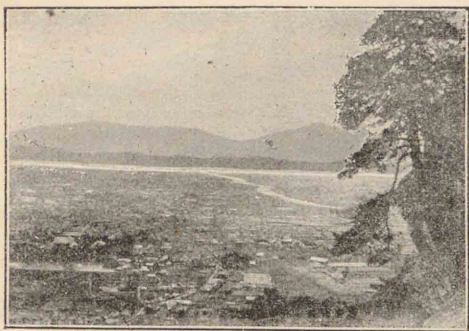
本縣は、冬季雪多く、高田長岡(七三を)は、特に深雪を以て名高し。冬季は、小作人の縣外に出て、勞働するもの、少からず。

佐渡島は、古より多く金を産し、銀、銅も、少からず。相川これが爲めに賑ふ。夷は、開港場にして、風波の爲め、新潟港に入る能はざる船舶の避難所たり。眞野には、順徳天皇の御火葬場あり。

二六、長野縣(信濃)。十國と境を接せる大縣にして、四方山にて圍まれ、土地高し。故に、氣候稍寒冷なれども、空氣乾燥して、蠶業に適し、繭の産額、我が國第一に位し、養蠶、製絲の盛大

繭産額。  
全國 三五三萬石  
長野 五五三萬石  
群馬 二二五萬石  
埼玉 二二四萬石  
愛知 二二四萬石  
福島 二二四萬石

第七三圖。  
長野市及び川中島。



なること、他に類を見ず。西部木曾川流域の御料林は、檜其他の良材に富めること、全國に比なし。河は、皆他縣に入れども、到る所、急流多く、水力を利用して、電氣を起し、又は、水車を動す。山河により、地形上の區分、自然に成れること、他縣に類少し。即ち、善光寺平、佐久平、松本平、諏訪平、木曾谷、伊

那谷等に分れ、長野(39)市、松本(33)市、上田、福島、飯田、上諏訪は、各地方の中心なり。各區分の間に、大なる峠あれども、鐵道延長して、漸次此の不便を少くす。

長野は、千曲川、犀川の合流によりて成れる善光寺平にあり。善光寺ありて、大に繁榮す。川中島の故戰場は、二川の合流點にあり。犀川の上流、松本平の松本と、千曲川の上流、佐久平の上田とは、蠶業の二大

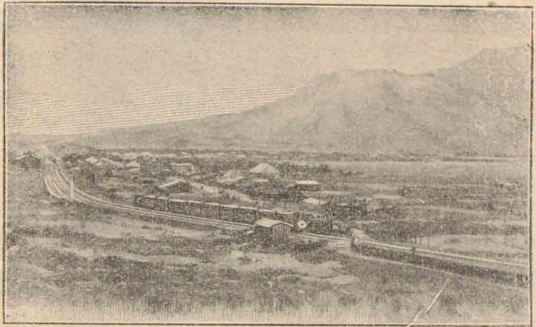


第七四圖 新輕井澤

生絲産額

全國	一五〇萬
長野	一三六萬
山梨	八〇萬
群馬	八八萬
愛知	八八萬
知玉	〇六八萬

第七五圖 諏訪湖の氷結の湖の氷割は御波と稱するも

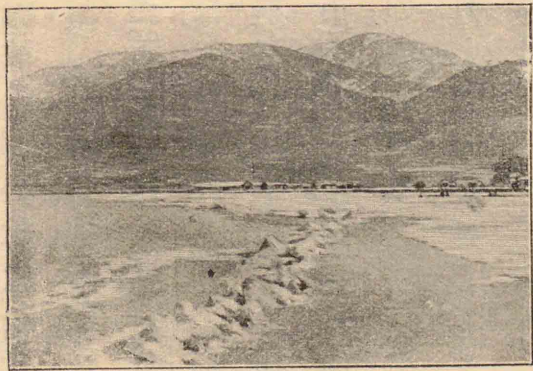


中心なり。上田には蠶絲専門學校の開講近きあり。東方關東地方との境なる碓氷峠に近き輕井澤は海面上三千餘尺の高所に位し、夏季の避暑地たり。諏訪湖附近の平地、諏訪平の中心は、上諏訪にして

温泉あり。諏訪湖は、冬季堅氷を結び、人馬湖上を往來し、又近時、氷滑りの遊戯盛んなり。湖の吐口、天龍川の岸にある

岡谷は、製絲業の盛んなること、全國第一にして、煙突林立す。

縣下、到る所、風景に富み、戸隠山、御嶽等の火山、木曾川河谷の寢覺床、觀月に名ある、姨捨山等の

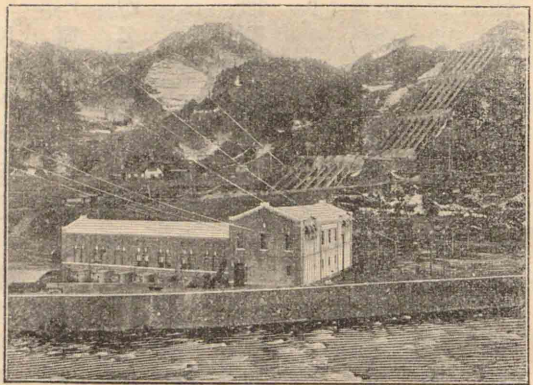


名所甚だ多し。又、西境に位せる飛驒山脈は、夏季の登山者多し。

二七、山梨縣（甲斐）。富士山・白峰山・金峰山等の高山、四境を圍み、中央に一大盆地を作る、これを甲府平原と云ふ。富士川の上流なる笛吹川・釜無川これを貫流し、甲府（市）を中心とし、

製絲業盛大なり。南東部は、笹子峠御坂山脈等の分水嶺によりて、別に郡内地方を成し、桂川これを流れ、谷村を中心とし、甲斐絹其の他の機業盛んなり。桂川は、富士山麓の山中湖に發し、神奈川縣に入る。途中の猿橋に、猿橋の奇橋あり。桂川の水力を利用し、電氣を起し、遠く東京市に送る。

第七六圖 桂川の發電所。東京電燈會社の東京電燈及電力の工業に屬するものなり





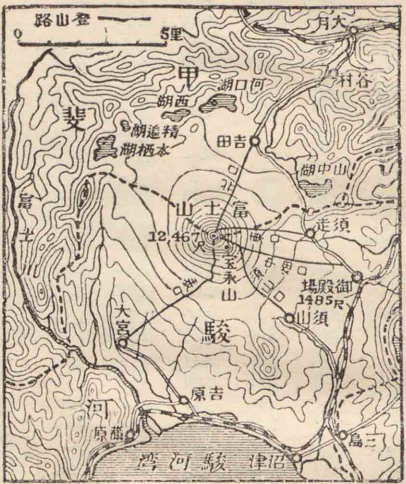
甲府市の北方、御嶽は、風景の奇抜を以て、世に名高く、甲府の名産水晶細工の原料は、此の附近より産す。勝沼地方には、盛んに葡萄を栽培し、古來、甲州の名産たり。吉田は、富士登山の北口を成す。富士山麓の河口、山中等の湖は、風景絶佳、夏季内外人の避暑客多し。鵜澤は、富士川舟運の極點にして、駿河國岩淵に下るに、六時間にして達す。身延山には、日蓮宗の本山久遠寺あり。

東京に通ずる鐵道の一部には、隧道四十の多きに達し、其の中、笹子隧道は、長さ約一萬五千尺、我が國最長の隧道なり。又、近時、横濱鐵道開通し、生絲を横濱に輸送するに、東京に迂回するを要せず。

二八、静岡縣（駿河遠江）。伊豆半島南東に突出し、深き駿河灣を抱く。北東は、富士火山脈、北は、赤石山脈連り、河は、皆急なり。製紙、製茶、及び、鱈、鯉等の水産業、甚だ盛んにして、煎茶の産額の多きこと、我が國第一なり。

製茶産額  
全國 一〇七萬  
静岡 三九六  
京都 七九六  
滋賀 四七五

第七七圖。富士附近略圖。



第七八圖。三松。

安倍川附近より濱名湖に至る地方、特に、大井川沿岸は、到る所、茶園を以て掩はれ、静岡市、島田、濱松は、其の主なる市場にして、近時、大規模の製茶工場を見るに至れり。東部は、駿河半紙の産多く、又、大宮は、洋紙の製

富士山は、海拔約一萬二千五百尺、山頂に舊噴火口あり。麓の原野を裾野、これより上を萱野、其の上を木立、更に其の上を焼野と云ふ。濱名湖は、風光明媚にして、湖口海水の通ずる所を冷切といふ。





出盛んなり。

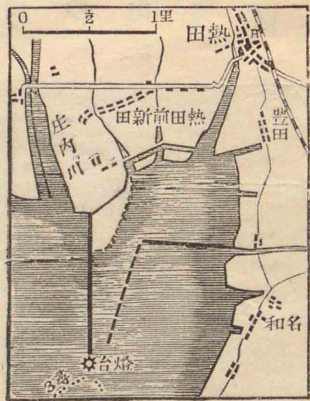
静岡は製茶半紙の集散甚だ繁く、漆器竹細工の産あり。もと駿府と稱し、徳川家康の退隠せし所にして、其の東方の久能山に東照宮あり。濱松は西部の都會にして、鐵道工場樂器製造場あり。駿河半紙は、多く富士の裾野より産する三極を原料とし、大宮の製紙工場は、富士山腹の縦、其の他、富士川上流、北海道等より、木材を取り寄せ、裾野の伏流を利用して、洋紙を製出す。又、小山附近には、綿絲の大工場あり、亦附近の水力を利用す。

駿河灣の北濱一帯は、氣候溫和にして、沼津・田子・浦三保・松原等の勝地は富士山によりて、皆風景の美を加ふ。清水は、其の間にある開港場にして、近時、本縣の茶は、主として、直ちに本港より、米國に輸出せらる。伊豆半島は、富士火山脈に屬する天城山の聳ゆる所にして、修善寺・伊東の温泉間歇泉に名高き熱海等あり。南岸の下田は、開港史上に名高し。

第七九圖。名古屋港略圖。

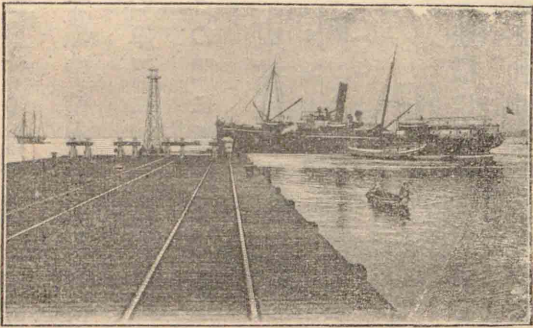
全國一〇三  
愛知一三六  
大和山一一五  
和歌山一三五  
大阪二七二  
愛媛六七八

二九、愛知縣尾張三河。大部は、豊川・矢作川・庄内川等諸川の成せる平地にして、農産多し。西部地方は、又、綿絲織物・陶器等の工業、亦盛んにして、ここに、名古屋市の都會あり。又、知多半島には、龜崎・半田等の釀造地、武豊開港場あり。



名古屋は、東京・京阪の間に立ち、中京の別稱ありて、又、濃尾平野の中心市場たり。熱田神宮を以て有名なる熱田・舊稱・宮は、今本市の一部なり。近時開港場となり、其の築港は、落成せり。綿絲の外、七寶燒・名古屋扇・時計車輛等の産あり。名

第八〇圖。名古屋港の棧橋。  
全國一四二  
愛知二八九  
岐阜二二八  
京都一〇二  
佐賀二二〇





古屋城の天守閣は、離宮に屬し、金鯨燦然たり。第三師團司令部控訴院第八高等學校、高等工業學校、縣立醫學專門學校あり。瀬戸附近は、良質なる粘土の厚層に富み、多治見(縣下)地方と、共に、陶器の製造、極めて盛んにして、名古屋との間に電氣鐵道を通ず。

東部は、矢作川及び豊川の流域に當り、岡崎・豊橋(市)は、各流域の中心市場なり。

豊橋に第十五師團司令部あり。縣下は、織田

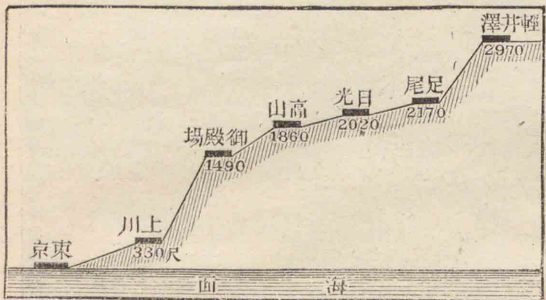
第八一圖。長良川の鵜飼。

豊臣徳川三氏立脚の地にして、桶狹間・長篠等の古戰場、少からず。又、北東部の山地に、鳳來寺山あり。

三〇、岐阜縣(美濃飛驒)。大部は、木曾・長良・揖斐の諸川の流域に屬し、沿岸の低地



第八二圖。都邑の高低。



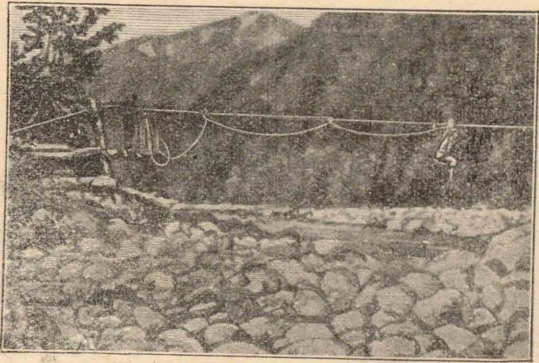
は、相連りて、濃尾平野の一部を成し、岐阜(市)及大垣(市)を中心として、附近は、良米に富み、山地は、養蠶・製紙盛んなり。  
平野は、河床より低き所多く、四方に堤防を圍らせる所少からず。此の地域を輪中と云ふ。近年、木曾長良揖斐三川の分流工事完成し、水害大に減じたり。諸川多くは、鮎を産し、長良川の鵜飼は、古より著はる。平野の西方、琵琶湖斜面に接する所は、地形迫れり、此の附近に、關原(關原)の古戰場あり。

岐阜は、提燈・團扇の名産あり。大垣は、桑名(三重縣下)と舟揖を通じ、米穀の取引甚だ盛んなり。良質の大石を産する赤坂及び風景に名高き養老山は、大垣より遠からず。南東部、多治見地方の製陶業は、瀬戸(四見)と並び稱せらる。

北東部の濃飛高原は、木材・銀・鉛の産に



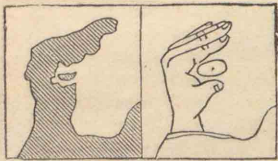
第八三圖  
黒部川の綱渡



富み、山間、到る所、養蠶盛んなり。高山は、山水明媚なる中央盆地の市場にして、生絲・春慶塗・一位細工の産あり。

三一、富山縣中越。東南西の三方は、比較的急斜の山脈を繞らし、南東隅に立山あり、山麓に噴氣孔を存す。黒部川この附近に發し、人跡稀なる深山の間を北走す。其の他、神通川・庄川の二大川あり。これ等の河流は、山地より急激に平野に下り、水害多けれども、飛驒に入るの要路を開く。下流の沿岸には、廣き平野ありて、米産甚だ多く、其の間に、富山(市)・高岡(市)の二都會あり。海岸には、伏木を始め、新湊・魚津等の港あり。

第八四圖  
能登半島の輪廓

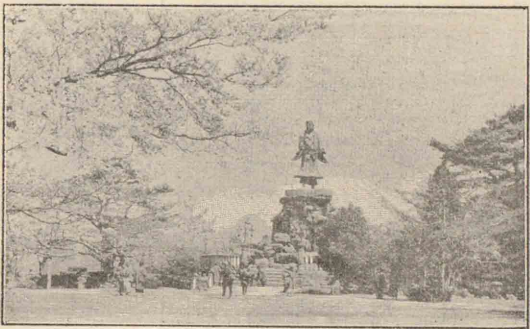


富山は、神通川に跨り、古來、賣藥を以て名高く、全國に行商す。高岡は、銅器漆器を産す。伏木は、開港場なれども、主として、北海道との通商行はれ、新湊と共に、平野の門戸なり。中越鐵道は、伏木に起り、高岡にて、北陸線に交り、更に南方に向ふ。北陸線は、富山を経て、魚津に通じ、更に延長して、直江津に至らんとす。魚津の海上には、春夏の交、壓氣樓の現はるることあり。俚俗これを喜見城、又、潮の山とも云ふ。庄川の上流、五箇山中には、天柱石の奇觀あり。

三二、石川縣加賀。能登。加賀の地は、白山・大日岳の餘波連り、手取川・犀川の二川、これを流れ、海岸は、一帯の平地を成し、潟に富む。平野は、農産多く、羽二重の機業盛んにして、金澤(市)を始め、小松・大聖寺ダイシヤウジ等の都邑あり。鐵道これを連ね、俱利伽羅峠(1000)の附近を經、富山縣に入る。能登半島は、輪廓、恰も掌中に



第八五圖  
兼六園



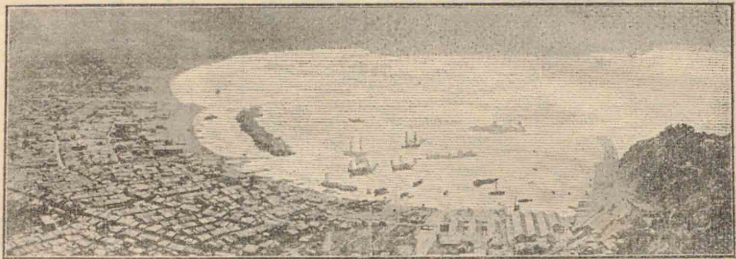
球を握れるが如く、東側に七尾灣を抱く。概ね、丘陵地にして、耕作に適せず、海産物・食鹽は、主要物産なり。

金澤は、裏日本第一の都會にして(二〇)を、羽二重・九谷焼漆器等の産に富み、有名なる兼六園第九師團司令部・第四高等學校醫學專門學校あり。小松にも、羽二重の産多く、又大聖寺は、山代と共に、九谷焼の集散盛んなり。山中には、漆器の産あり。山中山代は、共に温泉を以て名高し。七尾は、開港場にして、附近に和倉の温泉あり。輪島は、堅牢なる漆器を産す。

三三、福井縣(越前若狹)。地形、九頭龍川流域と、若狹灣斜面とに分る。九頭龍川は、上流に大野の盆地を作り、下流に廣き沃野を開き、三國港に至りて、海に入る。この流域は、縣下主要

羽二重産額。  
全七九〇五九  
福川四〇九  
石島四〇九  
新馬二〇四  
群島八七九

第八六圖  
敦賀港



の生産地にして、福井(市)・大野・勝山・武生等の都邑、皆ここに位し、羽二重の製織盛んに行はれ、これが爲めに、本縣の絹織物産額は、京都府の外、これに及ぶものなし。

福井は、羽二重取引の盛大、北陸第一に位す。市の南端に、藤島神社あり。武生には、又奉書紙の特産あり。

若狹灣は、出入多く、若狹鯛・越前雲丹等の水産物に富み、ここに敦賀及び小濱あり。敦賀は、日本海岸地方と、濃尾近畿の二平野とを聯絡する重要な地點を占め、又、開港場にして、ウラジオストックへ定期航路開らけ、二日にして達すべく、歐洲に至る世界往還の捷路に當る。



第八七圖。近畿地方略圖。

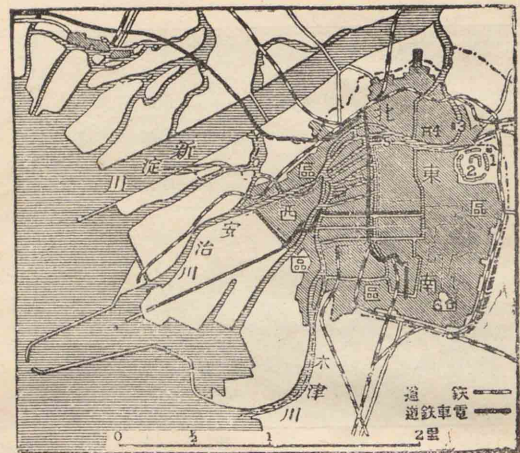


第四章 近畿地方滋賀京都大阪奈良三重和歌山兵庫二府五縣。

三四地形。近畿地方は、若狹灣・大阪灣・伊勢海三方より入り込みて、本州の地形を括扼する部分を占め、北西部の中國山脈に屬する地體と、南東部の紀伊山脈に屬する地體とは、兩翼の形を成す。其の間に存する低地は、琵琶湖より、大阪灣に及び、更に葛城・笠置の小山脈によりて、近江・京都・奈良・大阪の四平野に分れ、淀川・大和川の流域に屬し、本地方中、生業の最も盛んなる部分を占む。

淀川は、長さ短けれども、流域甚だ

第八八圖。大阪市略圖。舊淀川及び新淀川を流す。



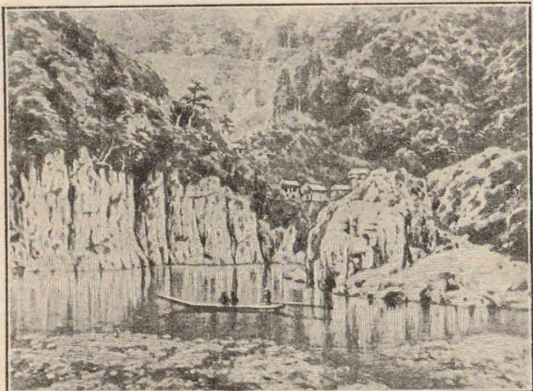
- 1 砲兵工廠
- 2 大阪城
- 3 造幣局
- 4 天満宮
- 5 中之島
- 6 天王寺

大にして我が國第二に位す。源を、琵琶湖に發し、桂川・木津川等を合せ、大阪市を經、分流して、海に入る。近時、改修工事成り、別に新淀川を開き、水害を少くす。

兩翼 地方は、概ね山

第八九圖。熊野川の源。町。

地甚だ多し。即ち、南東部には、紀伊山脈東西に走り、高山深谷其の間に相交はり、山上嶽・大臺原山等聳立し、紀伊川・熊野川・宮川等、輻射狀に流下する諸川

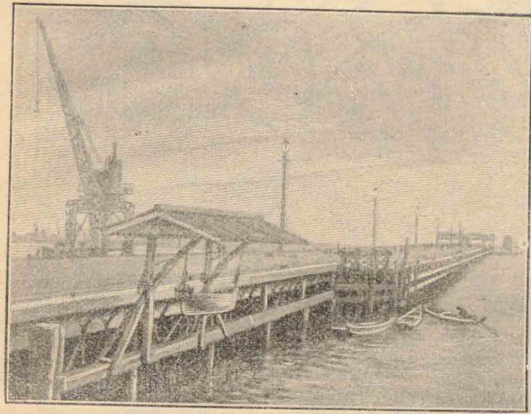




の水源たり。又、北西部は、中國山脈の東部と、丹波高原との地域に當れる山地にして、南流する加古川市川、北流する朝來川、由良川等の分水界たり。

三五、産業・交通。山地多けれども、又、肥沃の平野に富み、殊

に、夙に開けたるを以て、大和・河内・和泉平地の大部の如き、灌漑不便の所と雖も、池塘を設けて、到る所、米作をなし、面積の小なるに似ず、農産物甚だ多し。二毛作よく行はれ、麥・菜種等の産に富む。又、平野の地方は、商工業盛大にして、京都の美術工藝、大阪・神戸地方の工業は、全國に比少し。兩翼地方の山地は、林業を主なる



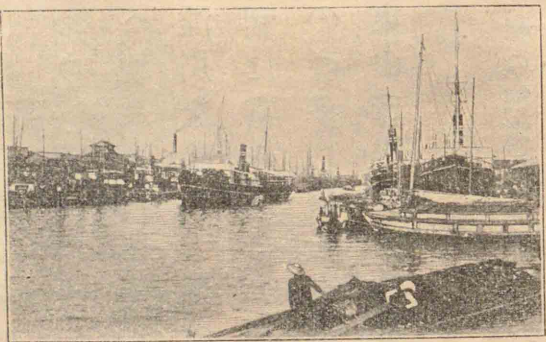
第九〇圖。大阪築港の棧橋。

第九一圖。大阪安治川口。

生業とし、造林の經營、大に見るべき所あり。小屈曲に富み、水産の利多き紀伊半島と、日本海岸とは、概ね山直ちに海に迫り、盛大なる港市の發達に適する所少けれども、瀬戸内海及び伊勢海の要點に當れる所は、港灣の設備、益面目を改むるに至れり。

本地方鐵道の幹線は、東海道線・關西線・山陽線・阪鶴線にして、京都と大阪とは、其の主なる中心を成す。短距離の

支線は、名所舊蹟を通ずるもの、甚だ多く、線路大に錯雜す(二六二を見)。海運は、大阪・神戸を二大中心として、内外航路の汽船常に輻湊す。





三六、滋賀縣〔近江〕。四面山を繞らして、一大盆地を成し、縣外に出づるには、必ず、峽路を越えざるべからず。西境には、比叡・比良等の諸山、東境には、鈴鹿・伊吹の二山脈あり。

これ等の山脈は、京都の防禦線を成ししものにして、逢坂・鈴鹿・不破の關所の址あり。諸川中央に集注して、琵琶湖を湛へ、更に南西隅を切開して、勢多川を成し、淀川を養ふ。湖は、漕運・灌漑の便、水産の利に富み、湖東の平野には、米・菜種・繭・大麻の産多し。大津市は、縣の中心にして、湖東の彦根・長濱等、これに次ぐ。

湖の面積、約四十五方里、全縣の約六分の一を占む。名高き近江八景は、湖畔にあり。姉川・愛知川・野洲川

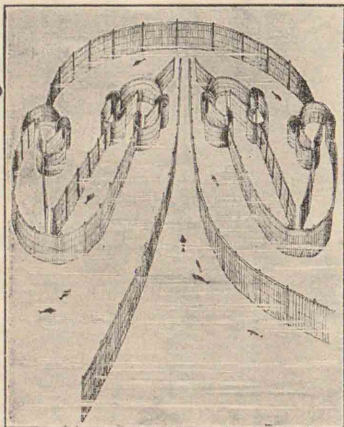


第九二圖。勢多川。石山寺より望む。橋は勢田唐橋及び鐵橋。

等は、平時水無く、雨季には、土砂を流し、堆積作用盛んなり。故に、近時、湖東諸山に、砂防工事を施せり。

大津は、湖の南西隅に臨み、湖上汽船航路の中心を成し、疏水によりて、京都に通じ、麻絲・麻布の産あり。西郊にある三井寺は、比叡山の延曆寺と共に、天台宗の二大本山と稱せられ、北郊には、滋賀都の跡あり。琵琶湖疏水は、市の北端に起り、三井寺の下を過ぎて、京都に至る。

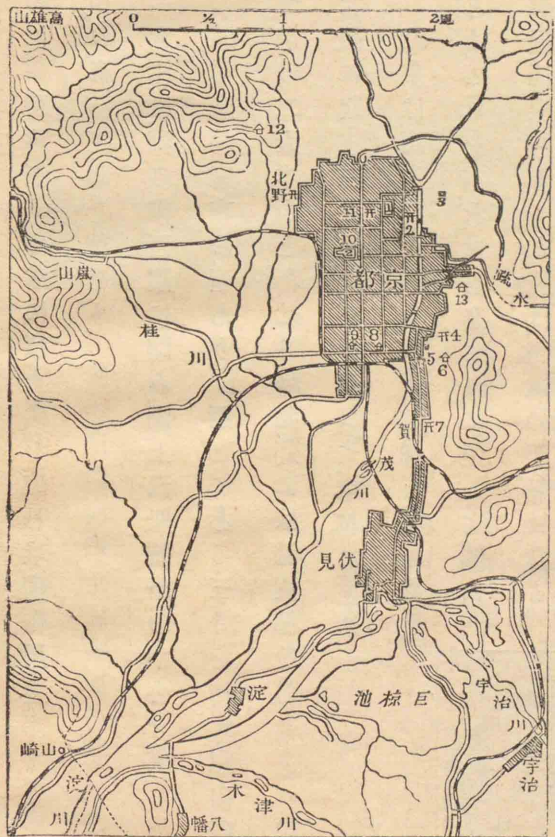
湖東は、鐵道の便多く、東海道線と北陸線とは、これを南北に貫き、これに連りて、關西線・近江線あり。米原は、鐵道の要點に當り、これより以北の地は、養蠶特に盛んにして、其の中心、長濱は、縮緬の産多し。日野・八幡地方は、所謂近江商人の郷土にして、麻織物の業盛んなり。



第九三圖。琵琶湖の蘆。迷路を作りて魚を捕ふ。



三七、京都府〔山城丹波〕。京都平野は、東山・鞍馬山・嵐山・笠置山等にて圍まれ、宇治・桂・木津諸川の落合ひて、淀川を成せる所に於て、京都市を始め、伏見・淀等の都邑あり。京都は、平野の北部、山紫水明の間に位し、桓武天皇以來、一



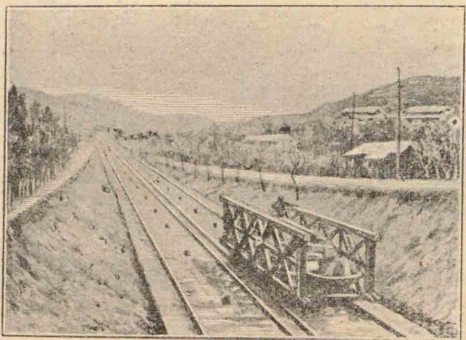
- |     |     |      |      |      |      |      |     |         |        |      |      |      |
|-----|-----|------|------|------|------|------|-----|---------|--------|------|------|------|
| 13  | 12  | 11   | 10   | 9    | 8    | 7    | 6   | 5       | 4      | 3    | 2    | 1    |
| 知恩院 | 金閣寺 | 護王神社 | 二條離宮 | 西本願寺 | 東本願寺 | 稻荷神社 | 泉涌寺 | 京都帝室博物館 | 京都帝國大學 | 豐國神社 | 京都御所 | 梨木神社 |

第九四圖。京都市及び附近略圖。

千餘年間の帝都にして、神社佛閣甚だ多く、全地恰も一大公園たる感あり。且、關西學術及び美術工藝の大中心を成し、又、即位式及び大嘗會は、此の地にて行はせらる。

行政上、上京下京の二區に分れ、街路は規則正しきを特色とす。京都御所は市の北東部にあり。市の内外には、第十六師團司令部、帝室博物館、京都帝國大學、第三高等學校、高等工藝學校、府立醫學專門學校、其の他、有名なる數多の神社佛閣に加ふるに、嵐山高雄等の勝地あり。美術工藝品の製作盛んにして、西陣織の名、内外に高く、刺繡友禪染、清水焼、粟田焼、銅器、紅等、いづれも特色を有す。又、琵琶湖疏水の利用によりて、電氣を起し、市の交通及び工業上に、一大便宜を與へたり。

山崎は、淀川を隔てて、八幡と相對し、京都に入



第九五圖。琵琶湖の疏水。斜面インクをライオンを製作所あり。絹織物産額。

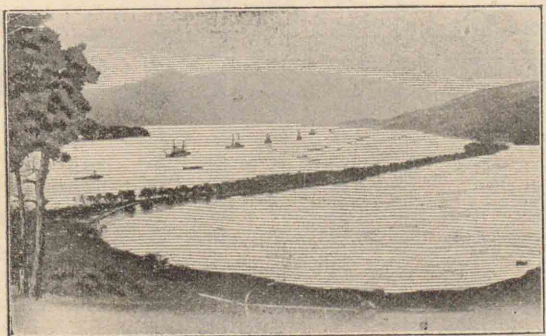
全國	九四
京都	一八三
石川	二七一
群馬	一〇二
新潟	五九
福島	七一



る咽喉を成す。宇治は、宇治川の岸にあり。附近は、茶園甚だ多く、玉露茶の特産地なり。其の平等院は、鳳凰堂を以て名あり。伏見は、京都の南に位して、市街殆ど接続し、淀川汽船航行の極點に位す。笠置山は、史上に名高く、其搖石は、奇觀なり。

本府の北西部は、丹波の大部と、丹後との地域にして、由良川の流域、其の大部を占め、福知山を主邑とす。此の地方より、與謝半島に亘り、蠶業盛んにして、峯山は、丹後縮緬の本場なり。海岸は、屈曲に富み、若狹灣には、舞鶴軍港及び宮津開港場あり。

舞鶴灣は、東西の二支に分れ、東支は、第四海軍區の軍港にして、西支の灣頭に舞鶴あり。宮津



第九六圖。天ノ橋立。北方より望む。

の北西には、日本三景の一なる天ノ橋立あり

鐵道阪鶴線は、大阪より來り、舞鶴を経て、東支の新舞鶴に達す。

三八、大阪府（攝津一部）。三方に山を繞らせども、大部は、大阪

平野の地にして、大阪灣に緩斜し、淀川・大和川の流域に屬す。

地味肥沃、米・麥・綿・菜種の産に富み、農村散在して、大阪堺二市を除く外、著き集落を成さず

大阪は、舊淀川の三角洲上に立ち、瀬戸内海の東端に位し、西に巨大なる築港を控へ、内地商業上、最も優勝なる位置を占め、商業の機關、よく備はり、關西物貨の大集散地たるのみならず、清・韓貿易甚だ盛んなり。工業亦最も盛んにして、市の内



第九七圖。大阪の街路。街路狭く、車の通行を禁ぜざる所あり、東京と大差あり。（四五を見よ）

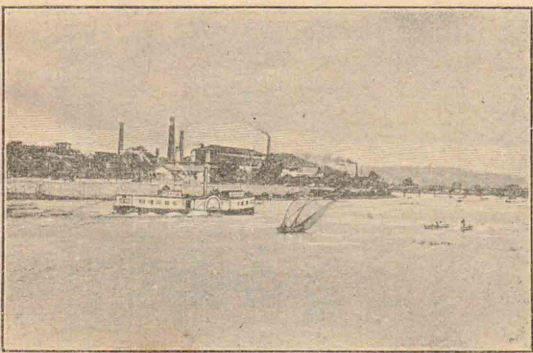


綿絲產額	一四七〇七
全國	一五〇〇七
大阪	五五七
兵庫	五二七
岡山	二九八
愛知	二九八
東京	九八

第九八圖  
川蒸汽は伏見  
造幣局は伏見  
通のものにし  
て吃水淺く外  
車の構造な  
り。

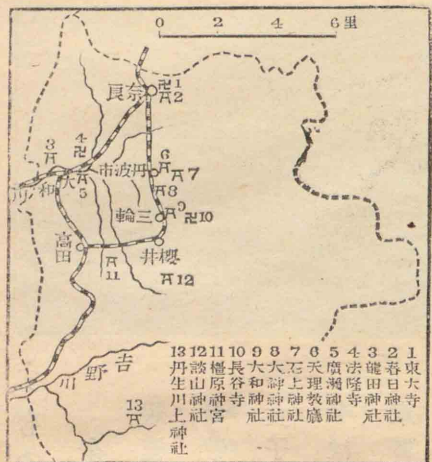
外には、工場甚だ多く、煙突林立の觀あり。中にも、綿絲の産額は、我が國第一に位す。

大阪は、人口約百二十萬、我が國第二の都會なり。行政上、東西南北の四區に分れ、舊淀川市中を貫き、運河橋梁甚だ多し。第四師團司令部、控訴院砲兵工廠、造幣局、高等工業學校、府立高等醫學校、市立高等商業學校等あり。中島公園及び天滿宮、四天王寺等の勝地あれども、人家の稠密に比して、遊覽場の設備、十分ならず。東京と共に、鐵道系の二大中心にして、東海道線の外、關西線、阪鶴線、和歌山線、皆この地を起點とし、神戸との間には、別に電車を通じ、市内の電車も、次第に延長せらる。又大阪商船會社の本社ありて、其の航路は、弘く内外の諸港に及ぶ。



堺は、大和川の河口に沿ひ、清酒鐵器段通を産し、大阪市に對する生魚の市場あり。市南に濱寺の公園あり、市東の大山陵は規模極めて大なり。岸和田は、南部の工業地なり。又、縣の東境にある金剛山は、四條、巖、櫻井と共に、楠氏の舊蹟として著はる。

三九、奈良縣和大。南部は、主として、吉野川、十津川の流域に屬し、紀伊山脈の最も峻嶮なる部分なり。北部は、殆ど大和

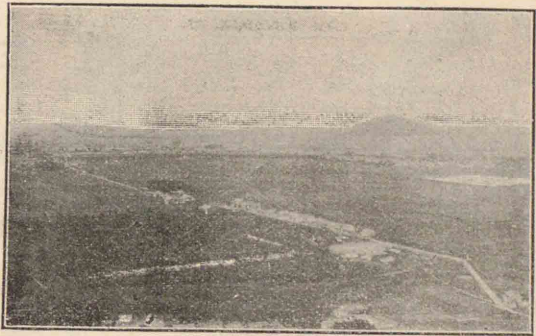


川の流域にして、奈良平野を開く。奈良平野及び其の四邊は、米、果物等の産に富み、交通甚だ便利にして、奈良市、郡山、高田等の都邑、多くここにあり。この地方は、古來、久しく、帝都の地たりしかば、名所舊蹟甚だ多く、所謂大和巡りをな

第九九圖  
大和主要社寺の  
分布。



第一〇〇圖  
畝傍山。



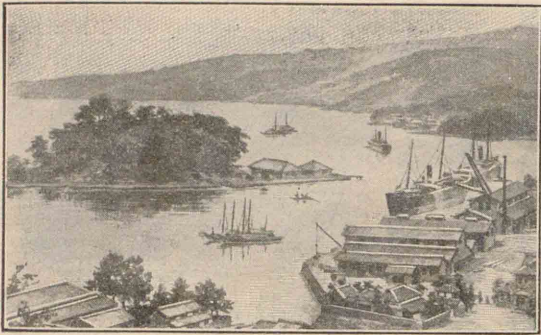
南部山地の入口なる吉野は、南朝皇居の地にして、其の櫻花世に名高し。以南には和歌山・三重二縣に跨る大森林地ありて、林業大に發達し、吉野川・十津川は、木材の運搬路を成す。又此の地方には、凍豆腐の産多し。

すもの、常に絶えず。

奈良は、奈良朝時代帝都の地なり。其の公園は、規模極めて大にして、春日神社・東大寺の大佛・興福寺・皇室博物館・正倉院等、其の内に散在す。又、近時、女子高等師範學校を置かる。有名なる古寺、法隆寺は、郡山より遠からず。平野の南邊、畝傍山の北東には、神武天皇の御陵、多武峯には、談山神社あり。又、奈良の東に當れる山間の月瀨は、梅花の名所なり。

1704

第一〇一圖  
鳥羽港。

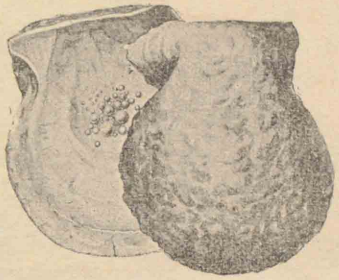


四〇、三重縣伊勢伊賀志伊勢海斜面は、宮川・雲出川等の流域にして、海岸に沿ひて、狹長の平野を開き、北は濃尾平野に連り、米・茶・菜種等の産に富む。(津市) (四日市) (宇治山田) (市) 等縣下の主なる都邑、ここにあり。鐵道關西・參宮の二線、これ(31)を連ぬ。其の海岸より、熊野灘に至る地方は、鰹・鱈・蝦等、水産の利多し。

津は、平野の中央に位する商業地なり。北部の四日市は、伊勢海斜面重要の門戸にして、開港場なり。綿絲の産多く、其の附近より、萬古燒を産す。桑名は、揖斐木曾二川舟運の起點となり、本邦著名の米穀取引所あり。宇治山田は、神宮の所在地にして、古來、伊勢參宮の爲めに、繁榮を維持す。其の海岸に、二見浦あり。



第一〇二圖  
眞珠貝。



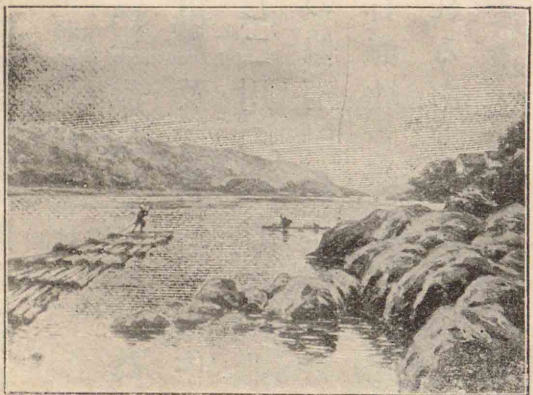
熊野灘斜面は、交通不便の山地にして、特殊の出入に富めども、港市なし。唯志摩半島の鳥羽を小良港とし、船渠・鐵工場の設備成れり。其の近海に、眞珠貝養殖場あり。上野は、伊賀高原の市場にして、附近より産する伊賀焼の集散多し。

四一、和歌山縣紀伊大部。紀伊山脈の南西斜面を占め、山岳丘陵、殆ど全地を掩ひ、常に黒潮の暖風に浴して、森林よく茂り、又、果樹に適す。金剛峰寺を以て名高き高野山、及び熊野地方は、良材の産地として名あり。

高野山上は、一の小高原なり。弘法大師の開基に係る金剛峯寺、其の他、數多の僧坊、今尚ここに存して、一小都邑の觀あり、多く高野豆腐を産す。河流は、谷深く流れて、平野乏しけれども、紀伊川流域は、懸

下第一の生産地にして、交通の便備はり、其の咽喉を扼せる和歌山(市)は、古來有名なる都邑なり。海岸は、小屈曲に富み、漁利少からず。小都邑沿岸に散在し、稍大なるを熊野川口なる新宮とす。

和歌山は、綿ネルの製織、木材の集散多く、吉野地方より出づる灘地方酒樽用の木材も、本市を經由す。風光明媚なる和歌浦漆器の産地なる黒江は、ここに近し。熊野川の沿岸には、無煙炭の産出あり。其の西方、那智山に懸れる那智瀧は、海上より望み得べし。本縣の北西は、紀淡海峡を隔てて、淡路島に對し、大阪灣の口を扼し、要塞の設けあり。



第一〇三圖  
紀伊川の筏。吉野山林の材木を運搬す。

漆器産額	七五六・一
和歌山	二二三・二
石川	九二・三
静岡	六九・九
福島	四四・五
京都	四二・四
○	〇・一



南端の潮岬は、本州の極南部を成し、近時無線電信局を置く。附近は、航海者の警しむる所なり。潮岬以東は、熊野灘にして、捕鯨を以て著はる。

四二、兵庫縣攝津一部、丹波一。播磨、但馬、淡路。本縣は、一畿、三道、五國に跨り、日本海・瀬戸内海の兩斜面に分る。市川及び朝來川は、中央の分水界に發して、殆ど一直線を成し、二川の河谷は、南北兩斜面の聯絡に、大なる便を與ふ。其の他、南斜面には、加古川・揖保川等あり。瀬戸内海斜面は、明石海峽を隔てて、淡路島に對し、又、六甲山・鶴越等の海岸に迫れるあり。六甲山北の有馬は、温泉を以て著はる。

明石海峽の北岸及び附近は、後に山を負ひ、淡路島を望み、氣候良好、風光明媚なるを以て著はれ、須磨・舞子・明石等の勝地多く、神戸(市)も亦此の邊にあり。神戸は、横濱と共に、東西の二大開港場にして、輸入に於ては、本邦第一に位し、東洋諸

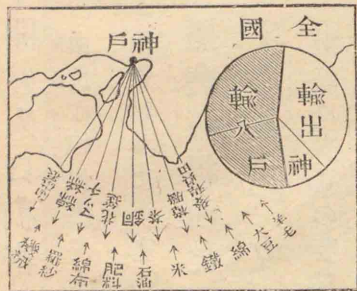
マツチ産額。  
全國 一五〇萬圓  
兵庫 七五〇萬圓  
大阪 五七五萬圓  
愛知 六七八萬圓

第一〇四圖。  
神戸港。

第一〇五圖。  
神戸港の貿易。  
輸出 百萬圓  
全國 三七八萬圓  
神戸 八四萬圓  
全國輸入 四三六萬圓  
神戸 一九一萬圓

國への輸出額も、亦甚だ多し。工業も、益盛運に向ひ、巨大なる造船所、數多のマツチ工場あり。

神戸港は、舊湊川河床の突出によりて、兵庫神戸の二港に分れ、近時港灣改良の大計畫あり。川崎三菱の二造船所ありて、三菱の浮船渠は、東洋第一と稱せらる。市に、湊川神社、高等商業學校あり。



神戸以東の海岸は、水質最も釀酒に適し、清酒の産額、極めて夥しく、これが爲めに本縣の産額は、全國第一に位し、西宮地方の所謂灘五郷及び伊丹の名、大に著はる。淡路島は、瀬戸内海の東を擁し、土地よ





清酒産額	四一六萬石
全國	一六〇七
兵庫	二六〇
福岡	一八〇
廣島	六八〇

生野の金銀銅産額	一七二萬圓
金	七二
銀	一四
銅	一六

く開け、人口稠密なり、洲本を主邑とす。

由良は、紀伊半島と紀淡海峡を挟み、福良は、鳴門海峡を隔てて、四國の撫養と相對し、共に要塞の設けあり。福良の近傍は、淡路焼を産す。

播磨灘斜面には、播磨平野ありて、米・麥の産に富み、姫路市(市)を中心とす。又、赤穂の鹽龍野の醬油、共に世に名高し。

姫路は、交通の要點に當り、革細工・高砂染を名産とし、第十師團司令部あり。これより明石に到る間、松の名所甚だ多し。

日本海斜面は、主として朝來川の流域に屬し、多く牛を飼養し、又、養蠶業近年盛大に赴けり。豊岡を名邑とす。

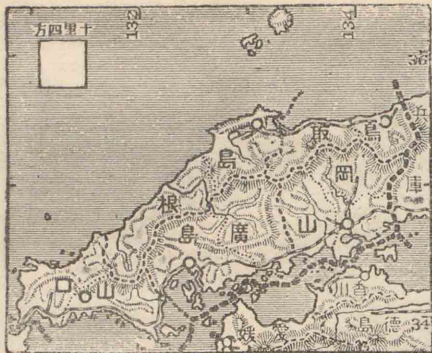
豊岡には、柳行李の集散多く、出石の出石焼、玄武洞の奇觀、城崎、湯島温泉皆名高く、朝來川水源地の生野は、金銀銅の産に富めり。

### 第五章 中國地方

四三、地形。中國地方は、本州の西部を占め、南は、瀬戸内海に、北は、日本海に面し、自から山陰・山陽の二部に分る。大體に於て、平凡なる山地にして、六千尺以上の高山なく、北部の大山(伯耆富士)を最高點とし、三瓶山・蛭山

第一〇六圖 中國地方略圖

第一〇七圖 江川の下流



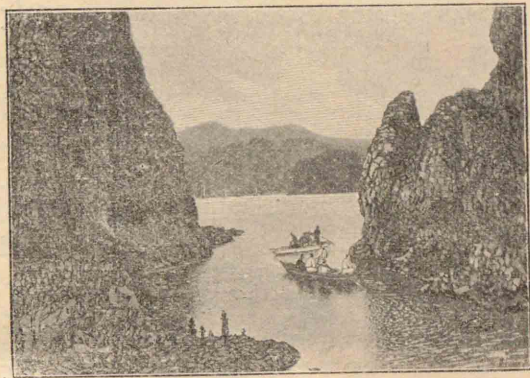
寂地山數多の三國山等を著き山とす。河流は、北斜面の江川を最大とし、南斜面の旭川・太田川等、これに次ぐ。海岸は、南北大に趣を異にす。山陽





第一〇八圖  
島根半島の海岸  
加賀浦港の神窟より外を望む

第一〇九圖  
備後系崎港、沿岸平地、山陽道、鹽田等に注目せよ



は、瀬戸内海に臨み、島嶼・港灣甚だ多く、山陰は、日本海に臨み、島根半島と、隱岐とを除く外、著き出入・島嶼なく、且、海岸概ね絶壁を成す。

四四、産業。山地多けれども、土地の開墾、大に進み、平地は、良質の米を出す。三備の南部には、藺草を植ゑ、疊表・華筵等を産し、又、眞田の産多し。沿岸は、漁利多く、瀬戸内海の鯛、殊に名高し。山陽の沿岸には、製鹽業發達し、内部の山地は、花崗岩の分解によりて、

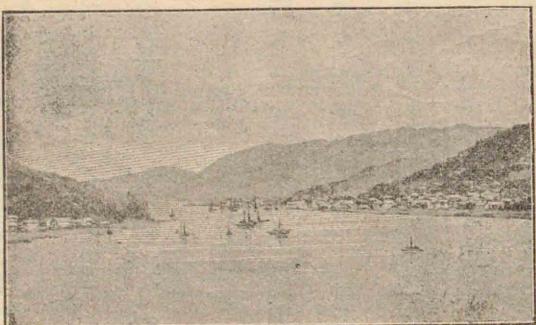


砂鐵に富む。牛の飼養盛んにして、耕作には、主として、牛を用ひ、農家一般にこれを飼養す。神戸牛と稱するは、多く此の地方の産に係る。

四五、交通。鐵道山陽線は、南部を縦貫し、支線少からず。

山陰線も、次第に東西に延長せらる。唯、山陰・山陽の聯絡、尙不十分に於て、境上には、四十曲の如き難路多し。海運は、次第に盛んにして、殊に、瀬戸内海は、内國の主要航路に當れり。山陰は、冬季風波荒くして、航海困難なり。

四六、岡山縣（備前備中美作）。吉井川・旭川・高梁川等の流域にして、下流は、平野廣く、米・藺草等の農産に富み、綿絲・華筵・疊表・眞田等



第一〇圖  
尾道瀬戸内海小汽船の航路に當る。右は尾道市左は島。

眞田産額  
全國 四二二萬  
岡山 一四五二  
香川 一四二〇  
山口 二六〇九



の工業所々に起り、大阪・四國との交通便利にして、岡山(市)を  
始めとし、玉島・笠岡等の都邑多し。兒島半島は、製鹽業盛ん  
にして、中に抱ける兒島灣は、水淺く、近時、埋立の業大に進み、  
新開の地を見るに至れり。

岡山は、旭川の下流に跨り、後樂園第十七師團司令部第六高等學校、醫學專門學校あり。綿絲、華筵、疊表の産多し。岡山より、旭川河口の三幡港を経て、香川縣の高松に至る鐵道聯絡汽船あり。兒島半島の味野は、製鹽業の中心なり。南岸宇野港は有望の港にして、鐵道支線の開通、近きにあり。倉敷、玉島、笠岡は、綿絲を産す。此の地方は、華筵、眞田の製造盛んなり。高梁川流域は、高粱を中心地とし、眞田、煙草、銅(吉)多し。倉敷



第一二圖。莫塵織。

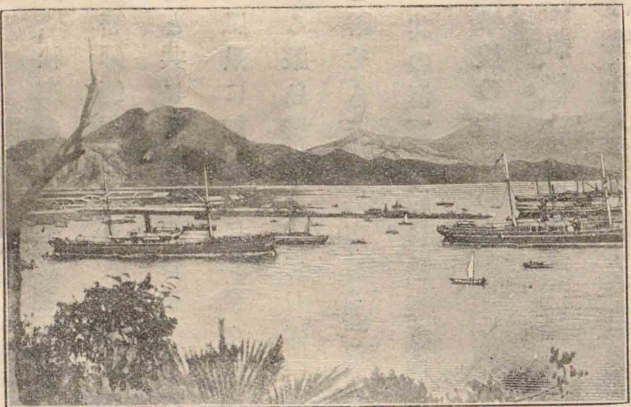
莫塵(輸出向)産額  
全國 四七二萬圓  
岡山 三四一萬圓  
福岡 四八七萬圓  
廣島 四四九萬圓  
吉岡の銅産額八三萬圓

の東方帶江は、銅を産し、縣の東部、伊部は、伊部燒三石は、耐火煉瓦及び蠟石に名あり。吉井川の上流地方には、津山あり。鐵道中國線の終點なり。

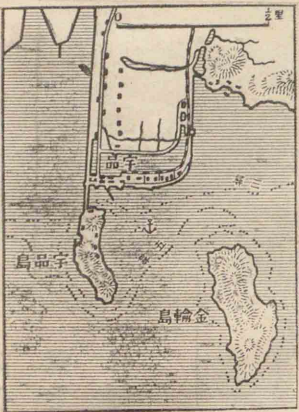
四七、廣島縣(安藝備後) 南部は、太田川

蘆田川等の流域に屬し、海岸は、屈曲に富み、島嶼多く、殊に、西部には、廣島灣灣入し、灣頭に、中國第一の都會たる廣島(市)灣の西邊に、嚴島の勝地、東岸に、吳軍港あり。

廣島は、太田川の三角洲上に位し、宇品港を控ふ。近時、



あり。



第一三圖。宇品港岩圖。

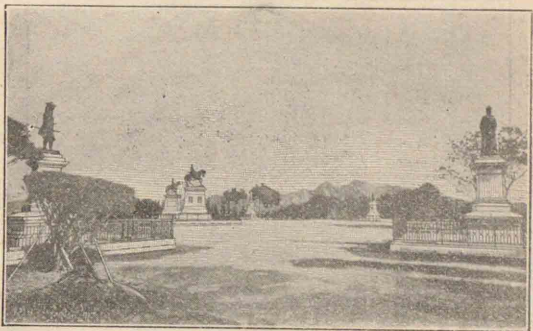
第一二圖。宇品港。



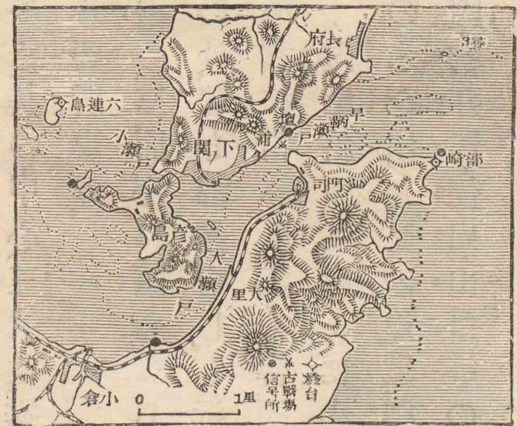




第一一六圖。山口の龜山公園。銅像は舊藩主毛利公及び其の支藩主の像。



軍煉炭所を置かる。三田尻近傍には、盛大なる鹽田あり。山口は、山間に位し、地方行政の中心たるに過ぎず。龜山公園、高等商業學校あり。厚東川の上流、大嶺は、無烟炭を産し、鐵道により徳山煉炭所に送り、其の原料に供す。萩は、阿武川の三角洲上に立ち、萩燒、夏橙を名産とす。



第一一七圖。下ノ關海峽。

下ノ關(市)は、開港場にして、下ノ關海峽を隔てて、福岡縣の門司に對し、瀬戸内海の西門を扼し、附近に要塞の設けあり。鐵道山陽線の終點にして、

東京へ七百餘哩を隔て、釜山を距ること僅に百二十哩、韓國・本州間聯絡の要點なり。

下ノ關海峽は、潮流甚だ急にして、暗礁多し。近時、船舶の通過、次第に頻繁なるを以て、遂に沿岸に信號所を設くるに至れり。

四九、鳥取縣(因幡伯耆)。地幅狹小にして、

西部に聳ゆる大山の附近は、原野甚だ廣けれども、賀露川・天神川・日野川の流域は、主要の生産地にして、蠶業次第に進歩す。特に、西部地方は、綿・繭の産出に富み、日野川の上流よりは、砂鐵を産す。海岸は、極めて單調にして、僅に夜見濱(ミナト)の中海を抱けるあり。

大山の裾野なる大山原は、牧馬盛んにして、船

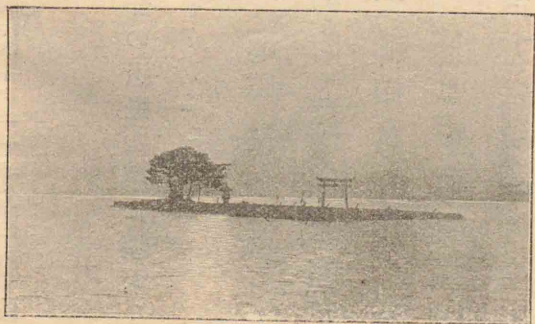
第一一八圖。大山(米子の沖より見たる)。





上山は、勤王の古蹟なり、其の西御來屋に、近く名和神社あり。  
 都會の主なるものは、鳥取(市)の賀露川、倉吉の天神川、米子の日野川に於けるが如く、各河流の流域に發達して、其の中心市場たり。米子は、又、中海の要津にして、境は、夜見濱の北端にある開港場なれども、共に大船の碇泊に適せず。

五〇、島根縣出雲右見隱岐。大部の地は、斐伊川、江川の流域に屬し、斐伊川は、宍道湖に入り、堆積作用盛んにして、湖上僅に小汽船の航路を存し、江川は流れ急にして、僅に舟筏を通ずるに過ぎざれども、宍道湖の附近には、山陰道に稀なる平野ありて、農産多く、湖脚に、縣下の中心都會松江(市)



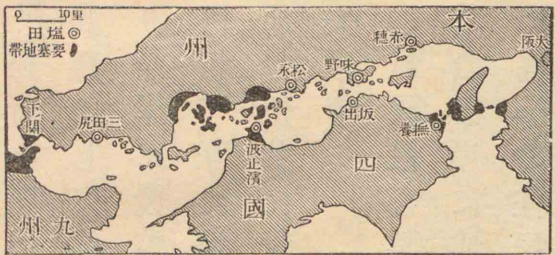
第一九圖。宍道湖。島は嫁ヶ島。松江に近き所にあり。

あり。山地は、銀銅半紙等の産に富み、西部の沿岸に、濱田港あり。

松江は、宍道湖の中海に通ずる要所にありて、風光に富む。附近に出雲燒、瑠璃の産あり。今市は、湖西平野の中心にして、杵築には、出雲大社あり。濱田は、西部の門戸に當れる開港場にして、津和野は、山口縣に通ずる要所なり。

隱岐群島は、島前、島後の二部に分れ、島後の西郷は、良錨地なり。隱岐鰯を名産とす。島前は、後鳥羽天皇の舊蹟を存す。島後は、後醍醐天皇遷幸の地なり。

五一、瀬戸内海。瀬戸内海は、紀淡、鳴門、下關、豊豫の四海峽を門戸とし、更に、數多の灘に分れ、大小無數の島嶼點々散布して、砂白



第二〇圖。瀬戸内海略圖。



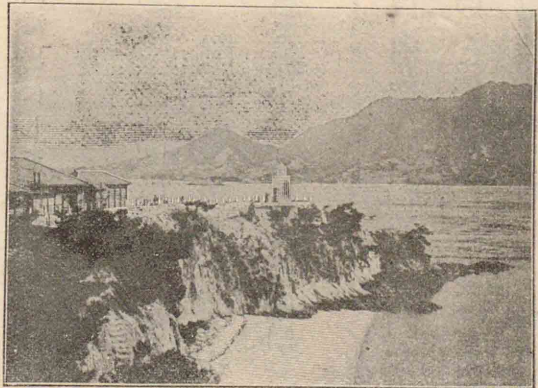
第一二一圖。大久野島燈臺。忠海の附近にあり。

製鹽産額 百萬斤 全國一〇〇八 十州鹽田八一

く、松青き、花崗岩地の景に富めり。風波穩にして、錨地多く、航海の業夙に興り、沿岸に發達せる幾多の港市は、相聯係して、互に繁榮を加ふ。風景の美、交通の便、共に、世界の標式的内海たるを失はず。

氣候、最も製鹽に適して、十州鹽田は、其の沿岸に成立し、漁利亦大なり。沿岸島嶼の住民は、多く水産航海の業務に就き、或は海外に移住す、

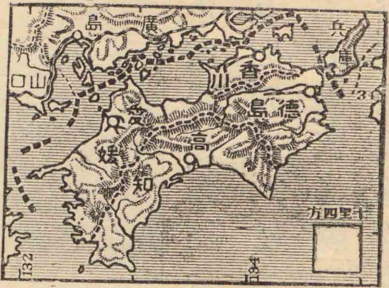
舊時の所謂瀬戸内は、淡路島以西を指し、大阪灣を含まず。



第六章 四國地方徳島香川愛媛高知四縣

五二、地形。四國地方は、瀬戸内海の南側を成し、四國山脈東西に連り、劍山・石槌山を最高點とす。北東に一支を出す、これを讃岐山脈といふ。四國山脈の海岸に盡くる所は、犬

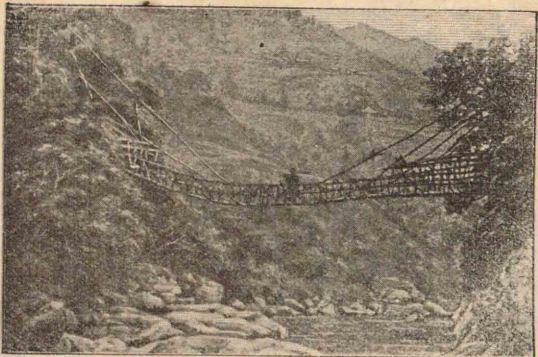
第一二二圖。四國地方略圖。



牙錯綜せる特殊の海岸を成し、對岸の陸地と、聯絡を求めんとするものもの如し。川は、東斜面の吉野川、最も大にして、仁淀川・渡川等、これに次ぐ。

五三、産業・交通。内海の沿岸は、製鹽業盛んにして、對岸の中國地方との間

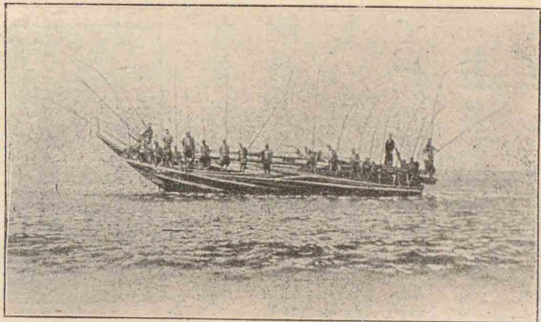
第一二三圖。祖谷の葛橋。





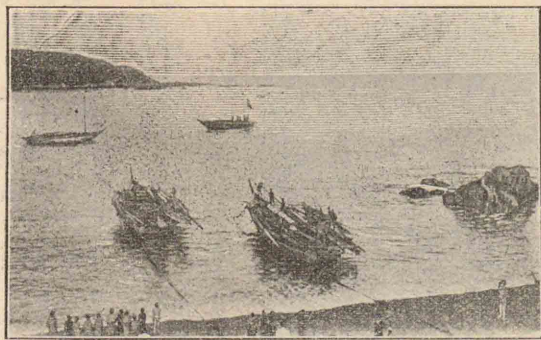
第一二四圖  
鯨釣り。

第一二五圖  
鯨船の歸り。



る道路も、勾配急にして、屈曲甚しく、相互間の交通は、主として、海運による。  
五四、徳島縣波阿。北部は、吉野川、南部は、勝浦川、那賀川等の流域に屬す。西

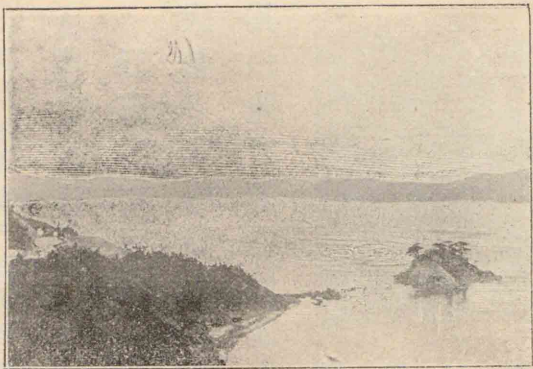
に、小汽船の交通頻繁なり。吉野川の下流、亦平地に富み、葉藍の産多し。太平洋の沿岸は、高温多雨にして、杉、檜の美林あり、又、樟樹、柑橘類よく生育す。其の近海は、黒潮の影響を受けて、鯉、其の他の水産物多し。鐵道未だ四縣を聯絡せず。縣境の山脈を通ぜ



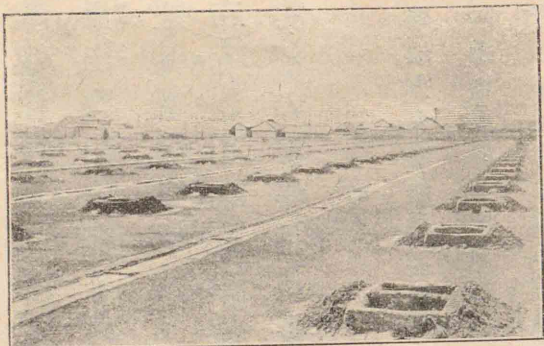
製鹽産額。  
全國 二〇五萬  
徳島 一三六萬  
廣島 八八萬  
沖繩 一六萬

第一二六圖  
撫養の鹽田。

第一二七圖  
鳴門の潮流。  
右の島は飛鳥島  
向ふは淡路島



部は、山高く、谷深く、四國第一の劍山、別世界の稱ある祖谷山村、大崩壊の大峽谷、ここにあり。吉野川沿岸の平野は、葉藍の産額、我が國第一に位し、煙草の産亦多く、  
徳島(市)を門戸とし、池田、脇町等の都邑あり。那賀川、勝浦川等の流域には、茶、蜜柑の産多し。海岸一帯は、漁利少からず、又、鳴門海峽に臨める撫養は、良質の齋田鹽を出す。



徳島は、近時、綿織物の製織盛んなり。池田は、葉煙草、脇町は、葉藍の市場なり。鳴門海峽潮流



の最大速度は、一時間十裡に及び干潮には、海水渦を巻き、水聲烈しく鳴る。鳴門鯛の名産あり。

五五、香川縣讃岐

北端は、狭き水道を隔てて、兒島半島と相望む。域内高山なく、降雨乏しく、河流皆小なれども、萬濃池、其の他、數多の溜池を築きて、水利を圖り、米穀、甘蔗の産多し。

製鹽業大に發達して、坂出鹽田は、最も著はる。地域狭小なれども、農産物多く、人口甚だ密なり。高松(市)、丸龜(市)、多度津、善通寺等、主要の都邑は、北部の海岸地に多し。

高松は、多度津と共に、中國地方と聯絡の要點なり。保多織文綺塗を産し、附近に栗林公園、屋島の勝地あり。丸龜は、華筵を産し、善通寺は、第十一師



第一二八圖  
高松市を隔てて  
屋島を望む。

團司令部の所在地なり。象頭山下に、鐵道の終點琴平あり。其の金刀比羅宮は、我が國船員の崇敬厚く、この地に、水難救濟會の本部あり。

源平の古戰場、屋島の東方に、五劍山あり、今一峰を缺き、四峰聳立す。白峰には、崇徳天皇の御陵あり。讃岐富士の名ある飯野山は、丸龜の南東に峙つ。屬島多く、小豆島最も大にして、素麵醬油の産多く、寒霞溪の勝地あり。粟島には、良好の錨地あり。本島及び鹽飽諸島の住民は、數多の海員を出せり。

五六、愛媛縣伊豫

地形の大部は、豊後水道、伊豫灘、燧灘の三斜面に分れ、伊豫灘斜面は、殆ど肱川、重信川の流域に屬し、重信川の下流附近は、綿絲、伊豫緋、砥部燒等の産に富み、松山(市)は、其の中心たり。肱川の流域は、製紙業盛んなり。

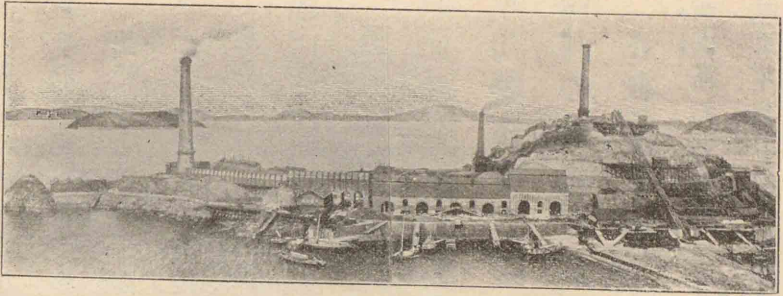
松山を中心として、短距離の鐵道は、道後、温泉、三津濱、高濱等を聯絡す。三津濱は、高濱と共に、興居島の風陰に當り、松山に對する門戸たり。高濱は、宇品へ、汽船を通じ、中國と聯絡す。興居島は、伊豫富士の名あれども、山容著く



第一二九圖  
別子の鐵道。

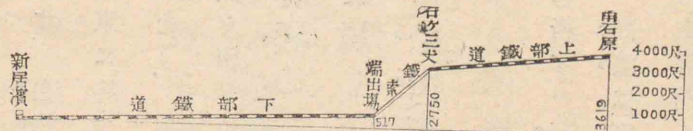
別子の銅産額。  
四五九萬圓。

第一三〇圖。  
四坂島製煉所。



似ず。  
豊後水道斜面は、水産の利多く、宇和島の良港及び八幡濱あり。燧灘斜面に今治の名邑、別子銅山あり。

今治には綿ネルの産多し。別子は我が國有数の銅山にして、其の港、新居濱との間に、鐵道を通ず。もと新居濱に製煉所を置きしが、今は、煙害を防ぐ爲めに、海上の四坂島に置く。高繩半島の波止濱附近は、製鹽盛んなり。前面の來島海峡は、瀬戸内海主要航路の一なれども、潮流急にして、航行危険なり。

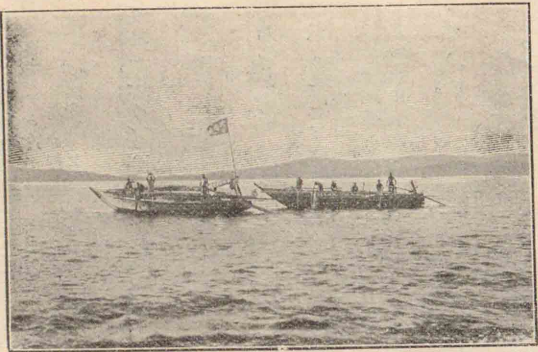


第一三一圖。  
珊瑚採收船と  
は旗を擧ぐ。  
和紙産額。  
全一五九萬圓  
高知一四四萬圓  
愛媛一四四萬圓  
岐阜一四四萬圓  
福岡一四四萬圓  
兵庫一四四萬圓

五七、高知縣<sup>佐土</sup>。室戸足摺の二岬相對して、半圓狀の土佐灣を抱き、紀伊半島の突出に反對す。仁淀川、渡川等の河は、流れ急に、谷深く、水利乏し。灣頭の高知平野は、高知<sup>(市)</sup>を中心とし、附近は、米産に富み、所によりて、年二回の收穫あり。又、須崎は、大船の碇泊に適す。

浦戸灣口には、砂洲ありて、汽船入港に苦しむ。

山地は、樟、檜、杉、檜等の林産に富み、又多く三極楮を植ふ、和紙の産額、我が國第一に位し、仁淀川の沿岸、伊野は、其の中心なり。近海は、鰹<sup>(一二三)</sup>、鰯<sup>(一二三)</sup>等に富み、土佐節の名、世に高く、室戸岬附近には、捕鯨盛んにして、沖島の近海には、珊瑚採收船群集す。





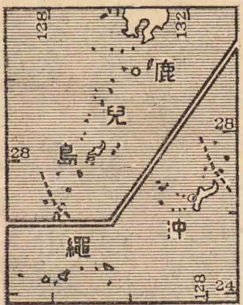
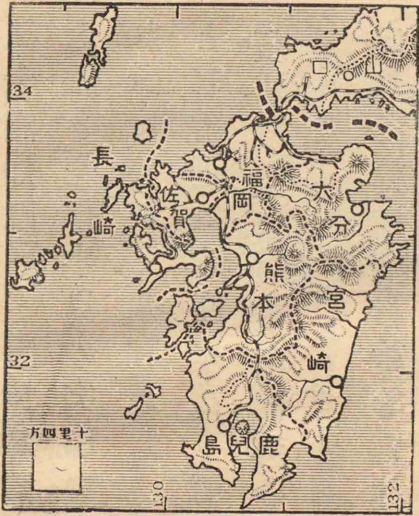
第七章

九州地方

福岡佐賀長崎熊本大分宮崎鹿兒島沖繩八縣

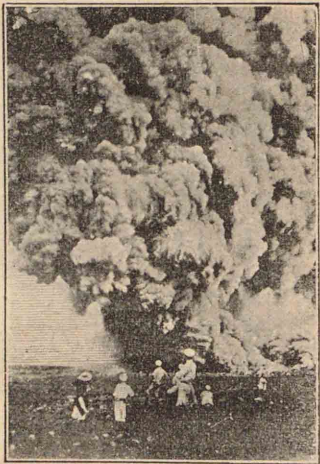
五八、地形・氣候。九州は、中國・四國の南西にある一大島にして、壹岐・對馬は、韓國に渡る飛石の如く、南西の薩南諸島と琉球諸島とは、弓狀の列島を成して、遠く臺灣に連れり。九州北部山脈及び九州南部山脈は、九州島の南北兩部に連り、北部山脈には、所々に低地あり、概ね丘陵性なれども、南部山脈には、祖母山・市房山等の高峰聳立す。兩山脈の間

第一三三圖。九州地方略圖。其の二。



には、阿蘇火山脈を通じて、溫泉・岳・阿蘇山・由布嶽等

第一三四圖。阿蘇山噴煙せる所は新噴火口。

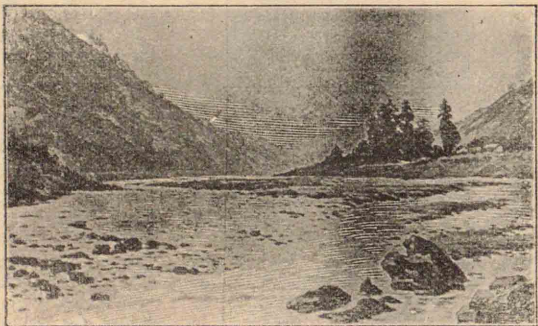


の火山あり。更に、霧島火山脈南部を通じ、霧島山・開聞岳等聳立す。河は、筑後川・球磨川・内川最も著く、筑後川の沿岸には、本邦屈指の筑紫平野を開けり。

第一三五圖。球磨川。人吉八代間に急流を作る。

海岸線の發達、最も著く、日本海・東支那海の二斜面特に然り。西部の有明海は、潮汐昇降の差、十八尺に達し、我が國第一なり。南部は、高温・多雨にして、樟樹・柑橘に適し、琉球諸島に至れば、甘蔗・芭蕉等、熱帯性の植物、よく生育せり。

五九、産業・交通。北部の炭田は、全國石





第一三六圖。筑豊炭田略圖。炭田と鐵道との關係を見

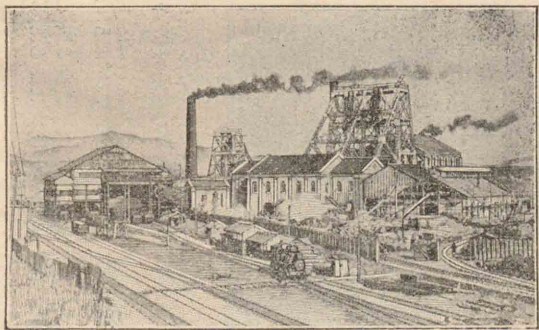


層炭夾

炭産額の大部分を出し、附近の良港は、東亞諸國に對し、大切な位置を占む。故に、鐵道最も發達し、開港場も、甚だ多

く、製鐵・造船等の大工場起れり。農産も亦多く、筑紫平野の米、最も名あり。南部は、金の産額、内地第一に位し、廣大なる原野には、古來、牧馬の盛んなること、奥羽と併び稱せらる。又、近海、水産の利多く、南東部の山地には、林産豊富なり。

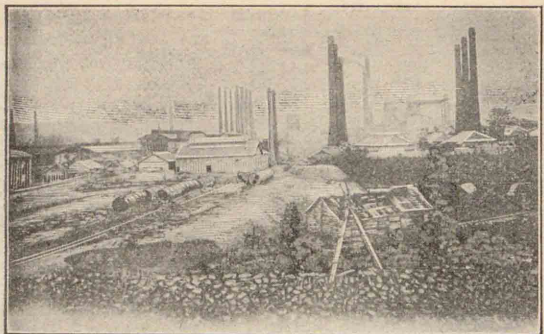
鐵道の幹線は、門司に起り、鳥栖にて分れ、一は長崎に、一は人吉に至る。又、鹿兒島線は、近時人吉に



第三七圖。三池炭坑(萬田坑)

福岡縣の石炭産額三五五〇萬圓

第一三八圖。八幡の製鐵所。一、九一萬圓鐵鋼。二、一五九萬圓鐵

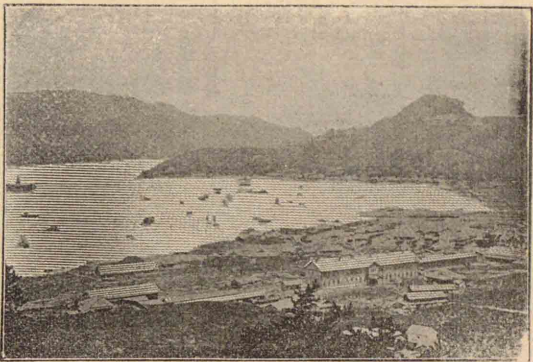


接續して九州を縦貫せり。筑豊炭田附近は、線路特に錯雜し、東京及び京阪附近と共に、我が國の三鐵道網たり。  
六〇、福岡縣(筑前筑後) 九州の北部にありて、筑後川、遠賀川の流域を占む。沿海の平野及び筑紫

平野は、農産に富み、筑豊及び三池の二大炭田を控へ、大規模の工業は、各地に起り、商業亦盛んなり。又、本縣は、四市、四開港場、二箇の師團司令部所在地を有す。門司(市)は、筑豊炭田の門戸に當れる盛大なる貿易港にして、附近の大里、小倉(市)等と共に、亦工業盛んなり。八幡の製鐵所は、繁榮なる八幡町を興し、若松を開港場となせり。福岡(市)は、古來有名なる都會に



第一三九圖  
門司港。



して、博多は、其の港なり。

門司は、瀬戸内海の西口を扼し、石炭の輸出甚だ多く、大里精糖の原料粗糖を輸入し、又、綿絲綿花の取引、甚だ盛んなり。小倉には、第十二師團司令部あり。洞海に臨める八幡の製鐵所は、清國大冶の鐵鑛を原料に仰ぐ。

福岡は、博多灣に臨み、沃野を控へ、商工業盛んなり、多く博多織を産す。附近に醫科大學あり、又、工科大學の開講、近きあり。博多は、開港場

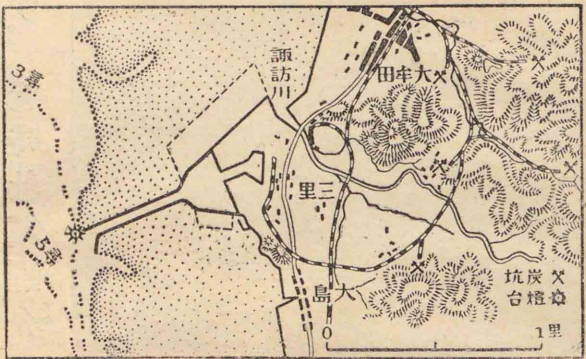
にして、前面の海中道の西戸崎を埠頭とす。福岡の附近は、元寇の遺跡多し。市の東方より、海中道に至る海岸は、風景に富み、箱崎宮、香椎宮あり。芥屋大門は、灣西なる半島の西端にあり。太宰府は、福岡の南東に當る。

有明海斜面は、米産の外、櫨を植え、生蠟の産甚だ多く、又、菜

三池炭山の産額  
七二三萬圓。

第一四〇圖  
三池港略圖。

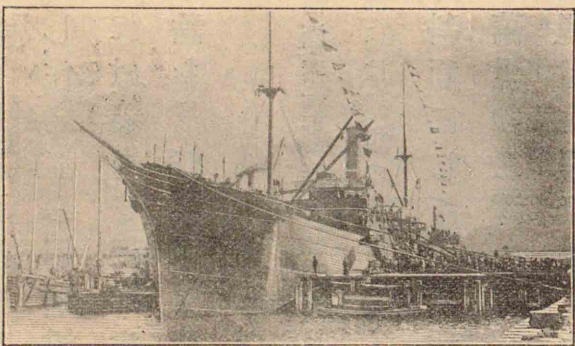
第一四一圖  
三池港の棧橋。



種綿織物、清酒、華筵等を出し、久留米(市)柳河、若津等の都邑多し。大牟田は、三池炭田の爲めに興り、其の三池港は、近時築港完成せり。

久留米は、筑後川の南岸に沿ひ、久留米紵の産出多く、第十八師團司令部あり。柳河、若津地方は、清酒の醸造盛ん

なり。三池港は、近時の開港場にして、運炭の方法、船渠の設備完全にして、従來口、津を經由せし三池炭は、直ちに本港より輸出せらる。





六一、佐賀縣（肥前一部）。南部は、有明海斜面に屬し、農産豊なる筑紫平野の一部にして、佐賀市を中心とし、住之江の開港場あり。有明海（一二九）は、遠淺にして、低潮には、廣き干潟を生ず。近時、牡蠣（アサギマキ）・鯉介の養殖盛んにして、罐詰を清韓諸國に輸出す。



第一四二圖。唐津港。虹の松原を隔てて領巾振山を望む。

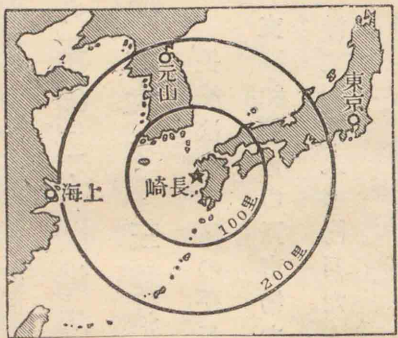
佐賀市には良好の清酒素麵を産し、住之江は、石炭を輸出す。又、西部には武雄の温泉地あり。西北部は、玄海灘斜面にして、東松浦半島突出し、唐津・伊萬里の二灣を分つ。各灣頭の唐津・伊萬里は、主邑なり。

唐津は、開港場にして、南東に炭田地を控へ、石炭の積出多し。附近に、虹の松原及び領巾振山あり。有田は、陶器の名産地にして、伊萬里は、有

田陶器の積出、少からず。東松浦半島の端にある名古屋は、征韓史上に名高し。

六二、長崎縣（肥前一部）。

半島部と、島嶼部とより成り、海岸線の發達、他に比なし。又、水産に富み、鱒・烏賊・海鼠の産額甚だ多く、鱸の名産あり。半島部には、西彼杵・島原・北松浦等の半島あり。島原半島（カラスミ）には、温泉岳聳え、山中の温泉場は、夏季



第一四三圖。長崎港の位置。

内外人の避暑地たり。半島の南端にある口津は、もと三池炭の中繼輸出をなせる開港場なりしが、三池の開港以來、大に衰ふ。北松浦半島の南岸にある佐世保市は、第三海軍區の軍港の所在地にして、鎮守府の設けあり。西彼杵半島の南部には、深く入り込みたる

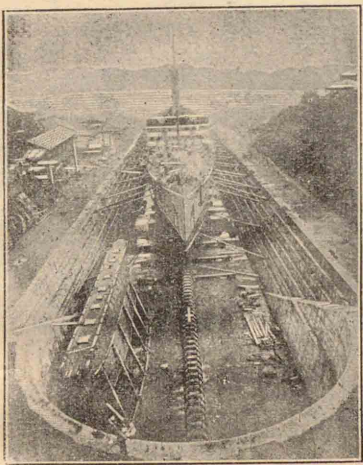


灣ありて、灣頭の長崎(長崎)市は、門司と共に、九州の二大開港場を成し、灣内には、規模宏大なる三菱造船所あり。

長崎は平戸島の平戸に代つて、徳川時代より、支那和蘭との互市場たりし所にして、久しく西洋文明輸入の門戸たりき、近年、築港完成して、

益良港となれり。主として、清國、西

比利亞と貿易を行ひ、石炭、錫等を輸出し、米、大豆、糟等を輸入す。此の地に、控訴院、醫學專門學校、高等商業學校あり。長崎灣外、高島附近の海底は、石炭層の埋藏



第一四五圖。三菱造船所。船渠の中にあつるは、天洋丸。あは、三萬三千五百噸。

第一四四圖。長崎港。



豊富にして、高島、端島に、炭坑を穿ちて採掘す。

島嶼部の壹岐は、勝本を名邑とす。對馬は、上下二島より成り、其の間に竹敷要港ありて、對馬海峽防禦の要點を成す。上島の嚴原、下島の鹿見、佐須、奈は、韓國に對する開港場なり。沿海多く、鰯を産す。五島は、數多の島嶼より成り、福江島の福江は、良錨地なり。近海は、鯨、烏賊の産に名高し。

六三、熊本縣(肥後)。北東部には、雄大なる阿蘇火山、南東二境には、九州南部山脈連れども、諸川の下流は、九州屈指の平野を開き、米の産多く、附近の臺地は、阿蘇の裾野に連り、牧畜盛んに行はれ、粟の産額、亦極めて多し。海岸は、一般に遠淺にして、宇土半島の開港場、三角も、僅に地方の要津たるのみ。

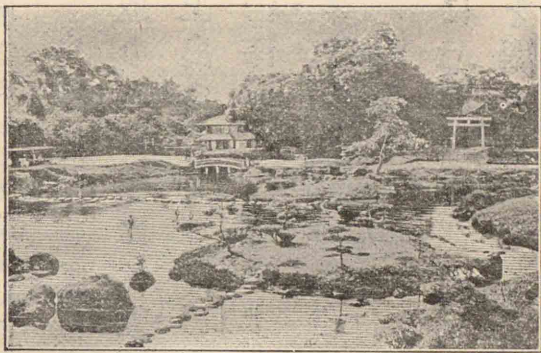
阿蘇山(二九)は、阿蘇火山脈の主峰なり。現今盛んに噴煙する中岳、其の他の火口丘を總稱して、五岳といひ、これを圍むに、舊噴火口壁を以てす、其



の直徑南北約六里、東西約四里、實に世界第一の噴火口なり。火口原は、五岳の爲めに、南北兩部に分れ、數萬の人民、ここに住し、牧畜行はる。火口原内の水は、相集り、一隅を破り、瀑布を成して流出す、白川これなり。

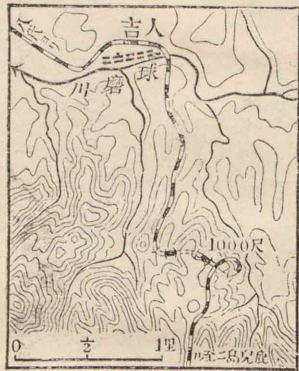
縣下の都會は、熊本平野の中心、熊本(市)を第一とし、球磨川の河口八代及び上流の人吉、これに次ぐ。

熊本には、第六師團司令部あり。有名なる熊本城は、加藤清正の築城に係る。近郊に第五高等學校、高等工業學校及び成趣園(水前寺)あり。隈府(山鹿)は、菊池川沿岸の都邑にして、隈府は、南朝の忠臣菊池氏の據りし所なり。八代は、交通の要衝に當り、セメント、木材の産出多し。これより球磨川上流盆地の中心、人吉に至る間は急



第一四六圖。水前寺。清泉湧出す。

第一四七圖。九州鐵道の巒狀線路。我が國內地唯一の例。



多し。

六四、大分縣(豊後豊前一部)

し、更に國東半島となりて、瀬戸内海に突出し、別府灣を抱く。域内、溫泉各所に噴出し、別府特に名あり。又、到る所、火山岩地の奇景に富み、特に英彦山に發する、山國川河谷の耶馬溪最も著はる。近海は、鰺、烏賊等、水産の利、少からず。別府灣頭及び國東半島には、藺草の栽培、盛んに行はれ、疊

流なれども、水運の便あり、人吉に達せる鐵道は、更に延びて、特殊の屈曲を以て、矢嶽峠を越え、鹿兒島線に聯絡せり。球磨川の水源地に有名なる五家莊あり。八代より、海岸を経て、鹿兒島縣に至る間には、三太郎峠の險あり。天草諸島は、上下の二島を主島とし、無煙炭、陶土の産



疊表産額  
 全國 五一五・八  
 大分 一七三・八  
 岡山 八七・二  
 廣島 七七・二

第一四八圖  
 別府温泉場  
 向ふの高山は  
 鶴見山

第一四九圖  
 耶馬溪

表の産出、全國第一なり。都邑には、大分、中津、竹田、佐伯を主なるものとす。

大分は、對岸の日出と共に、疊表、華筵等の取引多く、別府との間に、電車を通ず。竹田は大野川の上流にあり、林産地の一中心なり。佐賀、關、臼杵、佐伯は、豊後水道に臨める港にして、特に佐伯は、良港の名あり。中津は、山國川の河口に沿ひ、此の地方の

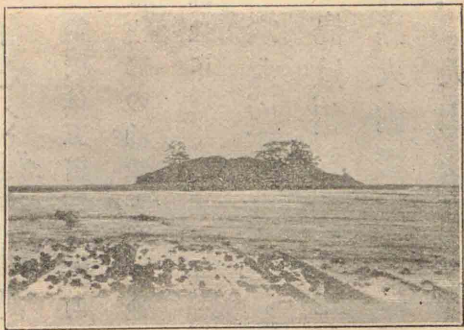


中心なり。宇佐には、宇佐八幡宮あり。

六五、宮崎縣(日向)。九州南部山脈。霧島火山脈によりて他と境し、單調なる海岸を以て、風浪荒き日向



第一五〇圖  
 青島  
 宮崎の南東四里にあり、浦葵樹多し、本縣沿岸氣候の高溫なるを知るべし。



灘に面し、鐵道は僅に西部山間の一隅を通ずるに過ぎず。五箇瀬川、一瀬川、大淀川等の並行河は、海岸に狹長なる平地を開くに過ぎず。大部の地は、森林又は未墾の原野にして、近時、造林、牧畜の業、大に進み、木材、薪炭、椎茸等の林産多し。氣候温暖なれば、甘蔗、樟樹等よく生育し、海岸には、蒲葵の繁茂せる所あり。近海は、鰯の漁獲、甚だ盛んなり。

霧島山は、霧島火山脈の主峰にして、東霧島山、西霧島山の二群に分る。東霧島山の最高峰は、俗に高千穂峯と云ひ、附近の御鉢は、盛んに硫煙を噴出す。其の他、舊噴火口甚だ多く、火口湖に富む。

域内、人口の密度、甚だ小にして、又大



日平の産額七  
一萬圓  
萬圓極峯の産額  
四二萬圓

金産額  
全國 一三八萬圓  
鹿兒島 一五三萬圓  
新島 一五三萬圓  
秋田 一五三萬圓  
石川 一五三萬圓  
金の産額牛尾三  
八萬圓  
山口 二五三萬圓  
大野 二五三萬圓  
萬野 二五三萬圓  
四野 二五三萬圓

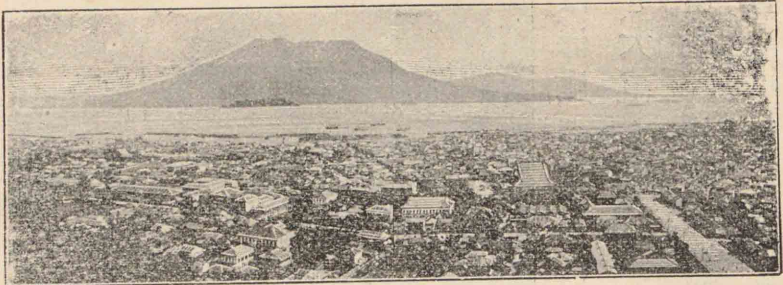
都會なく、延岡・細島・都城等を主なるものとす。

延岡は、五箇瀬川の河口に近く、上流の左岸に、日平・檜峰の銅山あり。細島は、南部の油津と共に、地方の要津として著はる。大淀川の下流には、宮崎、水源地に近く都城あり。都城の附近は、製茶養蠶の業盛んなり。

六六、鹿兒島縣(薩摩)。九州の南部を占め、薩摩・大隅の二大

半島は、相對して、鹿兒島灣を擁し、屬島の面積、甚だ大なり。霧島火山脈域内に通じて、櫻島・開聞嶽(薩摩富士)等の火山あり。火山灰に成れる臺地多くして、豊饒なる河岸平地に乏しく、米産少し。然れども、甘藷・煙草・樟腦等の産多く、牧馬甚だ盛んにして、又、金の産額、内地第一に位し、牛尾・山野・大口・芹野等、有名なる金山あり。近海は、暖流を受け、烏賊・鰯・鯉等の漁利に富む。人口村落に散在し、都會には、鹿兒島灣岸の鹿兒島(市)・加治木を除く外、著きものなし。

第一五一圖  
鹿兒島市を隔て  
て櫻島を望む



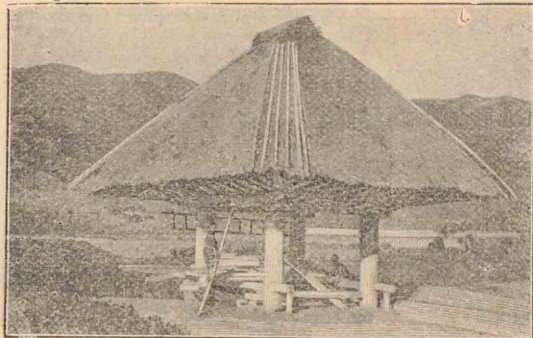
鹿兒島は、櫻島に對して、錨地を控へ、近時九州を縦貫せる鐵道幹線の南端を成す。薩摩紵・薩摩燒・錫器を名産とす。薩摩燒は、又、伊集院よりも出て、錫器の原料は、谿山より産す。市に第七高等學校造士館、高等農林學校あり。背後の城山は、西郷隆盛戰死の地なり。灣口なる山川港は、舊時琉球其の他との貿易港なり。國分は、指宿・出水と共に、葉煙草の主要産地なり。

屬島には、甑島・種子島・屋久島・吐噶喇群島・奄美群島を主なるものとす。

種子島には、製糖・牧畜行はれ、屋久島は、多く鯉節を産し、其の八重岳は、高峻にして、杉の良材に富む。奄美群島は、大島を主島とし、良港に富む。高温多



第一五二圖。奄美大島の物置。鼠害を防ぐが爲め屋根下のみを用ふ。



甘藷産額。百匁。全國九二〇〇。沖繩島一七一〇。鹿兒島一五五六。熊本七〇〇。愛媛三四五。千葉三五〇。

は、海風の爲めに溫和にして、夏の末、秋の始めには、暴風屢吹き、大雨を伴ふ。故に、家は、平家造にして、往々石壁を圍らす。農産は、甘藷、甘蔗、山藍を主とし、又、豚の飼養盛んなり。那覇(区)首里(区)を主なる都邑とす。

雨にして、甘蔗、蘇鐵等、よく生育し、大島、紬、黒砂糖の産あり。人情、風俗等、頗る琉球諸島に似たり。且、沖繩と同じく、ハブの害あり。六七、沖繩縣(琉球)。琉球諸島の地に於て、沖繩群島と、先島列島とに分れ、先島列島は、更に宮古、八重山の二列島に分る。

沖繩島の海岸は、珊瑚礁多けれども、東側には、中城灣の良錨地あり。氣候

第一五三圖。沖繩人。

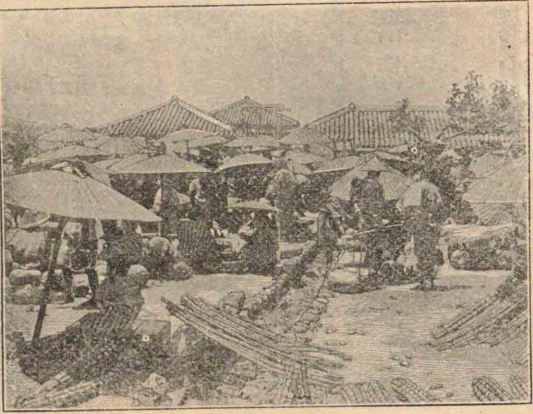


引多し。北東の首里は、琉球王の舊城下なり。北岸に、運天港あり。

住民多く、芭蕉布を着、甘藷を常食とし、雨水を飲料に供し、履物を用ひず。男女共に髪を結び、簪を挿むの風あり。一般に、男逸し、女勞し、女子物を運ぶに、頭上に載す。墓の構造は、極めて丁寧なり。諸島間の交通には、小汽船固有の小船(ヤンバル船)及び獨木船(グリ舟)を用ふ。

八重山列島は、石垣島、西表島を主島とし、宮古島と共に、多く上布を産し、西表島には、石炭の産あり。

那覇は、開港場にして、芭蕉布、泡盛、朱塗物等の取



第一五四圖。那覇の市場。



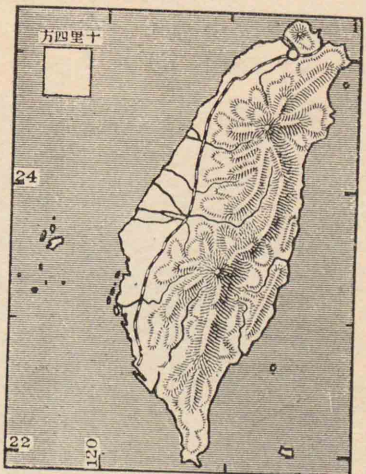
第八章 臺灣

第一五五圖  
臺灣略圖

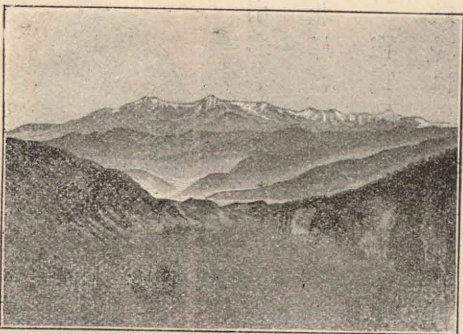
六八、位置。臺灣は、我が國の最も南西に當り、南は、バシ海峽を隔てて、フィリピン諸島と相對し、臺灣海峽を隔てて、南清地方

に對し、其

の間にある澎湖群島は、海峽の要所に當れり。



第一五六圖  
新高山



六九、地形。臺灣山系は、本島の東部を南北に走り、新高山・シルビヤ山等の高峯を起す。新高山は、高さ約一萬四千尺、我が國の最高峯なり。臺灣山系の東側は、急斜して、海に入り、大河なく、

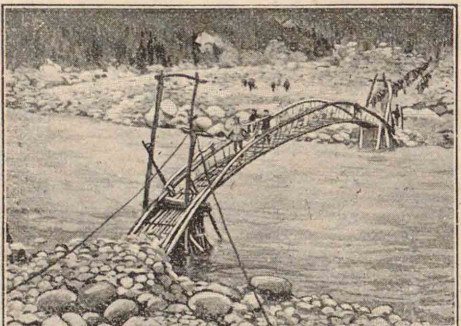
第一五七圖  
濁水溪の竹橋

西側は、漸次低降して、南北に通ずる大平野を開き、淡水河・濁水溪等、其の間を流る。

臺灣の河は、概ね舟運の利に乏しく、上流の河谷は、皆深溪にして、よく蕃地を隔離し、安全なる根據地たらしむ。これ等の河は、急勾配の山地を下りて、西部の平野に入れば、濁水横流して、荒蕪なる河積を作る。且、往々内地數ヶ月間の雨量を、一日中に見ることもあれば、河水一時に溢れて、交通を絶つに至る。古來、堤防の設けなきと、架橋の困難なるとは、全くこれによれり。

南東部には、臺東山脈ありて、主軸山脈に並走し、其の間に狹長なる臺東の平野を存し、卑南大溪これを流る。又、本島の北部には、大屯火山彙あり、温泉を湧出す。

海岸は、極めて屈曲に乏しく、良港少し。東岸は、往々斷崖



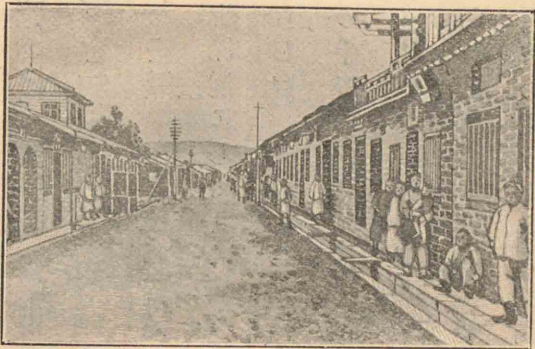


絶壁を成し、西岸は、概ね平直の砂濱なり。

七〇、氣候。本島の一部は、熱帯に入り、酷暑の期間長く、又、低地に於ては、殆ど、霜雪を見ず。毎年十月より、翌年三月に至るまでは、北東季節風烈しく、北部は、多雨にして、南部は、乾

季なり。四月より九月に至るまでは、南方よりの季節風吹き、南部は、多雨にして、北部は、天氣晴朗なり。冬季、北東季節風の吹く間は、近海風浪甚だ高し。

内地風の木造家屋は、夏季の暴風に堪ふる能はず、且、白蟻の害を防ぎ難し。又、従來の支那風家屋は、通風採光不十分にして、濕熱なる本島の氣候に適せず。近時、家屋の改造、歩を進め、又水道の敷設衛生設備の進歩により、傳染病も、次第



第一五八圖。宜蘭の市街。支那風家屋街路の例。

に減少せりと雖も、ベスト尙跡を絶たず。故に、臺灣より來る船舶に對しては、内地の諸港に於て、恰も、外國より來るものに對するが如く、海港檢疫を行ふ。

七一、住民。人口三百餘萬、其の密度、畧奥羽地方に等し。

其の中、内地人約五萬、蕃人約十一萬、他は、漢人なり。漢人は、もと、清國の福建、廣東地方より移住し、先住の蕃人に代りて、主要の位置を占めしものにして、阿片吸煙の如き、固有の陋習を、脱せざるもの、少からず。蕃人には、生蕃・熟蕃の別あり。

生蕃は、凶暴にして、争鬪を好み、東部山間に據りて、王化に服せず。特に、アタイヤル種族を甚しとす。熟蕃は、文化稍開け、全く歸順し、漢人と雜居して、農業に従事す。此の外、在留の外國人は、支那人を主とし、約五千人あり。多くは、福建



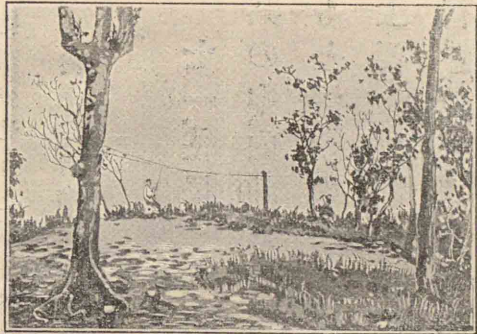
第一五九圖。生蕃。アタイヤル人。



廣東兩省の住民なり。

教育は、次第に普及し、本島人に對する公學校は、到る所に設けられ、内地人に對する小學校の設けも、主要の地にあり。又、臺北には、國語學校を置き、國語の普及を圖る。其の他、書房、義塾と稱する舊來の私立學校、尙甚だ多し。

七二、政治。臺灣は、新附の領土にして、遠く内地を離れて、我が南門の要衝に當り、近く臺灣海峽を隔てて、南清地方に對し、且、住民の大部は、漢人にして、化外の蕃人、東部半面に據る。故に、内地と統治の方法を異にし、臺灣總督府を臺北に置き、總督は、文武の兩權を握る。



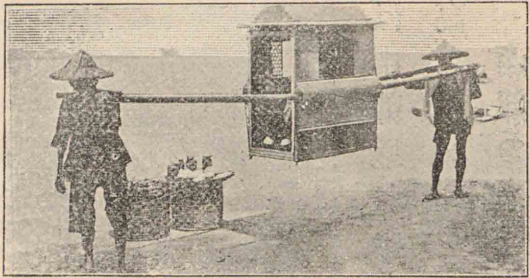
第一六〇圖  
隘勇線。

蕃人中險阻を恃みて、政府の命令を遵奉せざるものあり。隘勇線を作り、漸次これを進めつつ、其の服従を圖れり。

七三、交通。鐵道は、西部を縦貫し、北は基隆より、南は打狗に至れるを幹線とし、淡水及び鳳山以東へ各支線を出す。

又、西部には、短距離の輕便鐵道あり。内地及び南清との海運、甚だ發達し、大阪商船會社其の他の汽船、常に往來す。海底電線は、本島より内地及び南清に、又、澎湖群島に通ず。

七四、産業。地域、半ば熱帯に入り、中部には、一萬尺以上の高山聳ゆるを以て、熱帯より寒帯に至る植物の垂直的分布、最も著し。低地には、榕樹、林投、樹檳榔、樹よく茂り、大



第一六一圖  
轎。



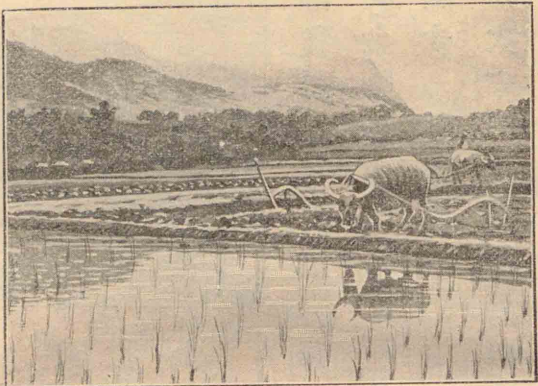
第一六二圖  
檳榔樹林。



は、中部以北の蕃界にあり。就中、阿里山林相の美は、世に名高し。又、シルピヤ山の周圍にも、これに劣らざる森林あり。西部の平野地方は、古來、埤(溜池)圳(水路)の設け發達し、水牛・黄牛の使用普くして、農産甚だ多し。米は、年二回實り、産額四百萬石を超え、剩餘を内地に移出するに至る。其の主産地は、中部平原なり。甘藷は、多數住民の常食となり、落花生、苧麻の産亦多し。

第一六三圖  
水牛と耕作。

米	九〇二萬石
甘藷	一、二億斤
製鹽	二、三萬斤
樟腦	三、九一萬斤
樟腦油	四、八萬斤

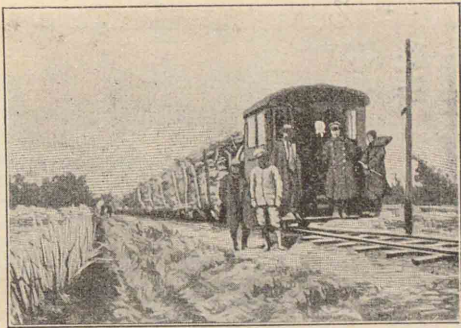


茶は、北部の丘陵地方を主産地とし、毎年製茶の時期には、厦門地方より、労働者の渡來するもの、數千人に達す。製茶は、基隆、淡水を経て、内地及び米國へ盛んに輸出す。甘蔗の栽培は、近時益盛大に赴き、粗製糖の大工場も、相次いで設立せられ、通じて、産額三億斤に達す。其の原料産地は、南部を主とす。

樟腦は、セルロイド工業の重要な原料にして、其の主産地は、東洋に限り、特に本島を以て第一とす。政府は、これを專賣事業とし、蕃界の平定と共に、産額日に増加し、世界の需要を充して、尙餘裕あるに至れり。



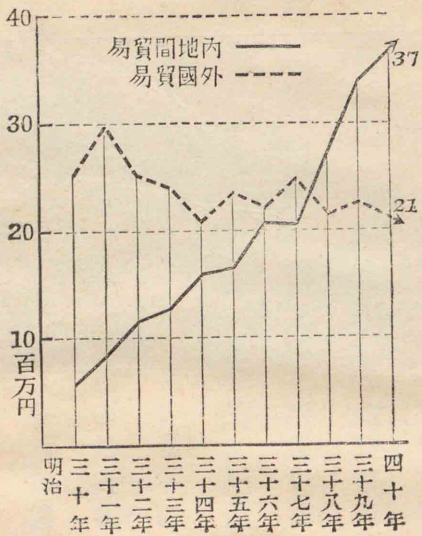
第一六四圖。甘蔗の運搬。金の産額一六五萬圓。



以上、茶・米・砂糖・樟腦は、臺灣の四大産物にして、内地及び海外へ出す主要物品なり。此の外、西岸には、天日製の製鹽盛んに行はれ、剩餘を内地及び韓國へ出す。鑛産には、北部より多量の金を出し、産額我が國の諸地方中、第一に位し、石炭も少からず。

内地との貿易は、年を逐ひて發達し、外國貿易は、これが影響を受け、多少減少せり。内地より、吳服物・金物類・水産物・木材等を入れ、内地へ、砂糖・米・茶・樟腦油等を出す。其の取引の中心地は、基隆を第一とし、打狗・安平これに次ぐ。外國貿易の輸入品は、支那人吸飲の原料たる阿片を第一とし、葉煙草・石油・金巾等、これに次ぎ、輸出品は、茶を第

第一六五圖。臺灣内地間貿易及び外國貿易。主要港貿易額。外國貿易。淡水 一〇五二萬圓。安平 一五二二萬圓。打狗 一五二二萬圓。内地間貿易。淡水 一九七二萬圓。安平 一〇五二萬圓。打狗 一〇五二萬圓。



にこれを畧説す。

七六、北部地方。大部は、淡水河の流域に屬し、茶・米・苧麻・樟腦等の産出多く、全地の首邑たる臺北を始めてし、淡水・基隆・新竹・宜蘭等の都邑、ここにあり。

臺北は、淡水河の右岸に沿ひ、城内、艋舺、大稻埕の三部に分る。城内は、主と

一とし、樟腦これに次ぎ、基隆淡水・打狗・安平の四開港場を經由す。貿易額は、淡水を第一とし、基隆これに次ぐ。

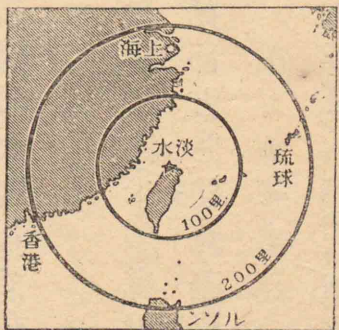
七五、區劃。行政上、全土を十二の廳に分つ。今便宜上、全土を北部・中部・南部・東部・澎湖群島の五部に大別して、左



第一六六圖。淡水港の位置。

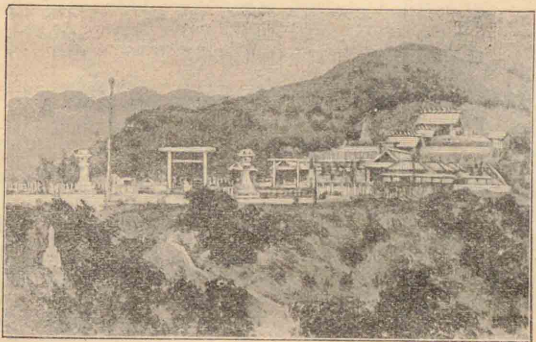
して、官廳學校等の所在地、其の他の二部は、商區にして、特に、大稻埕は、烏龍茶の取引盛大なり。城内には、總督府覆審法院第一守備隊司令部國語學校等あり。附近に、臺灣神社あり、能久親王を合祀す。

淡水、滬尾は、淡水河口に位し、臺北との間に、汽船



及び鐵道を通じ、本島主要の開港場にして、茶、樟腦の輸出多し。基隆は、臺灣の北門を成し、長崎を距ること約六百三十哩、内地及び外國との貿易、近時、最も盛大にして、又、要塞の設けあり。近時、竣工の鐵道、棧橋に、大船を横付けし得べく、又、更に第二期の築港計劃中なり。基隆の附近に、有名なる金山、石瑞、芳牡丹坑の金山あり。新竹及び宜蘭地方に

第一六七圖。臺灣神社。



は、苧麻の産出多く、桃園地方は、臺灣第一の製茶産地なり。

七七、中部地方。後壠溪、大甲溪、濁水溪等の流域に屬し、平野甚だ多く、本島第一の米産地にして、茶、樟腦、落花生、木藍等の産も、少からず。臺中、苗栗等を主なる都邑とす。

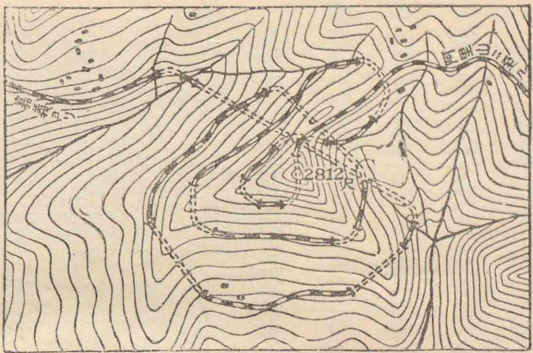
本地方の中央に臺中、其の南西に彰化あり。北の苗栗は、南の斗六と共に、樟腦集散地の一にして、附近の通霄は、製鹽を以て著はる。埔里社は、臺中の南東に當り、蕃地に對して、重要な位置を占め、以北の蕃地は、有望の森林に富む。

七八、南部地方。臺灣山系南部の西斜面を占め、全地殆ど熱帶に入れり。甘蔗の主産地にして、製糖業大に興り、又、製鹽盛んなり。臺南を主邑とし、安平、打狗の二港、嘉義、鳳山等の都邑あり。

臺南は、臺灣南部の都會にして、舊時久しく本島の首都たりき。第二守備



第一六八圖  
阿里山森林鐵道

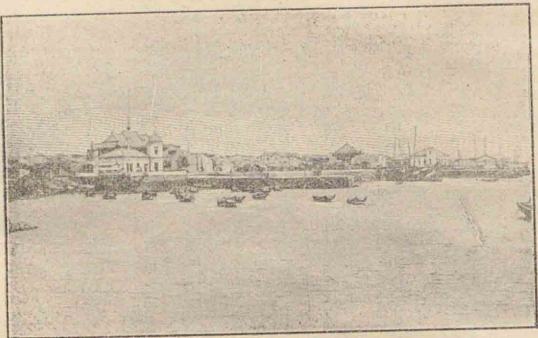


隊司令部、鄭成功を祀れる開山神社あり。安平を港とす。安平は、開港場にして、又、多く内地へ砂糖を出す。打狗は、縦貫鐵道の終點に位する開港場にして、今は、市況安平を凌ぎ、内地へ米砂糖の輸入多く、臺灣南部の門戸なり。嘉義及び鳳山は、臺南と共に、製糖業の中心にして、嘉義は、又、東方阿里山森林伐採の經營地點なり。恒春は我が國最南の都邑なり。

七九、東部地方。臺灣山系以東の急斜面を占め、平地は、僅に卑南大溪の沿岸に存す。土地未だ開けず、交通不便を極め、物産多からず。

八〇、澎湖群島。澎湖群島は、澎湖、白沙、漁翁の三島を最大とし、相對して、巴の形を成し、北東風を防ぐに適す。諸島概

第一六九圖  
媽宮



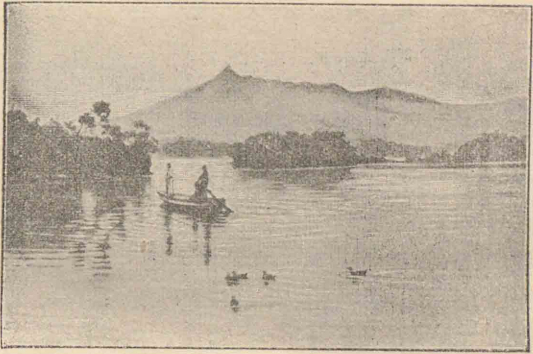
ね低平にして、最高點百六十尺に達せず。沿岸は、珊瑚礁に富み、暗礁多し。風力常に強く、殆ど樹木を見ず。澎湖島に、媽宮(馬公)あり。天然の良港にして、近海を航する船舶は、暴風の際走り、ここに避難す。其の位置、臺灣海峽の中央に當り、要害の地なれば海軍の要港とし、要塞を設く。







第一七二圖  
大沼公園  
向ふの高山は  
駒岳。



の美を以て知られ、又冬季に至れば湖面氷結し、アイヌ人來りて、氷上に釣魚す。又駒岳の麓にある大沼は、數多の島を有し、風景絶佳にして、北海道の松島と稱せらる。

海岸は、概ね屈曲に乏しく、南西部の小樽灣、内浦灣（一名噴火灣）、函館灣等を、稍著きものとす。其の他は、概ね平直の砂濱多く、砂嘴の發達、少からず。主要なる屬島には、西岸の禮文、利尻、奥尻

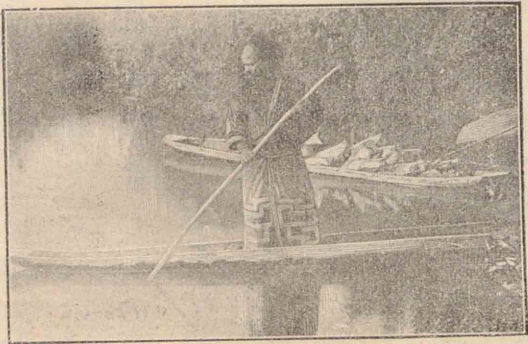
の三島あり。

千島列島は、國後、擇捉、得撫、幌筵等の島より成り、根室の東方より、北東に延びて、カムチャツカ半島に渡る飛石の狀を成し、千島火山脈の通ずる所にして、數多の火山聳立す。

千島の  
千島の  
千島の

千島

第一七三圖  
北海道のアイヌ  
人。魚を扱ふ有様  
を示す。



八三、氣候。概ね冬寒厳しく、上川盆地、十勝、釧路の兩平野特に然り。上川は、又、夏季、高温に達し、寒暑の差甚し。概ね、雨雪量少く、降雪宛も細粉の如し。西岸は、暖流を受け、冬季、氷結せず。根室灣附近は、寒、暖二流相會して、海霧（ガス）殊に深し。

八四、住民。本道の面積は、全國の二割に餘れども、人口は、百分の三に満たず。特に、北東部は、人口最も疎なり。

漁季には、一時、内地より、多數の渡來者あれども、冬來れば、多くは、皆退去す。

北海道は、新開地にして、物價不廉なれども、賃銀其の他の所得額多く、住民一般に内地に比して、生活の程度高し。又、概ね活動の元氣に富み、



企業に熱心なり。

土人、即ち、アイヌ種族は、嘗て、本州にも蔓延せしが、今は、本土にのみ住し、其の數、二萬に満たず。

土人は、性質愚鈍にして、耕作を知らず、體格偉大なり。男子は、多毛にして、鬚髯に富む。概ね、内浦灣以東の太平洋斜面に住し、日高國に最も多し。

### 八五、交通。

鐵道は、主として、中部及び南西部に敷設せられ、函館を起點とし、小樽に達し、石狩平野に入り、岩見澤に於て分岐し、一は、南方室蘭に達し、一は、北方に進みて、諸炭山に數多の支線を派出し、上川盆地に達し、更に分岐す。其の南東に進むものは、釧路に達し、又、北方に進むものは、天鹽川の河谷を下る。



第一七四圖  
北海道の馬糞

小豆産額	九二、五
全國	三六、二
北海道	三三、八
熊本	三、七
新潟	三、七
茨城	三、五
馬鈴薯産額	百萬貫
全國	一五、二
北海道	一六、九
青森	一〇、九
福島	九、〇
宮城	七、九
岩手	七、四

冬季は、風波荒く、航海稍不便なり。河川も、河床に流木多く、河口淺きを缺點とす。海底電線は、本州及び樺太島の外、附近の主要屬島と、千島の國後、擇捉二島とに通ず。

### 八六、産業。

本道の拓殖は、近時歩を進め、大麥、大豆、小豆等の穀物の外、馬鈴薯、玉蜀黍、亞麻も、本道の主要の農産物となり、産額次第に増加す。大麥は麥酒、馬鈴薯は製粉、玉蜀黍は酒精の原料たり。玉菜(キャベツ)球葱は、最も地味に適し、又、林檎、櫻桃の果實は、品質の良好を以て名高し。農業の方法は、西洋の式を參考して、機械力と、家畜の力とを應用し、規模頗る大なり。牧畜亦盛大にして、良馬を産す。

森林は、廣大にして、全國森林の約四分の一を占む。蝦夷松、檜松は、主なる森林植物にして、建築用材、鐵道枕木として、輸出せられ、或は、木屑(バルブ)經木眞田の材料となる。又、白



第一七五圖。函館港の陸揚。水産製造物産額。

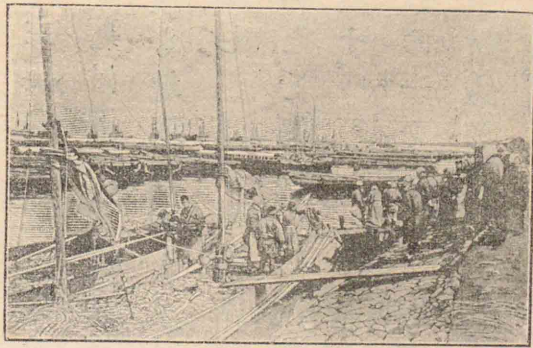
全國	三九二七萬
北海道	一一三〇萬
内陸	二四三萬
長崎	一一三〇萬
千葉	九一六萬
高知	八八九萬
静岡	一七九萬

揚に富み、マッチの軸木用として、盛んに内地へ積み出す。水産は、本道第一の産業にして、近海は、寒暖二海流の影響を受け、世界有数の大漁場なり。其の種類は、鯨の漁獲最も多く、鮭、鱒、昆布等、これに次ぎ、水産製造物の價額は、全國の三分の一に當る。

渡島半島の近海は、鯨の漁利、他に比無く、搾粕

身、鯨の製造、盛んに行はれ、肥料として、内地に送る。津輕海峽以東、親潮の流るる所は、昆布、鱒の産に富む。又、河川は、鮭、鱒多く、特に、石狩川の鮭、西別川の鮭、鱒は、最も有名なるものなり。

鑛産は、石炭を第一とし、石狩炭田は、我が國第二の石炭産



地なり。金、硫黄の産、亦少からず。

石炭に富み、又、工業原料たる農産及び林産物の供給莫大なるを以て、製麻、製粉、麥酒、酒精等の工業、次第に興り、工業の前途甚だ有望なり。

内地及び外國との商業、次第に盛大に赴き、小樽、函館を二大門口とし、内地へ、鯨の搾粕、鹽引の鮭、木材等を供給し、清韓地方へ、鐵道枕木、水産物等を輸出す。

八七、區劃。行政上、北海道には、北海道廳を置き、其の長を長官といふ。更に、全土を分つて、三區十六支廳とす。又、便宜上、渡島半島、西部、東部及び千島の四部に、大別し得べし。

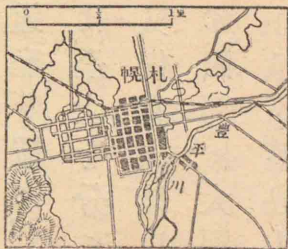
八八、渡島半島地方。本道中、人口最



第一七六圖。五稜廓の水切り。



第一七七圖。札幌市街略圖。

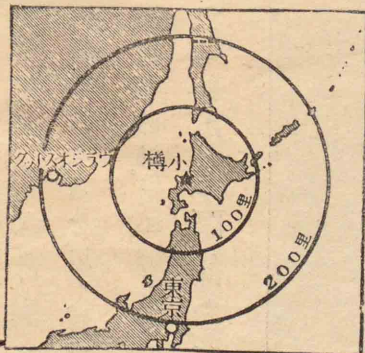


も密にして、本州との交通最も頻繁なり。南岸の函館(區)を咽喉とし、其の他、福山、江差、壽都、岩内等の都邑あり。

函館は函館灣頭に位し、本州との重要聯絡港(六六を)にして、且、日本海の東門を扼する要地なり。夙に開港場に列し、又要塞の設けあり。北東の五稜廓は、戊辰の役に名高く、其の濠中には、冬季、函館氷の製造甚だ盛んなり。福山は半島の南西端にあり、舊時松前と稱し、蝦夷の中心たりき。江差、壽都、岩内の諸港は、半島の西岸に位し、鱈漁業の中心なり。

第一七八圖。小樽港の位置。石炭産額。夕張 四五萬圓、空知 一九八萬圓。

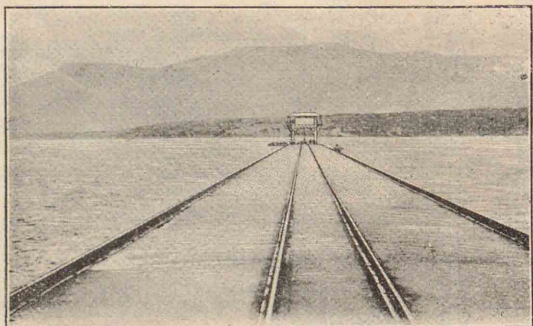
八九、西部地方。主として、石狩川、天鹽川の流域に屬し、平野廣し。石狩平野は、本道拓殖の中心なり。東邊に夕張、幌内、空知等、著名なる炭山を有し、本



道政治上の中心たる札幌(區)ここにあり。

小樽區、室蘭の二港を咽喉とす。

札幌區は、石狩川の支流、豊平川に跨り、農産物、木材の取引多く、麥酒、麻絲、麻布、製粉等の工業盛んなり。他の新興の都邑と同じく、街衢極めて廣濶、整然たるを特色とす。北海道廳及び東北帝國大學農科ありて、北海道政治學藝の中心を成し、又札幌神社も、區の附近にあり。小樽は、木材、石炭の輸出多く、又内地商業上、函館と共に、農産物及び水産物の輸出、茶、清酒、砂糖、綿織物等の輸入、甚だ盛んなり。樺太の領有以來、更に繁榮を加へ、近時の築港によりて、益發達の機運に向ひ、人口の増加急激なり。高等商業學校の開講も、近きにあり。岩見澤は、鐵道の交叉點に興りたる所にして、鐵道の工場あり。室蘭は、内浦灣口に臨み、本道第一の石炭輸出港なるが、又、近時、製



第一七九圖。小樽港の防波堤。



鐵所の設立あり。

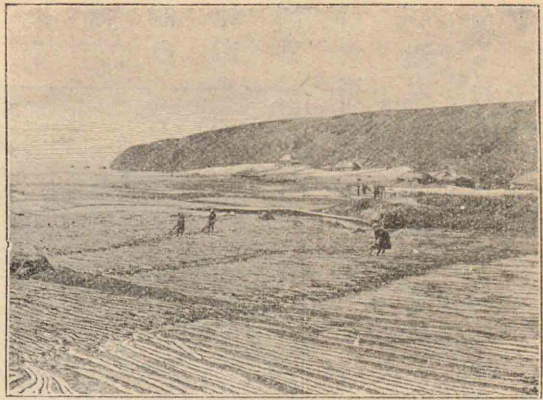
上川平野は、石狩川の上流にあり。灌漑の便よく、本邦米産地の北限を成す。其の中心旭川は、第七師團司令部の所在地にして、鐵道の交叉點に當り、近郊には、離宮の豫定地あり。

増毛マシモ苫前トマヘ稚内の諸港は、西岸にありて、水産物の取引多く、海上の利尻禮文二島も、亦好漁場として名高し。日高山脈の西斜面は、牧畜

業盛んに行はれ、新冠御料牧場最も著はる。の最も多き所なり。

沙流川沿岸の平取は、アイヌ人

九〇、東部地方。未墾の原野廣く、人口甚だ疎なり。其中、十勝平野は、開墾稍進み、帯廣を中心とす。釧路根室の二



第一八〇圖。濱中の昆布乾燥。

港は、本道南東部の咽喉なり。

釧路は、釧路川の河口にあり。開港場にして、鐵道幹線の要點なり。マツチ軸木木屑バルブの産あり。北方の跡佐登アサノは、もと、有名の硫黄山なりしが近時大に産額を減じたり。厚岸港は、鯨昆布の取引多く、附近の厚岸沼は、牡蠣の名産地にして、濱中ハシナカは、昆布の産多し。

根室は、本道東部の咽喉にして、鯨昆布を産し、鱒の罐詰業盛んに行はる。冬季氷結の間、船舶は、背後の花咲港に寄泊す。南西に突出する落石崎は、北海航路の要點に當りて、近時、無線電信局の設立を見る。

九一、千島列島。千島列島は、硫黄の産多く、擇捉島の紗那は、第一の名邑なり。北部は、報效義會員の移住せる占守島を除き、皆殆ど無人島なり。

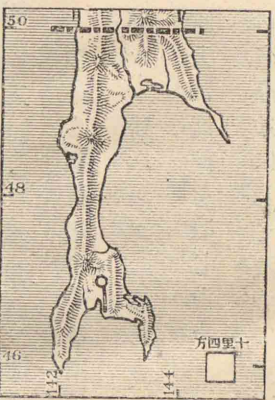
占守島は、我が國の極東に位し、千島海峡を隔てて、カムチャッカ半島に對す。其の西方にある阿頼度島は、我が國の極北に位す。



第十章 樺太南部

九二、位置。 樺太南部は、樺太島の南半、北緯五十度以南を占め、オホーツク海と日本海との間に横はり、北は、露領樺太と境を接し、南は、宗谷海峽を隔てて、北海道本島に對し、西は、間宮海峽を隔てて、西比利亞の沿海州に對す。 屬島には、東側に海豹島、西側に海馬島あり。

九三、地形。 島形に従ひて、露領樺太より來れる二條の山脈あり。 其の一は、所謂西樺太山脈にして、主要の分水界をなし、他の一は、所謂東北山脈にして、これ等東西兩山脈の間には、低地を挟む。 中央低地帯、即ち、これにして、幌内川、内淵川、其の間を流れ、流域の平野は、本島を南北に縦貫する天然



第一八一圖。 樺太南部略圖。

第一八二圖。 幌太のツンドラ。

第一八三圖。 幌内川の流木。

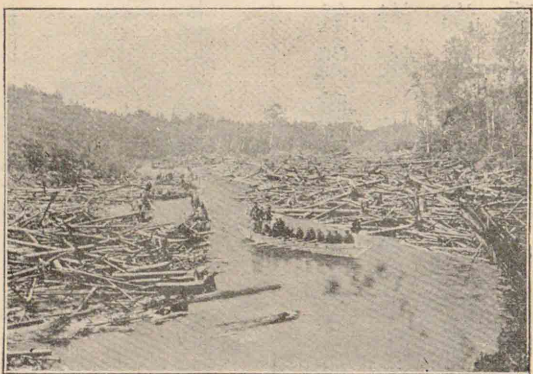


の交通路を成す。

幌内川流域の低濕地は、ツンドラと稱し、馴鹿の放牧地たり。 幌内川は、露領より流れ來り、流域二國に亘る。 流木を除かば、上流まで、航通に堪ふべし。

海岸は、亞庭多來加の二灣（アイトカ）あれども、良港を存せず。 南岸の大泊、西岸の眞岡は、主なる港なり。

九四、氣候。 夏季は、比較的、高温なれども、冬季は、寒氣甚しく、内部平原には、氷點下四十度以下に下る所あり。 海岸附



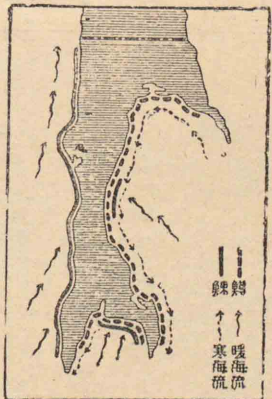


第一八四圖。樺太の海流と水の分布。

近の海面は、オホーック海の寒流と、對岸の大陸との影響を受くること甚しく、毎年十二月より、翌年四月中旬まで氷結す。

西岸は、對馬海

流の流末を受け、氣温稍高し。此の暖流の一部は、宗谷海峽に入り、南下する寒流と相會し、東海岸に濃霧を生ず。



第一八五圖。ギリヤーク人。



九五、住民。夏季漁業の盛んなる季節は、内地よりの渡來者多く、人口數萬に及べども、冬季は、多く歸り去る。年末現住者は、次第に増加すれども、未だ三萬に達せず。土人の種族は、アイヌ

を主とし、ギリヤーク・オロッコこれに次ぎ、其の數通じて二千人に満たず、皆漁獵を業とす。

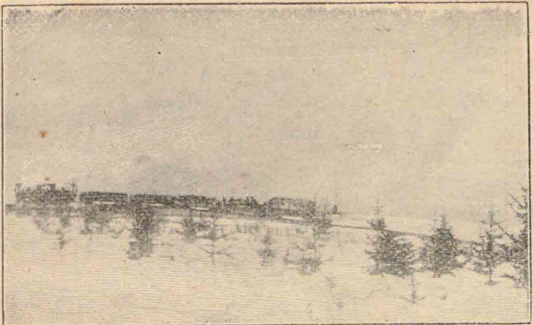
九六、政治。

樺太南部は、明治三十七八年戰役の結果、我が領土となり、豊原に樺太廳を置き、豊原大泊、眞岡、敷香、名好の五支廳に分ちて、これを治め、又、防備の爲めに、守備軍を派遣す。

九七、交通。

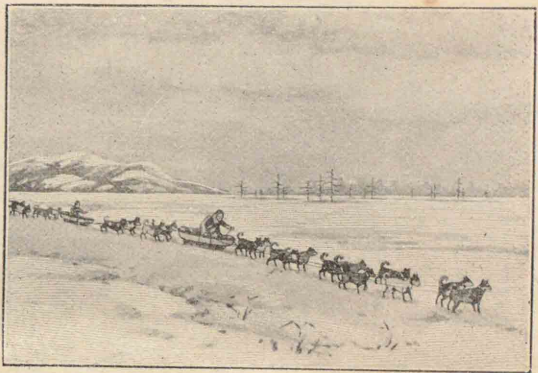
南岸の咽喉、大泊より豊原まで、輕便鐵道を通ずる外、陸上の交通、尙不便にして、主要道路には、驛遞を官設し、旅人の宿泊、人馬の繼立を行はしむ。又、犬橿は、冬季土人村落間交通の要具なり。汽船の定期航海は、夏季小樽港と大泊との間、及び沿岸主要地點の間にこれを

第一八六圖。樺太の輕便鐵道。





第一八七圖。雪中の犬橋。

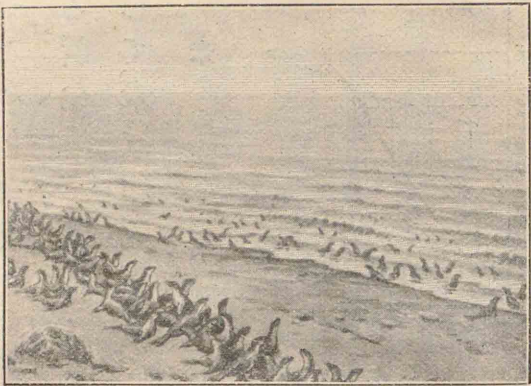


見れども、冬季は、海岸概ね氷結し、且、近海は、冬季風波概ね荒く、颶風屢起り、春季も、流水・深霧の爲め、航海容易ならず。海底電線は、宗谷海峽を通じて、本島と北海道とを聯絡す。

九八、産業。蝦夷松・樅松と、本島特有の落葉松(色丹松)とは、有名なる密林を成し、白楊亦多く、林業甚だ有望なり。鑛物には、石炭甚だ豊富なり。水産物は、本島第一の富源にして、鯨を第一とし、鱒これに次ぐ。鯨は、暖流の流末に當れる西岸に、鱒は、寒流を受くる東岸に多し。又、鮭・昆布・海獸の利も有望なり。但し、海豹島は、臘虎及び膾膾の蓄殖所に充て、獵獲を禁ず。

第一八八圖。海豹島の臘膾獸群。

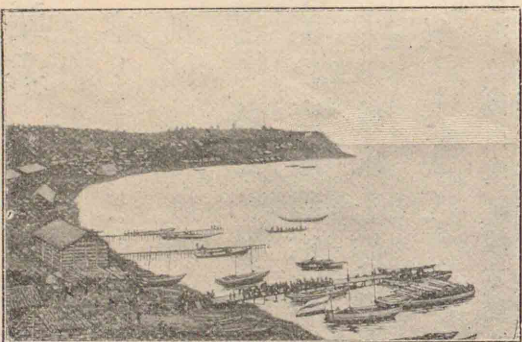
第一八九圖。大泊港。



太廳の所在地にして、又、守備隊司令部あり。眞岡は、西岸の要津にして、附近は、鯨の漁利甚だ大なり。

九九、地方誌。

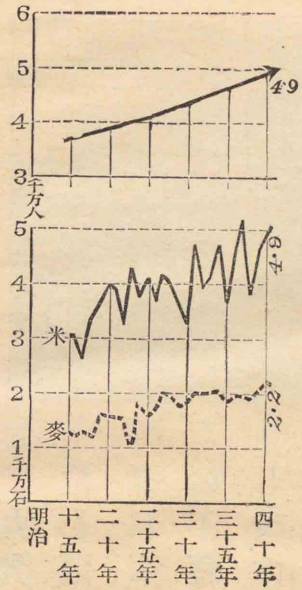
大泊オホトマリは、亞庭灣頭に位し、開港場なり。港内冬季は、碎氷船によりて、僅に、交通を維持する等の不便あれども、樺太重要な門戸にして、水産物の集散盛んに行はる。豊原トヨハラは、鈴谷川上流の沃野にあり、樺





### 下篇 帝國地理總說(下)―産業

一、農業。我が國は、古來、農を以て國の本とすれども、急斜の山地多く、加ふるに、耕地の區劃、狹小・複雑にして、農利を損すること大なり。近時、農事の進歩、甚だ著く、耕地の整理、到る所に盛んなれども、國民の常食たる米・麥の産額、稍不足にして、米は、印度支那より、小麥・麥粉は、米國より輸入を仰げり。米の産額は、新潟縣を第一とし、兵庫・福岡・愛知の諸縣、これに次ぐ。又一反



歩の收穫高は、畿内・北陸地方最も多し。米質の良きは、肥後・米防長・米美濃・米伊勢米等なり。麥の産額は、畑の廣き埼玉・茨城二縣に最も多く、二毛作を行はざる奥羽に

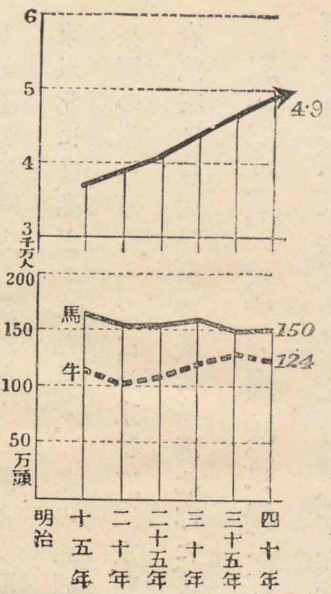
最も少し。概ね、河湖沿海の低地には、水田多く、水利の不便なる山麓臺地には、畑多し。又、本州北部以北、特に、其の東半面は、未墾の原野廣く、晚稻に適せずして、時々凶作を免れず。然れども、奥羽地方の大部は、其の耕地面積、人口に比して、廣大なるを以て、米は、他地方に積出すこと、少からず。

豆類、特に、大豆は、關東地方及び北海道に多し。然れども、尙清韓よりの輸入を仰ぐ。又、北部の馬鈴薯、南部の甘藷は、地方一部住民の常食となり、或は、醸酒の原料となる。漆液は、近畿以北に多く、近時、廉價なる清國産の輸入により、産額稍減少の傾向あり。蠟より取れる木蠟は、中國・四國以西に多く、關東以北には、殆どこれを見ず。茶の産額は、内地に於ては、静岡縣第一にして、全國の約三分の一を占め、京都府・三重縣これに次ぐ。製茶の中、玉露は、京都府・煎茶は、静岡縣、烏龍茶は、臺灣北部に、最も多く産す。

二、牧畜業。我が國は、牧場に適すべき原野多けれども、牧畜業は、歐米諸國に比して、今尙、著く下位にあり。故に、政府



第一九一圖  
内地人口増加と  
牛馬頭數

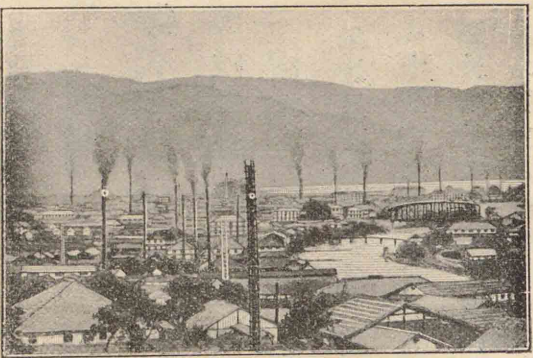


は、奥羽と九州南部とに、最も多く通じて、全國の約半を占む。又、全國乳牛の數は、僅に三萬餘頭にして、其の約六分の一は、東京府にあり。豚の飼養も、沖繩千葉二縣を除き、未だ盛んならず。牧羊未だ殆ど興らず。羊毛は、全く濠洲・佛國等より輸入せらる。

**三、蠶業。** 養蠶は、概ね、我が國農家の副業にして、桑畑は、到る所に見るべし。製絲業は、亦これに伴ひて發達し、生絲に就いては、世界主要産地の一に居る。

蠶業は、長野縣を第一とし、群馬・山梨・福島・埼玉の諸縣、これに次ぎ、製絲の産額も、これ等の地方に最も多し。

**四、林業。** 我が國は、杉・松・檜等、森林植物の種類に富み、且、山林の面積廣大なれば、林業極めて有望なり。中にも、木曾の檜、秋田縣・奈良縣・吉野の杉、臺灣の樟は、最も有名なるものなり。近時、林制の整頓と共に、林産物の産額、次第に増加せり。然れども、内國需要の増加、甚だ急劇なれば、海外への輸出は、未だ大なる額に達せず。



第一九二圖  
製絲業地の状況  
長野縣岡谷  
(七八を見よ)

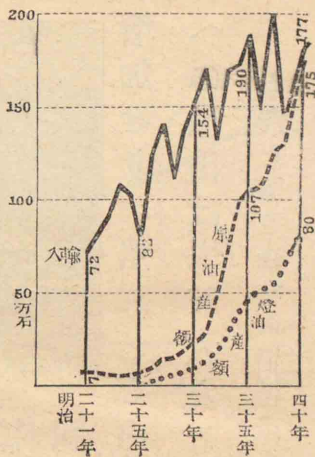
森林の面積(二) 全國 二二四〇萬坪  
北海道 一五七四萬坪  
長野 一五七四萬坪  
秋田 一一二二萬坪  
青森 九一七五萬坪

臺灣を除き、森林の面積最も大なるは、北海道・奥羽にして、通じて、全國の過半を占め、府縣の中には、長野・秋田・岐阜・青森の四縣を主とす。森林は、國有



森林の面積(1) (2)  
 國有林 一、一八三、〇〇〇  
 御料林 二、一七〇、〇〇〇  
 公有林 二、二七〇、〇〇〇  
 私有林 二、四〇〇、〇〇〇  
 合計 八、〇〇〇、〇〇〇  
 第一九三圖  
 石油の輸入額及  
 び産出額

石炭産額  
 全國 五、三〇〇、〇〇〇  
 北海道 三、五〇〇、〇〇〇  
 福島 三、六〇〇、〇〇〇  
 佐賀 一、三〇〇、〇〇〇  
 長崎 一、八〇〇、〇〇〇



尙不十分に於て、主として、外國よりの輸入に仰げり。唯、石油は、近時、大に産額を増加して、漸次輸入を減少す。

石炭は、九州北部を第一とし、北海道これに次ぎ、福島縣又これに次ぐ。所謂、筑豊石狩常磐の三炭田は、我が國石炭の大部分を出し、特に、福岡縣は、全國の十分の六を占む。九州北部に交通生業の發達せるは、これが爲めにして、又製鐵所のここに設けられたるも、石炭の産地に近きと、清國より、鐵鑛の輸入に便なることにより。銅は、秋田縣を第一とし、愛媛、栃木、二縣これに次ぐ。

林御料林公有林私有林等に分る。

**五、鑛業。** 我が國の鑛業は、石炭を第一とし、銅これに次ぐ。近時、工業用、船舶用等、石炭の消費額、大に増加し、又、東洋諸國への輸出盛大なり。鐵及び金は、内地の産額

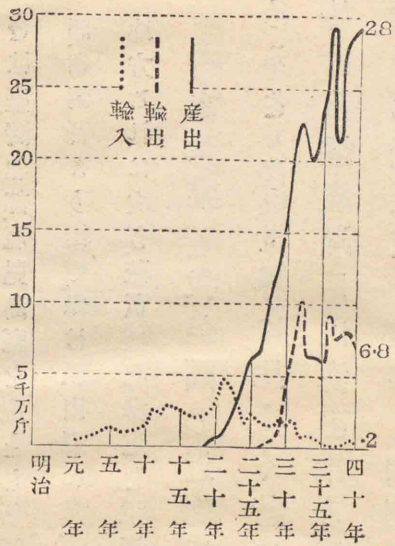
金は、臺灣北部、鹿兒島縣を主とし、新潟縣、北海道、これに次ぐ。石油は、殆ど全部、新潟縣より出て、銀は、秋田縣に及ぶものなし。鐵は、岩手縣を主とし、中國地方これに次ぎ、硫黃は、北海道を主産地とす。

**六、水産業。** 我が國の近海は、寒、暖の二流を受け、水産に富めることは、世界に比少く、特に、北海道の鯨、鮭、鱒、太平洋岸に於ける鰹、鱈、瀬戸内海沿岸の製鹽は、最も名高く、昆布、鰯等各種の水産製造物は、多く清國に輸出せらる。

水産物の總額は、北海道第一に位し、千葉、長崎、鹿兒島、山口、三重、静岡等の諸縣、これに次ぐ。其の中、漁獲物は、千葉縣、製造物は、北海道を第一とし、漁獲物は、鰹と鰯とを主とし、鯛これに次ぎ、製造物は、鯨の搾粕と、鰹節とを主とし、鰻これに次ぐ。製鹽は、香川、山口、兵庫、廣島、徳島の五縣を主とし、瀬戸内海沿岸に盛んなれども、近時、關東州、臺灣に於ては、廉價なる天日製の鹽、多量に製出せられ、内地は、これが輸入を仰ぐに至れり。



第一九四圖。綿絲の産出額及び輸出入額。



七、工業。我が國は、石炭と水力とに富み、工業極めて有望なれども、現在の進歩は、他の文明國に比し、大に劣れり。工業の大中心は、大阪・東京の二市附近にして、福岡縣北部、これに次ぐ。これ、勞力・石炭・原料・製品販賣等の關係による。工業中、最も注意すべきは、綿絲紡績なり。其の原料の綿は、印度・米國・清國より來り、輸入品の第一に位す。其の製品は、其の始め、内國の需要を目的とせしが、今は、輸出品中の第二に位し、清國に輸出せらる。

綿絲紡績は、大阪府を第一とし、兵庫・岡山・愛知三縣、東京府これに次ぐ。綿絲を原料とせる綿織物は、愛知縣

産地	額
全國	228.8
京都府	119.9
愛知縣	79.7
福井縣	67.9
群馬縣	36.7
和歌山縣	33.6
石川縣	33.3
大阪府	30.5

を第一とし、和歌山縣・大阪府これに次ぐ。愛知縣・大阪府の白木綿、和歌山縣の綿ネルは、最も著名にして、輸出額次第に多し。

製絲業は、蠶業の進歩に伴ひ、生絲は、我が輸出品中の第一位を占むるに至れり、絹織物業も、概ね蠶絲業の盛大なる地方又は附近に、最も行はれ、羽二重は、重要輸出品となれり。

絹織物業の最も盛んなるは、京都府・福井縣・石川縣にして、群馬・新潟・福島三縣、これに次ぐ。福井・石川二縣の羽二重、京都府の縮緬は、特に名あり。又絹織物業も、近時、大に増加し、京都府・群馬縣の産、特に名あり。

マッチ・華筵・眞田・陶器の産出、次第に多く、重要輸出品となり、マッチは、兵庫縣・大阪府・華筵は、岡山縣、眞田は、岡山・香川二縣、陶器は、愛知縣を第一とす。

清酒は、兵庫縣・醬油は、千葉縣を第一の産地とし、麥酒は、東京・大阪二府、砂糖は、甘蔗畑の廣き、臺灣を第一の産地とす。内地に於ては、ジャバ島の粗糖を原



料とし、大都會附近に精製の工場ありて、次第に外國よりの輸入を防ぐ。又、製鐵業造船業は、近時の發達著く、殊に造船業は、長崎神戸大阪等に規模宏大なる工場ありて、清國其の他海外より、造船の注文を受くるに至れり。

八、商業。商業は、次第に盛んなれども、これを歐米列國に比すれば、其の進歩、遙に劣れり。

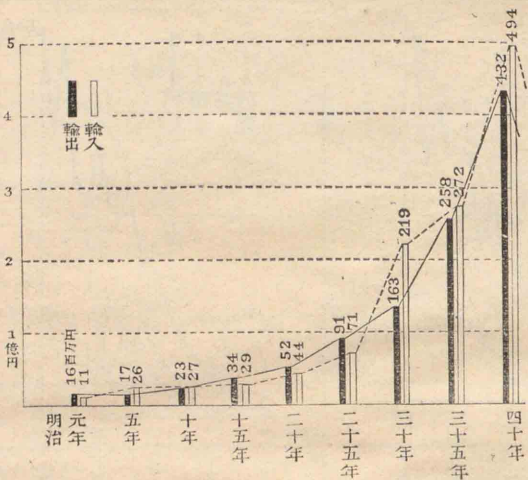
内國商業の大中心は、東京大阪二市にして、名古屋これに次ぎ、又臺灣にては、臺北北海道にては、小樽なり。商品の最も主要なるものを、米、清酒、肥料等とし、麥生絲綿絲等これに次ぐ。

金融機關として、約二千二百の銀行あり。其中、日本銀行は、帝國の中央銀行にして、金貨・金塊等を準備して、兌換券を發行し、且、國庫金を取扱ふ。横



第一九五圖  
日本銀行

第一九六圖  
外國貿易の進歩  
明治十一年外  
國貿易額  
輸出 三七八・二  
輸入 四三六・二



濱正金銀行は、外國貿易の爲めに、日本勸業銀行、日本興業銀行、各府縣の農工銀行は、一般の實業發達の爲めに設けられしものなり。此の外、臺灣銀行、北海道拓殖銀行あり。其の他、主要なる地には、商業會議所、取引所等、諸種の商業機關あり。

外國貿易は、年々盛大にして、輸出入額は、八億圓を超ゆるに至れり。然れども、輸入超過の年多く、且、輸出入共に、今尙直取引をなすもの少く、又、外國船によるもの多し。

輸出品の最も重要なものは、生絲を第一とし、綿絲、羽二重銅、こ

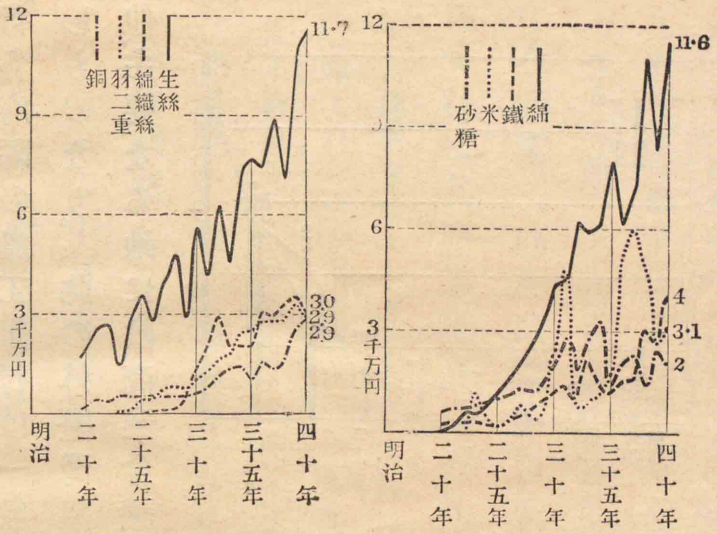


第一九七圖。主要輸出品の輸出入額の一年の價

第一九八圖。主要輸入品の輸出入額の一年の價

第一九七圖の主要輸出品の輸出入額の一年の價

第一九八圖の主要輸入品の輸出入額の一年の價



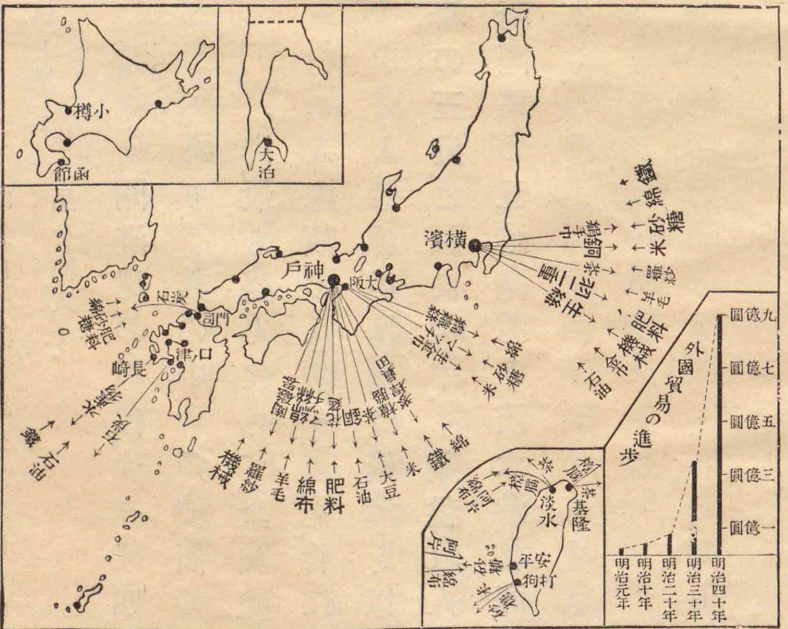
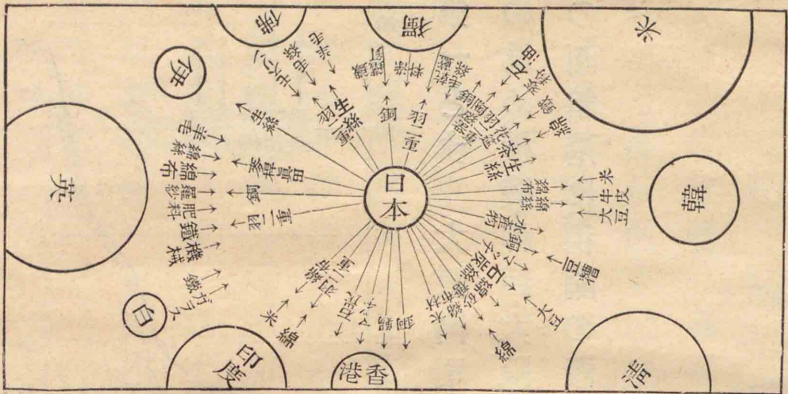
我が國は、概ね歐米に對しては、原料品を輸出して、製品を輸入し、清韓諸國

れに次ぎ、石炭・綿布・砂糖・マッチ・茶、又、これに次ぐ。輸入品の最も重要なものは、綿を第一とし、鐵・米・砂糖、これに次ぎ、機械・油・糖・羅紗・石油・綿布・金巾・更紗、又、これに次ぐ。

米國と清國とは、我が外國貿易上、最も重要な取引先なり。我が生絲と茶とは、主として、米國へ輸出し、綿は、印度・米國・清國より、石油・麥粉の多くは、米國より來る。

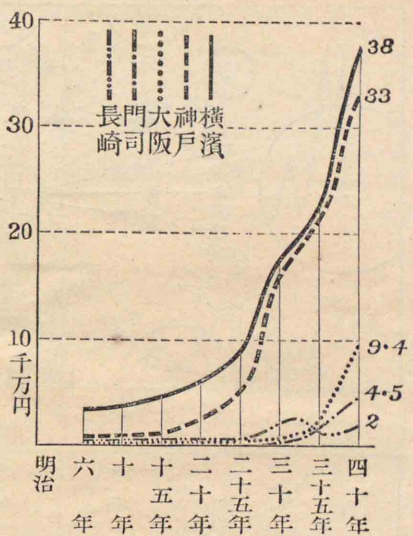
第一九九圖。輸出入主要國及び物品

第二〇〇圖。主要開港場及び物品





第二〇一圖。主要開港場の貿易額。四十一年の價額。



第一とす。大阪門司長崎の三港、これに次ぐ。關稅收入等の爲め、横濱神戸大阪長崎門司の五港、臺灣の淡水港、北海道の函館港に、稅關の設けあり。

に對しては、製品を輸出して、原料品を輸入す。

開港場の數は、すべて四十あり。其中、神戸・横濱の二港、最も盛んにして、全國輸出總額の八割を超え、特に輸入は神戸、輸出は横濱を以て

### 結論

帝國の位置。我が帝國は、四面環海の島國なれば、國民團結の力、自ら強く、古來、未だ嘗て隣國の侵害を受けずして、よく固有の發達をなせり。且、我が國は、東西兩洋の文明を融和するに、最も適當なる位置を占め、通商上、東西兩半球の咽喉に當れり。軍事上に於ては、既に、東亞の最優勝者たり。故に、我が國がよく、東洋の平和を維持し、帝國の光榮を増進し得べき位置にあることは、疑を容れず。特に、萬世一系の天皇の統治し給ふ所にして、國運の長久、國體の精華、古今東西、更に其の比を見ず。我が國民たるもの、深く意を我が國の位置如何に注ぎ、滿腔の熱心を以て、奉公の事業に従はずして可ならんや。







大日本圖書株式會社出版圖書特約販賣所

**北海道** 村上商店。川南。魁文舎。一二堂。富貴堂。**果** **果** **果** 丸善。林平。大倉。水野。青野。三友。内田。杉本。文林堂。北隆  
 館。文星堂。中西屋。東京堂。文會堂。勉強堂。二松堂。松邑。東海堂。有隣堂。十字屋。森江。**弘** **弘** **弘** 弘集堂。丸屋。勉強堂。  
**新潟縣** 北光社。高桑。覺張。野島。西村。萬松堂支店。目黒。**水** **水** **水** 水野。高野。**煥** **煥** **煥** 煥乎堂。多田屋。**茨** **茨** **茨** 茨城縣  
 明文堂。川又。寺田。**栃** **栃** **栃** 栃本縣 煥乎堂分舖。青木。**三** **三** **三** 三重縣 岩田。安屋。**茨** **茨** **茨** 茨城縣 永東。川瀬。**青** **青** **青** 青野縣 吉見。谷嶋屋。三原屋。  
 大石。**山** **山** **山** 山梨縣 柳正堂。**岐** **岐** **岐** 岐阜縣 郁文堂。郁文堂支店。**長** **長** **長** 長野縣 日新堂。水琴堂。朝陽館。西澤。盛文堂。**宮** **宮** **宮** 宮城縣 藤崎。英  
 華堂。**福** **福** **福** 福島縣 甲斐山。**廣** **廣** **廣** 廣野縣 佐藤。文明堂。**青** **青** **青** 青森縣 青霞堂。今泉。今泉支店。**山** **山** **山** 山形縣 盛文堂。牧野。八文字屋。**秋** **秋** **秋** 秋田縣  
 曙堂。東海林。藤島。**富** **富** **富** 富山縣 中田。學海堂。清明堂。**京** **京** **京** 京都府 若林。文港堂。松田。南波。**大** **大** **大** 大阪府 金川。柳原。小谷。松村。開  
 成館。寶文館。三宅。北村。今井。植田。**大** **大** **大** 大塚縣 熊谷。石田。福浦。竹内。藥師寺。西村。中井。**長** **長** **長** 長崎縣 松崎。**奈** **奈** **奈** 奈良縣 文進  
 堂。敵傍館。**廣** **廣** **廣** 廣田。**福** **福** **福** 福井縣 品川。**石** **石** **石** 石川縣 宇都宮。**島** **島** **島** 島根縣 德岡。今井。久松堂。**自** **自** **自** 自來縣 安達。川岡。板倉。**岡** **岡** **岡** 岡山縣  
 奥田。武内。**廣** **廣** **廣** 廣善館。芸香堂。原田。**山** **山** **山** 山陰縣 含英堂。梅龍堂。日新堂。日新堂支店。超世館。**和** **和** **和** 和歌山縣 平安堂。  
**德** **德** **德** 德島縣 靜壽堂。**香** **香** **香** 香川縣 開文舎。**愛** **愛** **愛** 愛媛縣 向井。土肥。足立。阿部。藤原。**高** **高** **高** 高知縣 富士越。**德** **德** **德** 德島縣 佐野。積善館。  
 博文社。金文堂。**大** **大** **大** 大分縣 甲斐。中園。梅津。**佐** **佐** **佐** 佐賀縣 牧川。平井。**長** **長** **長** 長崎縣 修進堂。谷。**吉** **吉** **吉** 吉田。金光  
**沖** **沖** **沖** 沖繩縣 小澤。**新** **新** **新** 新高堂。

南部製本







9  
81

広島大学図書  
2000014581

